2025 年度

履修案内・授業内容(シラバス)

3 年生

杏林大学医学部

目次

項目	ページ
学生諸君へ	3
履修案内・授業内容（シラバス）の配布にあたって	3
杏林大学医学部の使命	4
教育理念	4
教育目標	6
杏林大学医学部学生の到達目標	6
６年間のカリキュラムの概要（カリキュラム・マップ）	7
生涯教育	7
カリキュラムの概要	8
学年別科目等一覧	11
成績評価	12
授業時間、使用講義室	14
時間割表	15
早期体験学習Ⅲ	21
英語・医学英語Ⅲ	25
薬理学	35
病理学Ａ	40
病理学Ｂ	43
衛生学	46
免疫学	50
遺伝医学	53
臨床医学総論	56
呼吸器内科学	58
腎臓内科学	60
神経内科学・脳卒中医学	63
循環器病学	66
血液内科学	69
内分泌・代謝内科学	72
消化器内科学	75
精神神経科学	78
小児科学	80
消化器外科学	82
呼吸器・甲状腺・乳腺外科学	84
皮膚科・形成外科学	86
泌尿器科学	89
産科婦人科学	92
臨床検査医学・輸血学	96

学生諸君へ

医学部長　平形　明人

医学部は、学生が医学の基本知識を学ぶとともに、医師として社会に貢献するための行動基準や倫理観を身につける場です。

皆さんは、ともに良き医師あるいは医学者となることを目指して医学部に入学しました。そのために不可欠な学習および生活指針が書かれているのが、履修案内・授業内容（シラバス）と学生案内です。この指針に沿った授業内容は、プロフェッショナルな医師になるために必要な学習ですから、努力を惜しまずに励んでください。

医学の進歩は早く、その情報量は膨大です。良い医師になるためには、生涯にわたって学習する必要があります。知識を得るだけではなく、それを医療に応用するための教養を高めるために、自ら学ばんとする習慣、医師としての態度や価値観を養成するのが医学部教育の基本です。

講義や実習に必ず出席し、先生方から、それぞれの分野での豊かな経験に裏打ちされた生きた指導を受けることが大切です。そして、そこで提示される膨大な情報を咀嚼するためには、自ら学ぶ姿勢をもって勉学に臨むことが不可欠です。

諸君は、医師として社会に貢献したい、という強い意志を持って、本学で学ぶ決意をされたことと思います。その初心を忘れることなく、勉学に邁進してください。

履修案内・授業内容（シラバス）の配布にあたって

教務部長　柴原　純二

医師には、広い医学知識や高度な医療技術はもとより、豊かな人間性、高い倫理性が求められます。このことは、令和４年度に改訂された『医学教育モデル・コア・カリキュラム』の「医師として求められる基本的な資質・能力」にも明確に示されています。学生諸君はこの社会の要請に応えるべく、真摯な姿勢で医学の勉学に励むとともに、社会の規律を率先して守り、また、人間性を高める努力を怠ってはいけません。

医学部６年間の教科内容は医学ならびに医学周辺の自然科学領域ばかりではなく、人文科学や社会科学に至るまで、多岐にわたっています。学習量は膨大ですが、科目毎に、そして学年毎に着実に修得していけば、最終的に目標が達成されるよう、カリキュラムは構成されています。

この「履修案内・授業内容（シラバス)」は、杏林大学医学部の教育理念・教育目標と学生の到達目標を示すとともに、6 年間のカリキュラムの概要から各学年各科目の詳細な学習内容まで、整理して提示しています。ここには年間の時間割の他、教科毎の教育方針、到達目標、授業や実習の内容や日程、成績の判定評価法、教科書・参考書などが記載されています。

「履修案内・授業内容（シラバス)」の基本的な利用例は以下の通りですが、学習のよき道しるべとして、各自の工夫で使いこなしてください。

1）教育理念・教育目標、６年間の到達目標を定期的に確認し、学習の姿勢や方向性を見直す。
2）各教科の「教育の基本方針」、「到達目標」をよく読み、その授業を通して到達すべき目標を明確にする。
3）各授業や実習の前には「講義テーマ」および「講義内容」に目を通し、履修すべき内容をあらかじめ把握しておく。
4）各授業の「教科書」の該当ページを参照して予習を行うとともに、参考書等も活用して周辺領域も含めて復習する。

膨大な内容を含む学習を効率的に進めるためには、日々の予習、受講、復習の積み重ねが不可欠であることを十分認識してください。また、医師には生涯にわたる学習が求められるため、学生期間を通じて能動的学習を心掛け、「学ぶ力」を養ってください。

「履修案内・授業内容（シラバス)」を座右に置き、日々、これを活用し、学生諸君全員が無事、所期の目的を達成されることを願ってやみません。

杏林大学医学部の使命

豊かな人間性と倫理観、コミュニケーション力を基本とし、生涯にわたり医学の発展・変革に対応しうる知識・技術的基盤と、柔軟な科学的洞察力・問題解決能力を兼ね備えた良き医師・医学者を育成し、もって人類・国際社会の健康・福祉に貢献する。

教育理念

医学部の理念・目的は、「豊かな人間性の涵養と、医学の発展に対応しうる基礎的及び専門的知識の修得と臨床的技能の修練を通じて、良き医師を養成する」ことにある。

この理念の意味するところは、真理への謙虚な探究心の育成、善なる社会人の養成、そして美しい専門的技量の研磨ということである。

【学位授与の方針(ディプロマポリシー)】

医学部医学科ではその理念に基づき、卒業時点までに獲得すべき能力を以下のように定める。必要な単位取得等の卒業要件を満たし、これらの能力をすべて修得したと認められる学生に学士（医学）を授与する。

（1）医師の社会的責任

人間の尊厳と医師の職責の重大性を理解し、高い倫理観と豊かな人間性およびプロフェッショナリズムに基づき、全人的医療の担い手として誠実で責任のある行動がとれる。

（2）医学知識と技能

基本的な医学的知識及び技能を修得するとともに、医学・医療の進歩に目を向け、生涯にわたり主体性を持って自己の知識・技能を改善・発展させる意欲と素養を有する。

（3）問題解決能力・リサーチマインド

医学・医療上の課題の特定と問題の解決に必要な能力と資源の活用法を身につけ、論理的思考と科学的分析に基づいた判断を行うことができる。

（4）コミュニケーション力

多様化・国際化の進む社会において、患者・家族・医療者との良好な信頼関係の構築、さらには国内外の医学・医療関係者との交流に必要となる、外国語を含めたコミュニケーション力を有する。

（5）医学・医療と地域・社会との関わり

公衆衛生の基本的な知識及び手法を修得し、健康・福祉の増進に関して、最新の国内外の情勢に基づいて地域・国・国際社会の要請に応えることができる。

【教育課程編成・実施の方針(カリキュラムポリシー)】

医学部医学科では、卒業認定・学位授与の方針に掲げる能力などの修得のために、医学準備教育、行動科学、基礎医学、臨床医学、社会医学、外国語の 6 つの領域からなる授業科目を体系的、順次的に編成し、多様な教育方法を適切に組み合わせた授業を実施する。

（1）教育内容

（1-1）医師の社会的責任の理解

・医師の職責の理解を促し、高い倫理観と豊かな人間性を涵養するために、生命倫理や医のプロフェッショナリズムなどを教育する講義および実習を配置する。

（1-2）医学知識と技能を修得

・医学専門教育への円滑な導入を図るために、医学準備教育科目を初年次に配置する。

・現代医学の知識と技能の修得のために、行動科学、基礎医学科目と臨床医学科目の講義及び実習を体系的、順次的に配置するとともに、科目間の有機的連携をはかる。

・生涯にわたって自己の医学知識・技能を改善・発展させる意欲を涵養するために、すべての科目において生涯学習への動機づけとなる内容を取り入れる。

（1-3）問題解決能力・リサーチマインドの涵養

・医学・医療上の課題を解決する能力やリサーチマインドを涵養するために Problem-Based Learning（PBL）を行うとともに、基本的な研究手法や情報通信技術を利用した知的資源の活用法に関する内容を講義および実習に取り入れる。

（1-4）コミュニケーション能力の習得

・多様化の進む社会において、様々な人々（患者・家族、医学・医療関係者）と信頼関係を構築し、円滑に意思疎通を図るうえで必要となるコミュニケーション能力の修得のために、心理学やカウンセリングに関する内容などを取り入れた講義および実習を配置する。

・日本語以外を母語とする患者・家族との良好な信頼関係の構築や国際社会での活躍に必要となる外国語運用能力の修得のために、外国語科目を体系的、順次的に配置する。

（1-5）医学・医療と地域・社会との関わりの理解

・医学・医療と地域・社会との関わりを理解するのに必要な、公衆衛生の基本的な知識および手法の修得のために、社会医学科目を体系的、順次的に配置する。

（2）教育方法

・教育内容の修得を確実なものとするために、教育内容に応じて、講義、演習、実習、地域の医療・福祉現場における体験学習、少人数グループによる能動的学習（アクティブラーニング）などの多様な教育方法を適切に組み合わせて実施する。臨床医学科目においては、見学型の臨床実習に加えて、診療参加型の臨床実習を重点的に配置する。

教育目標

教育理念・目的実現のため、医学部は「医師の職責の重大性を理解し、高い倫理観と豊かな人間性に基づき、医師として責任ある行動ができること、医師としての基本的な医学的知識及び技能修得していること、的確かつ冷静な問題抽出・解決能力を備えていること、患者・家族との信頼関係の構築とともに、医療チームの一員としての役割を果たすために必要なコミュニケーション能力を身につけていること、公衆衛生や医療制度など社会と医師との関わりを理解していること」を教育目標と定める。医学部学生は卒業までにこの目標に到達することが求められる。

杏林大学医学部学生の到達目標

教育理念と学位授与の方針に基づき、杏林大学医学部の学生は、卒業までに以下の能力・態度を身につけることを目標とする。

（1）医師の社会的責任

①医師・医学研究者としてふさわしい価値観を身につける。
②医師・医学研究者に求められる倫理と法的責任を認識する。
③安全な医療を行う姿勢を身につけ、そのために必要な知識、技能を修得する。
④同僚や他の職種の人たちと協調する態度を身につける。

（2）医学知識と技能

①人体の正常の構造と機能を理解する。
②主要疾患の病態生理と自然歴を理解する。
③薬物治療の原則と、個々の薬物の作用を理解する。
④主要疾患の治療法を理解する。
⑤心理的、社会的側面を含む適切な病歴聴取が行える。
⑥基本的な身体診察が行える。
⑦基本的な心肺蘇生術（basic life support）が行える。
⑧病歴と身体診察の所見から問題点を抽出し、根拠（evidence）に基づく解決法を示すことができる。
⑨患者の問題解決のための人的資源、診断手段、治療手段、医療・保健施設、社会制度について理解する。
⑩カンファランス、回診において適切な症例呈示が行える。
⑪適切な医療記録を作成するための基本的原理を理解する。

（3）問題解決能力とリサーチマインド

①適切な情報源にアクセスして必要な情報を収集することができる。
②様々な情報源から得られた情報に基づき、科学的思考によって問題解決を図る能力を身につける。
③批判的思考と研究的な態度を身につける。
④基本的な医学研究のプロセス（課題・仮説の設定、研究方法の設定、調査・実験の実施、結果の考察、論文の作成）を理解する。
⑤自律的で、適切な自己評価に基づいて生涯学び続ける態度と能力を身につける。

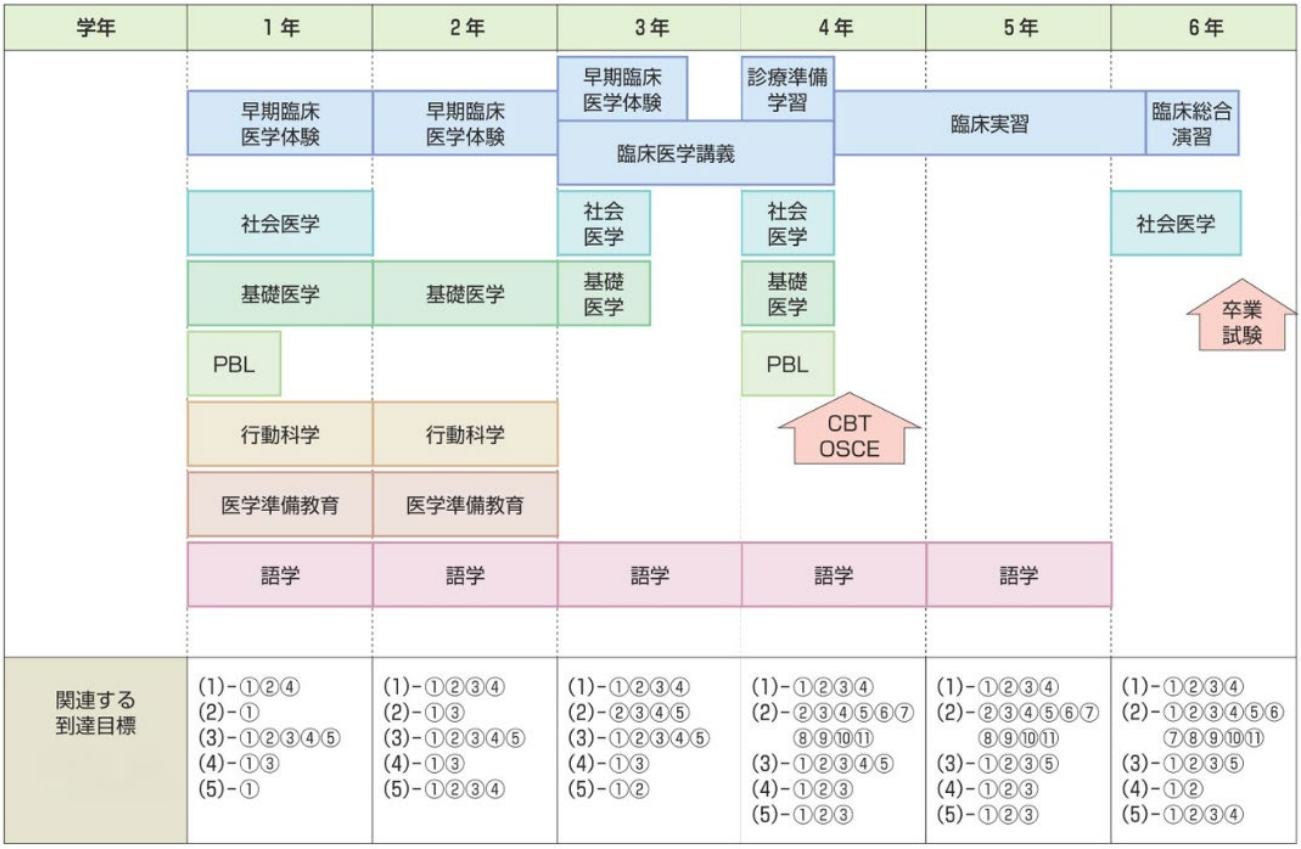
（4）コミュニケーション能力

①患者、家族、同僚、他職種の人たちと良好な人間関係を築くための基本的なコミュニケーション能力を身につける。
②患者、家族の文化的、宗教的、個人的背景に配慮して行動できる。
③診療・研究に必要な英語運用能力を身につける。

（5）医学・医療と地域・社会との関わり

①健康状態に影響するライフスタイル、遺伝、人口統計、環境、社会、経済、心理、文化の各因子について理解する。
②わが国の医療・保健制度および医療経済について理解する。
③個人あるいは地域・職域において健康を維持し疾病を予防する方策を示すことができる。
④健康問題や疾病の予防について地球規模の視野に立って理解する。

６年間のカリキュラムの概要（カリキュラム・マップ）



生涯教育

カリキュラムの概要

杏林大学医学部のカリキュラムは、カリキュラムポリシーにのっとり、豊かな人間性の涵養および医師に求められる専門的知識と技能の修得、さらには医学の発展に対応しうる総合的判断能力の育成を目的として、諸科目を有機的に配置している。汎用的能力を育むため、各科目において学修者の能動的参加を取り入れた授業・実習法（アクティブ・ラーニング）を積極的に採用している。

以下に、学年毎の概要および学習指針を示す。

第１学年（Ｍ１）

高校時代に学習した物理、生物、化学などの基礎科学の知識を発展させ、医学物理学、生物学、生体化学、医学統計学など、医学にかかわる科学の基礎知識を学習する。

同時に、医師に求められる基本的姿勢および知識を学ぶ。とくに「行動科学Ⅰ」、「生命倫理と医療安全」などの講義や、体験学習入門、病院体験学習、患者体験学習の 3 つのプログラムで構成される「早期体験学習Ⅰ」を通して、社会が医師に求める姿勢・態度、そして患者から期待される医師像や医療のあり方を学習し、医学生として相応しい価値観や態度を身につける。

体験学習入門では、能動的にチームで協働して多角的に学ぶ難しさと大切さを理解する。病院体験学習（early clinical exposure）は、配属される診療科で医療の実際を体感することを通して、医師の役割を理解し、医学生としての自覚を新たにする。患者体験学習では、OSCE（客観的臨床能力試験）での患者体験により、患者の立場や感情について体験的に学ぶと同時に、将来求められる医学生としての能力を理解する。

チュートリアル教育は、「与えられた課題からその背後に存在する問題、追求すべき問題点を見出し、必要な情報・資料を検索しつつ、解決に至る道筋を自ら見出す能力を育成する」ことを目的とした教育である。将来、医療の現場で様々な問題に遭遇した際、日々進歩する膨大な医学知識の中から適切な情報を抽出し、これを解決してゆくための方策を学ぶ。

基礎医学については、分子生物学、代謝生化学、肉眼解剖学の講義が始まる。人体の構造の理解を目指す解剖学や生命現象の根源にせまる分子生物学・代謝生化学を学習することは、医学の基本的知識習得の第一歩を踏み出すことになる。

英語によるコミュニケーション能力は、医師はもとより、国際化の進んだ現代の社会人には、将来の活躍する世界を広げるために不可欠である。その重要性に鑑み、学生を能力別に 30 人前後の小グループに分け、それぞれの実力に合った演習型の講義を行うこととしている。

全学部共通の教養科目の「保健・医療の現状と未来Ⅰ」は医学部では必修であるが、これ以外に他学部が実施する社会学科目「社会と大学Ⅰ～Ⅲ」が自由選択科目として設置され、履修可能となっている。

良き医師になるためには、これらの人文系の学問について学び、人間としての幅を広げることもきわめて重要である。総合大学の医学部に学ぶメリットを生かし、ぜひこれら他学部の教養科目についても積極的に履修してほしい。

第２学年（Ｍ２）

将来医師となるための土台となる基礎医学を学ぶ上で重要な学年である。解剖学（肉眼解剖学及び組織解剖学）、統合生理学、病態生理学、細胞生物学、基礎感染症学、熱帯病・寄生虫学、病理学 A などの基礎医学科目を学び、同時に実習が行われる。これらの科目は人体の構造と機能や異常の発生を理解する上できわめて重要なものであり、一部には臨床的内容も含まれる。多くの学生から、「臨床医学に進んで、はじめて基礎科目の重要性を認識した」との声を聞くが、学年が進んでからこれらの科目を一から学びなおすことにはかなりの困難を伴う。生涯学習の土台となる重要な学年であることを自覚し、基礎医学科目の徹底した修得を目指してほしい。

「行動科学Ⅱ」、「早期体験学習Ⅱ」、「人文・生命科学特論」などの講義や体験学習を通して、ヒトの多様なあり方を理解し、医師に求められる人間性や倫理性を身につける。「行動科学Ⅱ」では、医療安全、カウンセリング、生命・医療倫理、コミュニケーション、多様性などについて学習する。身体診察入門、地域体験学習、病院体験学習の 3 つのプログラムで構成される「早期体験学習Ⅱ」では、身体診察に必要となる基本的な技能の習得、地域の福祉施設や病院での体験学習を通して、医学生としての自覚を高める。

また、「保健・医療の現状と未来Ⅱ」では、臨床医学の最先端の話題に触れ、臨床医学への関心を高めるとともに、基礎医学の学習との関連を学ぶ。

なお第 1 学年に引き続き、英語に関しては、学生を能力別に 30 人前後の小グループに分け、それぞれの実力に合った演習型の講義を行うこととしている。

第３学年（Ｍ３）

薬理学、病理学、免疫学、遺伝医学などの基礎医学科目が配置されている。これら科目の学習には臨床的内容も多く含まれる。さらに社会と医学を結ぶ科目として衛生学を学習する。また、臨床系科目の学習が開始され、臨床医学総論、臨床検査医学・輸血学、消化器内科学、消化器外科学、循環器病学、呼吸器内科学、内分泌・代謝内科学、神経内科学・脳卒中医学、血液内科学、腎臓内科学、呼吸器・甲状腺・乳腺外科学、産科婦人科学、小児科学、精神神経科学、泌尿器科学、皮膚科・形成外科学の各科目の講義が行われる。循環器病学は循環器内科学と心臓血管外科学を中心とし、関連する教室からの講義を組み合わせた統合型となっている。他の科目も必要に応じて教室の壁を越えて適切なテーマと講義担当者を配置している。

科目数の多い学年であるが、やみくもに知識を詰め込むのではなく、それまでに学んだ基礎生命科学や基礎医学の知識を臨床医学の知識と関連づけ、「なぜそうなるのか」ということを良く理解することが、臨床の現場で応用可能なしっかりした知識体系を修得する上で重要である。

身体診察入門、地域・病院体験学習の 2 つのプログラムで構成される「早期体験学習Ⅲ」では、M4 から開始される臨床実習につながる技能、態度を身につける。

その他、必修科目として医学英語が行われる。

第４学年（Ｍ４）

第 3 学年から始まった臨床医学の講義が引き続き行われる。
高齢医学、リウマチ膠原病学、小児外科学、救急医学、脳神経外科学・脳卒中医学、整形外科・リハビリテーション医学、眼科学、耳鼻咽喉科学、放射線医学・放射線腫瘍学、麻酔科学、腫瘍学、感染症学、生活習慣病学などが含まれる。臨床医学に関する系統的な知識の修得は、臨床実習に際して不可欠であり、実地臨床への第 1 歩という認識のもとに学習して欲しい。

また、臨床実習に備え、診断能力と基本的な臨床技能を身につけるための臨床診断学講義および実習が行われる。実習は小グループで、各テーマをローテートして行われる。

その他、和漢医学概論、法医学、臨床医学的な内容を課題としたチュートリアル教育、必修科目としての医学英語が行われる。

後期には臨床実習（Bed Side Learning,　BSL）が開始されることになる。臨床実習に先だって、これまでに学んだ基礎、臨床、社会医学の知識と基本的な臨床技能に関して、公的化された共用試験（コンピュータ試験 CBT と基本的臨床技能試験 OSCE）による評価を受ける。共用試験に合格することは臨床実習履修の要件である。BSL は、これまでに修得した医学知識を、実地臨床に応用する能力の育成が目的であり、ほぼ 1 年間にわたって小グループで各科を順次ローテートして行われる。医学生が、実際の患者に対応する最初の経験であり、臨床医としての姿勢の基本がこの時点で形成されるといっても過言ではない。生涯の理想の医師像を目指す第一歩に相応しい態度で臨んでいただきたい。

BSL においては、医師を志す者として、身だしなみや言葉遣いはもとより、時間厳守、守秘義務などにも十分注意するとともに、病院内は公共の場であることを認識し、私物の持ち込みは最低限にするべきである。また、ひとたび院内感染が発生すると患者のみならず病院機能に甚大な影響を与えることから、感染防御の徹底は臨床実習において不可欠な姿勢であり、必要に応じシミュレーション教育を行うことでその習得を目指す。

なお、第 1～4 学年で学んだ医学英語から進んで、さらに高度な英語力を身につけたいと希望する学生や、第 6 学年で海外でのクリニカルクラークシップ実習を希望する学生等を対象にした「英語・医学英語Ⅴ」を選択科目として設定している。

第５学年（Ｍ５）

M4 後期に引き続き、臨床実習が主体となる。当学年では、ローテート型の BSL の後に、診療参加型実習をさらに発展させたクリニカルクラークシップが学内・学外医療機関で実施される。クリニカルクラークシップにおいては、自らが担当する患者の担当医になったつもりで病歴を聴取し、課題を解決するための検討を積極的に行う。これまでに修得した医学知識を応用する場であるが、積極的に臨床実習の課題や疑問を解決していかないと、学生間で知識量などに大きく差が開くのもこの時期である。系統だった知識が足りないと感じたら、M4 までに学習した科目を復習し、各科目をローテートしているときに各科の先生に自ら質問し、知識を確実なものにするように心がけて、医師として生涯学習を行うための良い習慣を身につけていただきたい。

なお、M4 と同様であるが、臨床実習においては身だしなみ、言葉遣い、携帯品、時間厳守、守秘義務にも十分注意する。また、感染防御策の習得も肝要であり、そのために必要なシミュレーション教育を行う。

第６学年（Ｍ６）

最終学年は、卒業に向けて全科目の総仕上げと、卒後臨床研修への円滑な導入のための準備に当てられる。医学部で学習する知識量は莫大であり、直前数ヶ月の学習で、卒業試験や医師国家試験に合格することは困難である。一日一日の積み重ねで知識を整理するように心がけてほしい。

先ず 6 学年の医学知識の総まとめとなる臨床総合演習と公衆衛生学の講義が行われる。総合試験Ⅰ期の後、クリニカルクラークシップが M5 に引き続き行われる。学内もしくは学外（海外を含む）の医療機関で計 12 週間の実習に臨む。クリニカルクラークシップ終了後、臨床総合演習と公衆衛生学の講義が引き続き行われる。総合試験Ⅰ期の成績下位者を対象に補講が行われる。

良き医師への最終段階として、6 年間に学んだ医学知識・技能・態度の最終確認に日夜専心して欲しい。

学習すべき項目の全てが講義や実習で網羅されるわけではなく、大学での学習では自学自習が基本となる。それぞれの科目で教科書が指定されており、講義予定表には各講義に関連する教科書のページも記載されている。また、教科書以外にも参考書や WEB 上の教育リソース等が網羅的に示されている。これらを活用して予習・復習に取組んでいただきたい。

※各科目に関する質問事項は、各教室（科）教育委員に問い合わせること。

※下記 URL のリンク先より、「医学教育モデル・コア・カリキュラム」及び「医師国家試験出題基準」が閲覧できるため、各自参照すること。

医学教育モデル・コア・カリキュラム

https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/iryou/mext_00005.html

医師国家試験出題基準

https://www.mhlw.go.jp/stf/shingi2/0000128981_00001.html

学年別科目等一覧

学年	分科	授業科目等
1年	科学と医療	情報科学、行動科学Ⅰ、生命倫理と医療安全、早期体験学習Ⅰ、生物学（入門生物学、生物学）、生体化学（入門化学、生体化学）、医学物理学（入門物理学、医学物理学）、プレチュートリアル、医学統計学
	人体の構造	肉眼解剖学Ⅰ
	人体の機能	分子生物学、代謝生化学
	臨床医学	保健・医療の現状と未来Ⅰ
	外国語	英語・医学英語Ⅰ、実践英語Ⅰ ＊第二外国語Ⅰ（ドイツ語Ⅰ、フランス語Ⅰ、中国語Ⅰ）
	社会科学	＊社会と大学Ⅰ、社会と大学Ⅱ、社会と大学Ⅲ
2年	科学と医療	行動科学Ⅱ、早期体験学習Ⅱ、人文・生命科学特論
	人体の構造	肉眼解剖学Ⅱ、組織解剖学
	人体の機能	統合生理学、病態生理学、細胞生物学
	異常の発生と制御	基礎感染症学、熱帯病・寄生虫学、病理学Ａ
	臨床医学	保健・医療の現状と未来Ⅱ
	外国語	英語・医学英語Ⅱ ＊実践英語Ⅱ、第二外国語Ⅱ（ドイツ語Ⅱ、フランス語Ⅱ、中国語Ⅱ）
3年	科学と医療	早期体験学習Ⅲ
	異常の発生と制御	免疫学、遺伝医学、薬理学、病理学Ａ、病理学Ｂ、衛生学
	臨床医学	臨床医学総論、臨床検査医学・輸血学、消化器内科学、消化器外科学、循環器病学、呼吸器内科学、内分泌・代謝内科学、呼吸器・甲状腺・乳腺外科学、神経内科学・脳卒中医学、血液内科学、腎臓内科学、産科婦人科学、小児科学、精神神経科学、泌尿器科学、皮膚科・形成外科学
	外国語	英語・医学英語Ⅲ
4年	科学と医療	和漢医学概論
	異常の発生と制御	法医学
	臨床医学	リウマチ膠原病学、高齢医学、小児外科学、救急医学、脳神経外科学・脳卒中医学、整形外科・リハビリテーション医学、眼科学、耳鼻咽喉科学、放射線医学・放射線腫瘍学、麻酔科学、腫瘍学、臨床感染症学、生活習慣病学、臨床診断学
	グループ実習	ＢＳＬ
	応用実習	チュートリアル
	外国語	英語・医学英語Ⅳ
5年	グループ実習	ＢＳＬ
	応用実習	クリニカルクラークシップ（臨床応用実習）Ａ
	外国語	＊英語・医学英語Ⅴ
6年	科学と医療	公衆衛生学
	臨床医学	臨床総合演習
	応用実習	クリニカルクラークシップ（臨床応用実習）Ｂ
＊印 ： 自由選択科目		

成績評価

第１学年（Ｍ１）

１）各履修科目について、前期定期試験（夏休み前）および／または学年末定期試験（学年末）を行う。再試験については、学年末のみに行う科目、前期及び学年末に行う科目がある。前期のみで履修が完了する科目の再試験は学年末に行う。

２）各履修科目の最終成績は、定期試験・再試験の成績のほかに、小テスト等の成績、実習の評価、履修態度等を総合的に評価して決定する。試験を実施しない科目については、各科目のシラバスに記載された方法で最終成績を決定する。

３）各科目の最終成績が 60 点以上であることが進級の必須条件である。

４）進級判定については、定期試験の成績（各科目の成績に加え、全科目の平均点、および追再試験を受けた場合は本試験や追再試験の成績も含む)、履修態度（出席率など）等も含めて総合的に行う。

第２学年（Ｍ２）

１）各履修科目について、前期定期試験（夏休み前）および／または学年末定期試験（学年末）を行う。再試験については、学年末のみに行う科目、前期及び学年末に行う科目がある。前期のみで履修が完了する科目の再試験は学年末に行う。

２）各履修科目の最終成績は、定期試験・再試験の成績のほかに、小テスト等の成績、実習の評価、履修態度等を総合的に評価して決定する。試験を実施しない科目については、各科目のシラバスに記載された方法で最終成績を決定する。

３）各科目の最終成績が 60 点以上であることが進級の必須条件である。

４）進級判定については、定期試験の成績（各科目の成績に加え、全科目の平均点、および追再試験を受けた場合は本試験や追再試験の成績も含む)、履修態度（出席率など）等も含めて総合的に行う。

第３学年（Ｍ３）

１）各履修科目について、前期定期試験（夏休み前）または学年末定期試験（学年末）を行う。前期及び学年末定期試験の再試験は、学年末に一括して行う。

２）各履修科目の最終成績は、定期試験・再試験の成績のほかに、小テスト・確認テスト等の成績、実習の評価、履修態度等を総合的に評価して決定する。試験を実施しない科目については、各科目のシラバスに記載された方法で最終成績を決定する。

３）各科目の最終成績が 60 点以上であることが進級の必須条件である。

４）進級判定については、定期試験の成績（各科目の成績に加え、全科目の平均点、および追再試験を受けた場合は本試験や追再試験の成績も含む)、確認テストの成績、履修態度（出席率など）等も含めて総合的に行う。

第４学年（Ｍ４）

１）各履修科目について、夏休み後に定期試験および再試験を行う。

２）夏休み後に共用試験（コンピュータ試験 CBT と実技試験 OSCE）およびその再試験を行う。CBT は全国共通の基準で合否判定が行われる。OSCE は臨床技能・態度についての評価に基づき、合否判定が行われる。

３）BSL を履修するための成績判定は、共用試験の成績、定期試験の成績（各科目の成績に加え、全科目の平均点、および追再試験を受けた場合は本試験や追再試験の成績も含む)、確認テストの成績、履修態度（出席率など）等も含めて総合的に行う（不合格の場合の M4 後半の履修については別途定める)。

４）各科の BSL については、指導医による観察記録、レポート、試問などにより、各科毎にＳ、Ａ、Ｂ、Ｃ、Ｄ（Ｄは不合格）の 5 段階で評価する。詳細はシラバスの「臨床実習（BSL）について」の中のＶ．評価の項を参照のこと。なお、評価方法や点数配分は各科により異なるので、各科の項も併せ参照のこと。

５）進級の判定は、共用試験の成績、定期試験の成績（各科目の成績に加え、全科目の平均点、および追再試験を受けた場合は本試験や追再試験の成績も含む)、各科の BSL の評価、確認テストの成績、履修態度（出席率など）等も含めて総合的に行う。

第５学年（Ｍ５）

１）各科の BSL については、指導医による観察記録、レポート、試問などにより、各科毎にＳ、Ａ、Ｂ、Ｃ、Ｄ（Ｄは不合格）の 5 段階で評価する。詳細はシラバスの「臨床実習（BSL）について」の中のＶ．評価の項を参照のこと。なお、評価方法や点数配分は各科により異なるので、各科の項も併せ参照のこと。

２）総合試験を第Ⅰ期（前期）と第Ⅱ期（後期）の 2 回に分けて行い、第Ⅰ期には再試験の機会を設ける。総合試験の成績の判定には第Ⅰ期の成績を 20%、第Ⅱ期の成績を 80%として合算した値を用いる。形式、内容、合否判定の詳細については〈M5 総合試験に関する内規〉を参照のこと。

３）クリニカルクラークシップの履修内容は、BSL の全体成績、履修態度等を含めて総合的に判断する（クリニカルクラークシップへの参加が適切でないと判断した場合、M5 後半の履修については別途定める）。

４）クリニカルクラークシップは、Ｓ、Ａ、Ｂ、Ｃ、Ｄ（Ｄは不合格）の 5 段階で総合評価する。

５）進級の判定は、総合試験の成績（追再試験を受けた場合は本試験や追再試験の成績も含む）、各科の BSL の評価、履修態度（出席率など）等も含めて総合的に行う。

第６学年（Ｍ６）

１）総合試験（卒業試験）を第Ⅰ期（前期）と第Ⅱ期（後期）の 2 回に分けて行う。成績の判定には第Ⅰ期の成績を 20%、第Ⅱ期の成績を 80%として合算した値を用いる。総合試験の形式、内容、合否判定については〈M6 総合試験に関する内規〉を参照のこと。

２）公衆衛生学は、講義の終了後に定期試験および再試験を行う。60 点以上を合格とする。

３）共用試験である OSCE を夏休み後に行う。再試験は総合試験第Ⅰ期終了後に行う。臨床技能・態度についての評価に基づき、合格もしくは不合格の判定を行う。

４）クリニカルクラークシップは、Ｓ、Ａ、Ｂ、Ｃ、Ｄ（Ｄは不合格）の 5 段階で評価する。

５）卒業には、総合試験、公衆衛生学、OSCE、クリニカルクラークシップのいずれにも合格する必要がある。追再試験を受けた場合は本試験や追再試験の成績も考慮する。さらに、講義の出席率や履修態度なども含めて総合的に評価する。

＜共通＞

１）再試験で合格となった科目がある場合、本試験における各科目の成績の状況は、進級判定における重要な要素となるので、本試験において最良の結果を出せるよう試験前には常に計画的に学習を行うこと。

２）小テスト、確認テスト等については、試験後に可能な限りフィードバック（形成的評価）を行うので、以後の学習に役立てること。

３）詳細はシラバスの各科目別の項に記載してあるので、確認しておくこと。

授業時間

時限	授業時間
1 時限目	9:30 ～ 10:45
2 時限目	11:00 ～ 12:15
3 時限目	13:15 ～ 14:30
4 時限目	14:45 ～ 16:00
5 時限目	16:15 ～ 17:30

使用講義室

学年	使用講義室
M1	医学部講義棟 A　4 階　401
M2	医学部講義棟 A　4 階　402
M3	医学部講義棟 A　5 階　501
M4	医学部講義棟 A　5 階　502
M5	臨床実習中のため、主な使用講義室はなし
M6	医学部講義棟 A　6 階　601

2025年度 M3 時間割表

月日	曜日	祝日・行事等	1時限目(9:30~10:45)	2時限目(11:00~12:15)	3時限目(13:15~14:30)	4時限目(14:45~16:00)	5時限目(16:15~17:30)
4月1日	火	前期授業開始・オリエンテーション	オリエンテーション①	オリエンテーション②	臨床検査医学・輸血学	神経内科学・脳卒中医学	遺伝医学
4月2日	水		病理学Ａ	病理学Ａ	神経内科学・脳卒中医学	臨床医学総論	遺伝医学
4月3日	木		英語・医学英語Ⅲ	薬理学	薬理学	遺伝医学	
4月4日	金		病理学Ａ		免疫学	臨床検査医学・輸血学	消化器内科学
4月5日	土						
4月6日	日						
4月7日	月		薬理学	薬理学		免疫学	消化器内科学
4月8日	火		衛生学	衛生学	臨床検査医学・輸血学	薬理学	薬理学
4月9日	水		病理学Ａ	病理学Ａ実習	病理学Ａ	病理学Ａ	
4月10日	木		英語・医学英語Ⅲ	薬理学	臨床医学総論	薬理学	薬理学
4月11日	金		病理学Ａ	薬理学	神経内科学・脳卒中医学	薬理学	消化器内科学
4月12日	土						
4月13日	日						
4月14日	月		薬理学実習	薬理学実習	薬理学実習	薬理学実習	薬理学実習
4月15日	火		薬理学実習	薬理学実習	薬理学実習	薬理学実習	薬理学実習
4月16日	水		薬理学実習	薬理学実習	薬理学実習	薬理学実習	薬理学実習
4月17日	木	**健康診断**	薬理学実習	薬理学実習	薬理学実習	薬理学実習	薬理学実習
4月18日	金		薬理学実習	薬理学実習	薬理学実習	薬理学実習	薬理学実習
4月19日	土						
4月20日	日						
4月21日	月	SCSキックオフミーティング	薬理学	薬理学	免疫学	神経内科学・脳卒中医学	神経内科学・脳卒中医学
4月22日	火	SCSキックオフミーティング	衛生学	衛生学	臨床検査医学・輸血学	臨床検査医学・輸血学	消化器内科学
4月23日	水	SCSキックオフミーティング	病理学Ａ	病理学Ａ	病理学Ａ	臨床医学総論	遺伝医学
4月24日	木	SCSキックオフミーティング	英語・医学英語Ⅲ	薬理学	臨床検査医学・輸血学	神経内科学・脳卒中医学	遺伝医学
4月25日	金	SCSキックオフミーティング	病理学Ａ	薬理学	臨床医学総論	病理学Ａ	病理学Ａ実習
4月26日	土						
4月27日	日						
4月28日	月		遺伝医学	衛生学	臨床医学総論	早期体験学習Ⅲ	
4月29日	火	**昭和の日**					
4月30日	水		衛生学	衛生学	薬理学	神経内科学・脳卒中医学	神経内科学・脳卒中医学
5月1日	木						
5月2日	金						
5月3日	土	**憲法記念日**					
5月4日	日	**みどりの日**					
5月5日	月	**こどもの日**					
5月6日	火	**振替休日**					
5月7日	水		臨床医学総論	薬理学	臨床医学総論	臨床医学総論	病理学Ａ実習
5月8日	木		英語・医学英語Ⅲ	薬理学	消化器外科学	消化器外科学	神経内科学・脳卒中医学
5月9日	金			薬理学	消化器外科学	免疫学	免疫学
5月10日	土						
5月11日	日						
5月12日	月		薬理学	薬理学	遺伝医学	消化器内科学	
5月13日	火		衛生学	衛生学	消化器外科学	消化器外科学	消化器外科学
5月14日	水		病理学Ａ	病理学Ａ	神経内科学・脳卒中医学	臨床医学総論	消化器内科学
5月15日	木		英語・医学英語Ⅲ	薬理学	消化器内科学		遺伝医学
5月16日	金		薬理学	薬理学	臨床医学総論	免疫学	
5月17日	土						
5月18日	日						
5月19日	月		薬理学	薬理学	臨床医学総論		神経内科学・脳卒中医学
5月20日	火		衛生学	衛生学			
5月21日	水		病理学Ａ	病理学Ａ		免疫学	
5月22日	木		英語・医学英語Ⅲ	薬理学	臨床検査医学・輸血学		
5月23日	金	**健康診断**		薬理学	健康診断	健康診断	健康診断
5月24日	土						
5月25日	日						
5月26日	月		薬理学	薬理学	神経内科学・脳卒中医学	臨床医学総論	
5月27日	火		衛生学	衛生学	消化器内科学	消化器外科学	消化器内科学
5月28日	水		病理学Ａ実習	病理学Ａ	病理学Ａ	消化器外科学	消化器内科学
5月29日	木		英語・医学英語Ⅲ	薬理学	薬理学	消化器内科学	―
5月30日	金		消化器内科学	薬理学	薬理学		
5月31日	土						

2025年度 M3 時間割表

月日	曜日	祝日・行事等	1時限目(9:30~10:45)	2時限目(11:00~12:15)	3時限目(13:15~14:30)	4時限目(14:45~16:00)	5時限目(16:15~17:30)
6月1日	日						
6月2日	月		薬理学	薬理学	遺伝医学	臨床検査医学・輸血学	臨床医学総論
6月3日	火		衛生学	衛生学	免疫学	臨床検査医学・輸血学	
6月4日	水		病理学Ａ	病理学Ａ	病理学Ａ	神経内科学・脳卒中医学	消化器内科学
6月5日	木		英語・医学英語Ⅲ	薬理学		臨床検査医学・輸血学	
6月6日	金		消化器内科学		神経内科学・脳卒中医学		
6月7日	土						
6月8日	日						
6月9日	月			衛生学	免疫学	臨床医学総論	消化器外科学
6月10日	火		衛生学	衛生学		神経内科学・脳卒中医学	神経内科学・脳卒中医学
6月11日	水		病理学Ａ	病理学Ａ	神経内科学・脳卒中医学	神経内科学・脳卒中医学	消化器内科学
6月12日	木		英語・医学英語Ⅲ	衛生学			
6月13日	金		衛生学	衛生学	免疫学	消化器内科学	―
6月14日	土						
6月15日	日						
6月16日	月		臨床検査医学・輸血学	衛生学		臨床検査医学・輸血学	
6月17日	火		神経内科学・脳卒中医学	消化器外科学		神経内科学・脳卒中医学	神経内科学・脳卒中医学
6月18日	水		病理学Ａ実習	病理学Ａ実習		消化器外科学	
6月19日	木		英語・医学英語Ⅲ	衛生学	消化器外科学	消化器内科学	
6月20日	金			衛生学		消化器外科学	消化器内科学
6月21日	土						
6月22日	日						
6月23日	月		確認テスト（1回目）	消化器内科学	遺伝医学	衛生学	衛生学
6月24日	火			衛生学	遺伝医学	消化器内科学	遺伝医学
6月25日	水				神経内科学・脳卒中医学	神経内科学・脳卒中医学	
6月26日	木		英語・医学英語Ⅲ	衛生学		衛生学	衛生学
6月27日	金			神経内科学・脳卒中医学			
6月28日	土						
6月29日	日						
6月30日	月		消化器内科学	消化器内科学	衛生学実習	衛生学実習	
7月1日	火		衛生学実習	衛生学実習	消化器内科学	消化器内科学	
7月2日	水			早期体験学習Ⅲ	衛生学実習	衛生学実習	
7月3日	木		英語・医学英語Ⅲ				
7月4日	金	**前期授業終了**					
7月5日	土						
7月6日	日						
7月7日	月	**自習期間**					
7月8日	火	**自習期間**					
7月9日	水	**自習期間**					
7月10日	木	**自習期間**					
7月11日	金	**自習期間**					
7月12日	土						
7月13日	日						
7月14日	月	**前期定期試験期間**					
7月15日	火	**前期定期試験期間**					
7月16日	水	**前期定期試験期間**					
7月17日	木	**前期定期試験期間**					
7月18日	金	**前期定期試験期間**					
7月19日	土	**前期定期試験期間**					
7月20日	日						
7月21日	月	**海の日**					
7月22日	火	**前期定期試験期間**					
7月23日	水	**前期定期試験期間**					
7月24日	木	**前期定期試験期間**					
7月25日	金	**前期定期試験期間**					
7月26日	土	**前期定期試験期間**					
7月27日	日						
7月28日	月	**夏季休業期間**					
7月29日	火	**夏季休業期間**					
7月30日	水	**夏季休業期間**					
7月31日	木	**夏季休業期間**					

2025年度 M3 時間割表

月日	曜日	祝日・行事等	1時限目(9:30~10:45)	2時限目(11:00~12:15)	3時限目(13:15~14:30)	4時限目(14:45~16:00)	5時限目(16:15~17:30)
8月1日	金	**夏季休業期間**					
8月2日	土						
8月3日	日						
8月4日	月	**夏季休業期間**					
8月5日	火	**夏季休業期間**					
8月6日	水	**夏季休業期間**					
8月7日	木	**夏季休業期間**					
8月8日	金	**夏季休業期間**					
8月9日	土						
8月10日	日						
8月11日	月	**山の日**					
8月12日	火	**夏季休業期間**					
8月13日	水	**夏季休業期間**					
8月14日	木	**夏季休業期間**					
8月15日	金	**夏季休業期間**					
8月16日	土						
8月17日	日						
8月18日	月	**夏季休業期間**					
8月19日	火	**夏季休業期間**					
8月20日	水	**夏季休業期間**					
8月21日	木	**夏季休業期間**					
8月22日	金	**夏季休業期間**					
8月23日	土						
8月24日	日						
8月25日	月	**後期授業開始**	薬理学定期試験	薬理学定期試験	―	―	―
8月26日	火		小児科学	産科婦人科学	循環器病学	免疫学	腎臓内科学
8月27日	水		病理学Ｂ	病理学Ｂ	病理学Ｂ	泌尿器科学	呼吸器内科学
8月28日	木		英語・医学英語Ⅲ		泌尿器科学	循環器病学	
8月29日	金		早期体験学習Ⅲ	早期体験学習Ⅲ	早期体験学習Ⅲ	早期体験学習Ⅲ	早期体験学習Ⅲ
8月30日	土						
8月31日	日						
9月1日	月		内分泌・代謝内科学	皮膚科・形成外科学	内分泌・代謝内科学	皮膚科・形成外科学	産科婦人科学
9月2日	火		呼吸器・甲状腺・乳腺外科学	産科婦人科学	呼吸器内科学	循環器病学	腎臓内科学
9月3日	水		病理学Ｂ	病理学Ｂ	血液内科学	泌尿器科学	泌尿器科学
9月4日	木		英語・医学英語Ⅲ			腎臓内科学	内分泌・代謝内科学
9月5日	金		病理学Ｂ	内分泌・代謝内科学	産科婦人科学	血液内科学	産科婦人科学
9月6日	土		早期体験学習Ⅲ実習(A班)	早期体験学習Ⅲ実習(A班)	早期体験学習Ⅲ実習(A班)	早期体験学習Ⅲ実習(A班)	
9月7日	日						
9月8日	月		内分泌・代謝内科学	内分泌・代謝内科学	呼吸器・甲状腺・乳腺外科学	小児科学	
9月9日	火		小児科学	血液内科学	病理学Ｂ	呼吸器内科学	病理学Ｂ
9月10日	水		小児科学	精神神経科学	病理学Ｂ	循環器病学	循環器病学
9月11日	木		英語・医学英語Ⅲ		呼吸器・甲状腺・乳腺外科学	腎臓内科学	腎臓内科学
9月12日	金		小児科学	内分泌・代謝内科学	呼吸器・甲状腺・乳腺外科学	泌尿器科学	血液内科学
9月13日	土		早期体験学習Ⅲ実習(B班)	早期体験学習Ⅲ実習(B班)	早期体験学習Ⅲ実習(B班)	早期体験学習Ⅲ実習(B班)	
9月14日	日						
9月15日	月	**敬老の日**					
9月16日	火		血液内科学	腎臓内科学	循環器病学	病理学Ｂ	循環器病学
9月17日	水		精神神経科学	精神神経科学	呼吸器内科学		血液内科学
9月18日	木		英語・医学英語Ⅲ	呼吸器内科学		呼吸器・甲状腺・乳腺外科学	腎臓内科学
9月19日	金		小児科学	循環器病学	内分泌・代謝内科学	腎臓内科学	
9月20日	土		早期体験学習Ⅲ実習(C班)	早期体験学習Ⅲ実習(C班)	早期体験学習Ⅲ実習(C班)	早期体験学習Ⅲ実習(C班)	
9月21日	日						
9月22日	月		病理学Ｂ実習	病理学Ｂ実習			内分泌・代謝内科学
9月23日	火	**秋分の日**					
9月24日	水			精神神経科学	産科婦人科学	血液内科学	皮膚科・形成外科学
9月25日	木		英語・医学英語Ⅲ	病理学Ｂ実習	免疫学	病理学Ｂ実習	呼吸器内科学
9月26日	金		小児科学	呼吸器・甲状腺・乳腺外科学	産科婦人科学	血液内科学	血液内科学
9月27日	土		早期体験学習Ⅲ実習(D班)	早期体験学習Ⅲ実習(D班)	早期体験学習Ⅲ実習(D班)	早期体験学習Ⅲ実習(D班)	
9月28日	日						
9月29日	月		皮膚科・形成外科学	内分泌・代謝内科学	産科婦人科学		確認テスト（2回目）
9月30日	火			循環器病学	免疫学		内分泌・代謝内科学

2025年度 M3 時間割表

月日	曜日	祝日・行事等	1時限目(9:30~10:45)	2時限目(11:00~12:15)	3時限目(13:15~14:30)	4時限目(14:45~16:00)	5時限目(16:15~17:30)
10月1日	水		精神神経科学	精神神経科学		泌尿器科学	循環器病学
10月2日	木		英語・医学英語Ⅲ		内分泌・代謝内科学	病理学Ｂ	皮膚科・形成外科学
10月3日	金		小児科学	小児科学		免疫学	免疫学
10月4日	土						
10月5日	日						
10月6日	月		病理学Ｂ	小児科学	免疫学	産科婦人科学	産科婦人科学
10月7日	火		血液内科学	循環器病学	泌尿器科学	内分泌・代謝内科学	循環器病学
10月8日	水		精神神経科学	精神神経科学		皮膚科・形成外科学	産科婦人科学
10月9日	木		英語・医学英語Ⅲ		早期体験学習Ⅲ	早期体験学習Ⅲ	早期体験学習Ⅲ
10月10日	金		小児科学	呼吸器・甲状腺・乳腺外科学	泌尿器科学	呼吸器・甲状腺・乳腺外科学	
10月11日	土						
10月12日	日						
10月13日	月	**スポーツの日**					
10月14日	火		血液内科学		循環器病学		腎臓内科学
10月15日	水		病理学Ｂ	皮膚科・形成外科学	免疫学		循環器病学
10月16日	木		英語・医学英語Ⅲ		呼吸器内科学	腎臓内科学	腎臓内科学
10月17日	金		小児科学	病理学Ｂ	病理学Ｂ	血液内科学	内分泌・代謝内科学
10月18日	土						
10月19日	日						
10月20日	月		循環器病学	内分泌・代謝内科学	泌尿器科学	小児科学	呼吸器内科学
10月21日	火		循環器病学	小児科学	産科婦人科学	循環器病学	内分泌・代謝内科学
10月22日	水		精神神経科学	精神神経科学	精神神経科学	泌尿器科学	呼吸器内科学
10月23日	木		英語・医学英語Ⅲ			免疫学	腎臓内科学
10月24日	金		内分泌・代謝内科学	内分泌・代謝内科学	杏林祭準備	杏林祭準備	杏林祭準備
10月25日	土	**杏林祭**					
10月26日	日	**杏林祭**					
10月27日	月		小児科学	循環器病学	産科婦人科学	小児科学	呼吸器内科学
10月28日	火			精神神経科学	内分泌・代謝内科学		
10月29日	水		病理学Ｂ	皮膚科・形成外科学	病理学Ｂ	腎臓内科学	精神神経科学
10月30日	木		英語・医学英語Ⅲ	皮膚科・形成外科学	内分泌・代謝内科学	呼吸器内科学	腎臓内科学
10月31日	金		呼吸器・甲状腺・乳腺外科学	循環器病学		産科婦人科学	
11月1日	土						
11月2日	日						
11月3日	月	**文化の日**					
11月4日	火		皮膚科・形成外科学	免疫学		泌尿器科学	呼吸器内科学
11月5日	水		精神神経科学	精神神経科学	呼吸器内科学	血液内科学	循環器病学
11月6日	木		英語・医学英語Ⅲ	病理学Ｂ	病理学Ｂ	呼吸器・甲状腺・乳腺外科学	
11月7日	金		確認テスト（3回目）	皮膚科・形成外科学		血液内科学	内分泌・代謝内科学
11月8日	土						
11月9日	日						
11月10日	月		呼吸器・甲状腺・乳腺外科学	循環器病学	循環器病学	循環器病学	免疫学
11月11日	火	**創立記念日**					
11月12日	水		精神神経科学	病理学Ｂ	病理学Ｂ実習	産科婦人科学	呼吸器内科学
11月13日	木		英語・医学英語Ⅲ	病理学Ｂ実習	呼吸器・甲状腺・乳腺外科学	内分泌・代謝内科学	皮膚科・形成外科学
11月14日	金		小児科学	呼吸器・甲状腺・乳腺外科学	小児科学	血液内科学	血液内科学
11月15日	土						
11月16日	日						
11月17日	月		病理学Ｂ実習	内分泌・代謝内科学	産科婦人科学	循環器病学	循環器病学
11月18日	火			皮膚科・形成外科学	産科婦人科学	内分泌・代謝内科学	
11月19日	水		精神神経科学	精神神経科学	産科婦人科学	泌尿器科学	血液内科学
11月20日	木		免疫学	病理学Ｂ実習		腎臓内科学	腎臓内科学
11月21日	金		皮膚科・形成外科学	産科婦人科学	血液内科学	腎臓内科学	循環器病学
11月22日	土						
11月23日	日	**勤労感謝の日**					
11月24日	月	**振替休日**					
11月25日	火		小児科学	小児科学			循環器病学
11月26日	水		循環器病学	皮膚科・形成外科学	血液内科学	循環器病学	皮膚科・形成外科学
11月27日	木		免疫学	呼吸器内科学		小児科学	呼吸器・甲状腺・乳腺外科学
11月28日	金		小児科学		泌尿器科学	産科婦人科学	泌尿器科学
11月29日	土						
11月30日	日						

2025年度 M3 時間割表

月日	曜日	祝日・行事等	1時限目(9:30~10:45)	2時限目(11:00~12:15)	3時限目(13:15~14:30)	4時限目(14:45~16:00)	5時限目(16:15~17:30)
12月1日	月		免疫学	産科婦人科学	皮膚科・形成外科学		循環器病学
12月2日	火			小児科学	産科婦人科学	循環器病学	
12月3日	水		精神神経科学	精神神経科学	泌尿器科学	呼吸器内科学	循環器病学
12月4日	木		小児科学	小児科学	内分泌・代謝内科学	免疫学	免疫学
12月5日	金		腎臓内科学		泌尿器科学	泌尿器科学	皮膚科・形成外科学
12月6日	土						
12月7日	日						
12月8日	月				泌尿器科学	循環器病学	
12月9日	火			循環器病学	産科婦人科学	産科婦人科学	
12月10日	水		皮膚科・形成外科学				循環器病学
12月11日	木		精神神経科学	精神神経科学	泌尿器科学	小児科学	小児科学
12月12日	金	**後期授業終了**	確認テスト（4回目）		泌尿器科学	血液内科学	循環器病学
12月13日	土						
12月14日	日						
12月15日	月	**冬季休業期間**					
12月16日	火	**冬季休業期間**					
12月17日	水	**冬季休業期間**					
12月18日	木	**冬季休業期間**					
12月19日	金	**冬季休業期間**					
12月20日	土						
12月21日	日						
12月22日	月	**冬季休業期間**					
12月23日	火	**冬季休業期間**					
12月24日	水	**冬季休業期間**					
12月25日	木	**冬季休業期間**					
12月26日	金	**冬季休業期間**					
12月27日	土						
12月28日	日						
12月29日	月	**年末年始（学内立入禁止）**					
12月30日	火	**年末年始（学内立入禁止）**					
12月31日	水	**年末年始（学内立入禁止）**					
1月1日	木	**元日（学内立入禁止）**					
1月2日	金	**年末年始（学内立入禁止）**					
1月3日	土	**年末年始（学内立入禁止）**					
1月4日	日						
1月5日	月	**自習期間**					
1月6日	火	**自習期間**					
1月7日	水	**自習期間**					
1月8日	木	**自習期間**					
1月9日	金	**自習期間**					
1月10日	土						
1月11日	日						
1月12日	月	**成人の日**					
1月13日	火	**学年末定期試験期間**					
1月14日	水	**学年末定期試験期間**					
1月15日	木	**学年末定期試験期間**					
1月16日	金	**学年末定期試験期間**					
1月17日	土	**学年末定期試験期間**					
1月18日	日						
1月19日	月	**学年末定期試験期間**					
1月20日	火	**学年末定期試験期間**					
1月21日	水	**学年末定期試験期間**					
1月22日	木	**学年末定期試験期間**					
1月23日	金	**学年末定期試験期間**					
1月24日	土	**学年末定期試験期間**					
1月25日	日						
1月26日	月	**再試験自習期間**					
1月27日	火	**再試験自習期間**					
1月28日	水	**再試験自習期間**					
1月29日	木	**再試験自習期間**					
1月30日	金	**再試験自習期間**					
1月31日	土						

2025年度 M3 時間割表

月日	曜日	祝日・行事等	1時限目(9:30~10:45)	2時限目(11:00~12:15)	3時限目(13:15~14:30)	4時限目(14:45~16:00)	5時限目(16:15~17:30)
2月1日	日						
2月2日	月	学年末再試験期間					
2月3日	火	学年末再試験期間					
2月4日	水	学年末再試験期間					
2月5日	木	学年末再試験期間					
2月6日	金	学年末再試験期間					
2月7日	土	学年末再試験期間					
2月8日	日						
2月9日	月	学年末再試験期間					
2月10日	火	学年末再試験期間					
2月11日	水	建国記念の日					
2月12日	木	学年末再試験期間					
2月13日	金	学年末再試験期間					
2月14日	土	学年末再試験期間					
2月15日	日						
2月16日	月	予備期間					
2月17日	火	予備期間					
2月18日	水	予備期間					
2月19日	木	予備期間					
2月20日	金	予備期間					
2月21日	土						
2月22日	日						
2月23日	月	天皇誕生日					
2月24日	火	春季休業期間					
2月25日	水	春季休業期間					
2月26日	木	春季休業期間					
2月27日	金	春季休業期間					
2月28日	土						
3月1日	日						
3月2日	月	春季休業期間					
3月3日	火	春季休業期間					
3月4日	水	春季休業期間					
3月5日	木	春季休業期間					
3月6日	金	春季休業期間					
3月7日	土						
3月8日	日						
3月9日	月	春季休業期間					
3月10日	火	春季休業期間					
3月11日	水	春季休業期間					
3月12日	木	春季休業期間					
3月13日	金	春季休業期間					
3月14日	土						
3月15日	日						
3月16日	月	春季休業期間					
3月17日	火	春季休業期間					
3月18日	水	春季休業期間					
3月19日	木	春季休業期間					
3月20日	金	春分の日					
3月21日	土						
3月22日	日						
3月23日	月	春季休業期間					
3月24日	火	春季休業期間					
3月25日	水	春季休業期間					
3月26日	木	春季休業期間					
3月27日	金	春季休業期間					
3月28日	土						
3月29日	日						
3月30日	月	春季休業期間					
3月31日	火	春季休業期間					

年度	2025年度	学年	3年
学科目	早期体験学習Ⅲ	科目ナンバリング	FME-3A08
単位	1単位	コマ数	14コマ
科目責任者	平形明人　教授		
担当教員	教　授　矢島知治(医学教育学) 准教授　江頭説子(医学教育学) 助　教　三枝七都子(医学教育学)		

A．教育の基本方針	早期体験学習は、低学年のうちから地域の人々の生活や医療・福祉の現場を体験的に理解することを通して、「良き医師」をめざす医学生としての自覚を高めることを目的としている。 本科目では、Ｍ４後期から開始される臨床実習につながる学習として、腹部と循環器系の身体診察技能技能の習得、地域で医療や福祉の支援を受けながら暮らす人々のもとでの体験学習を通して、医学生として何を学び、考えれば良いのか視野を広げ、思考を深めることを目的とする。 早期体験学習Ⅲは、以下の領域で構成する。 ・身体診察入門② ・地域・医療体験学習
B．到達目標	身体診察入門②：解剖学、生理学および内科学、外科学などＭ２～Ｍ３の科目との関連を意識しながら身体診察の目的や手順を理解し、基本的な診察法を修得する。 地域・医療体験学習：地域において医療支援等を受けながら生活するという日常を知り、地域医療・福祉の充実に貢献できる人材の姿勢や医師としての社会的役割について理解する。 この目標は、ディプロマポリシーの以下の項目と関連する能力の修得につながる。 (1)医師の社会的責任 (2)医学知識と技能 (3)問題解決能力とリサーチマインド (4)コミュニケーション能力 (5)医学・医療と地域・社会との関わり 【杏林大学医学部学生の到達目標との関連】 (1)-①,②,③,④，(2)-⑤，(3)-①,②,③,⑤，(4)-①,②，(5)-①,②,③,④
C．修得すべき能力	１．診察のおおよその流れを理解する。 ２．腹部の基本的な身体診察法を修得する。 ３．多職種連携のなかで、自分の専門性をどのように生かしたら良いか主体的に考えることのできる能力。 ４．障がいを社会モデルの視点でみることができる能力。
D．学習内容	１．　腹部診察の基本につき、打診と触診のコツを中心に解説する。 ２．心音聴診の基本につき解説し、自習用視聴覚教材の使用法を紹介する。 ３．地域で暮らしている当事者の生き方の多様性に触れる。 ４．地域生活の様々な社会制度が関連していることを解説する。 ５．生活を支えている介助者の役割や専門性について解説する。 ALの実施方法について：事前学習では、講義と関連するテーマについて少人数で対話する時間をもうけ、対話した内容等について発言する機会も設定する。介助の講義内において、実際に呼吸器を装着する側、装着させる側を体験する。また、コミュニケーションの講義では、透明の文字盤を使用して、目線だけで会話する方法を２人一組で練習し、基本的なコミュニケーションがとれるようなスキルを身につける。体験学習では、24時間365日支援を必要とする重度障がい者の自宅や生活空間で行動をともにし、当事者の生活を支える援助者たちと協働することにより当事者の生活、介助、医療を理解するだけでなく、社会的な課題についても考え、当事者やその援助者と対話する。事後学習では、それぞれが体験したことを共有するために少人数での対話や課題について議論しプレゼンテーションを行うチーム活動を行う。
E．実習・課外授業	9月6日(土)、13日(土)、20日(土)、9月27日(土)のいずれか1日、24時間365日支援を必要とする重度の障がいをもちながら地域で生活する方のもとで、体験学習を行う。 ＜注意事項＞ 地域・医療体験学習に参加するにあたっては、8月29日(金)に実施される事前学習に参加することが必須となる。やむを得ない事情で参加できない場合は、事前に必ず相談すること。
F．準備学習の内容	NPO法人境を越えてのホームページにアクセスし、どのような活動が行われているのか等について情報を得たうえで、事前に送付されるアンケート(Forms）に答えること。 所要時間の目安：各コマ75分程度
G．復習学習の内容	身体診察入門②：学習する身体診察の手技については、地域・医療体験学習のなかで実践の機会を得る可能性がある。また、これらの手技は、将来学ぶことになる臨床診断学やＢＳＬにつながる内容でもある。復習として、友達間等で繰り返し練習をしてほしい。 地域・医療体験学習：事後学習終了後に問われる項目について、意見や感想等をリフレクションペーパー(Forms）で提出すること。 所要時間の目安：各コマ75分程度
H．成績評価の方法・基準	出席と授業中の学習態度を重視するので、真剣に取り組んでもらいたい。 身体診察入門②：学習した身体診察手技の実技により評価する。 地域・医療体験学習：事前学習・体験学習・事後学習への参加態度、事前のアンケート、事後のリフレクションペーパー

	（自己評価を含む）にて評価する。 フィードバック方法：授業内で全体に対して行う。レポートについては希望者に対して個別に行う。 正当な理由を除き、出席が2/3以下となった場合は、当該科目の評価は不合格（D評価）とする。 ＜注意事項＞ 地域・医療体験学習は、NPO法人境を越えてをはじめとして、重度の障がいをもちながら地域で生活をされている方々の協力により実施が可能となる。時間にルーズであったり、不適切な言動等が認められた場合は不合格となる。謙虚な気持ち、真摯な態度で臨むこと。

Ｉ．学習指導書

①教科書（学生が所持しなければならないもの）	オリジナルテキスト 「地域生活の視点で学ぶ重度身体障がい者の暮らし」 7月2日(水)の事前学習時に配布。
②参考書Ａ（学生の所持をすすめるもの）	授業内で紹介する。 ※(R)：Remedial …　教科書の理解を助けるような補習的なもの 　(A)：Advanced　…　教科書より進んだ学習のためのもの
③参考書Ｂ（図書館等での利用をすすめるもの）	(R)NPO法人境を越えて、2021『コラム集Vol.1　境を越えた瞬間』 (R)天畠大輔、2021『〈弱さ〉を〈強み〉に一突然複数の障がいをもった僕ができること』岩波新書 (A)立石真也、2004『不動の身体と息する機械』医学書院 (A)立石真也、2019『弱くある自由へ　自己決定・介護・生死の技術』青土社 (A)川島聡・飯野由里子・西倉実季・星加良司、2016『合理的配慮　対話を開く 対話が拓く』有斐閣 (A)榊原賢二郎、2016『社会的包摂と身体　障害者差別禁止法制後の障害定義と異別処遇を巡って』生活書院 (A)榊原賢二郎編、2019『障害社会学という視座 社会モデルから社会学的反省へ』新曜社 ※(R)：Remedial …　教科書の理解を助けるような補習的なもの 　(A)：Advanced　…　教科書より進んだ学習のためのもの

Ｊ．講義予定表

「添付資料」参照

2025年度　3年　講義予定表

【早期体験学習Ⅲ】

月日	曜	時限	講義テーマ	講義内容	担当	教科書	授業形態
4/28	月	4	身体診察入門② 腹部診察	腹部診察の基本につき、打診と触診のコツを中心に解説する。	矢島知治		講義(AL)
7/2	水	2	地域・医療体験学習 オリエンテーション	地域・医療体験学習の目的、スケジュール、提出すべき書類（誓約書、自己紹介シート等）、事前学習(動画視聴等）についての説明を行う。	江頭説子　三枝七都子	オリジナルテキスト	講義(AL)
8/29	金	1	地域・医療体験学習 事前学習(1)	テーマ：地域生活の視点で学ぶ重度身体障がい者の暮らし 　地域で暮らすこと、それを支えることを「自分ごと」として考える 　NPO法人境を越えての協力のもと実施する	江頭説子　三枝七都子	オリジナルテキスト	講義(AL)
8/29	金	2	地域・医療体験学習 事前学習(2)	地域・医療体験学習に参加するには本事前学習への参加が必須となる。 何かしらの事情で参加できない場合は、事前に必ず相談すること。	江頭説子　三枝七都子	オリジナルテキスト	講義(AL)
8/29	金	3	地域・医療体験学習 事前学習(3)	事前学習は多くの方の協力を得て構成されていることから、必ずしも普段の授業とおりの時間ではすすまない。休憩、出欠に関しては適宜指示する。	江頭説子　三枝七都子	オリジナルテキスト	講義(AL)
8/29	金	4	地域・医療体験学習 事前学習(4)	事前学習は以下のテーマで構成される ・地域で生きる　　・地域で支える　・地域で暮らす	江頭説子　三枝七都子	オリジナルテキスト	講義(AL)
8/29	金	5	地域・医療体験学習 事前学習(5)	・介助者の視点　　・医療者の視点 ・文字盤を使用したコミュニケーション体験　　・体験に向けた説明	江頭説子　三枝七都子	オリジナルテキスト	講義(AL)
9/6	土	1	地域・医療体験学習 【A班】	各配属先での体験学習（2人一組）。 地域で支えられながら生活する方やその家族、支援する方々の前に立つことの意味をよく考え、それにふさわしい身だしなみ、立ち居振る舞いをすること。五感をフルに使い、何が求められているのか、何をすべきなのか、自ら考え、能動的に行動すること。わからないこと、不安なことは必ず確認すること。体験したこと、感じたこと、考えたことをまとめておくこと。	江頭説子　三枝七都子	オリジナルテキスト	実習(AL)
9/6	土	2	地域・医療体験学習 【A班】	各配属先での体験学習（2人一組）。 地域で支えられながら生活する方やその家族、支援する方々の前に立つことの意味をよく考え、それにふさわしい身だしなみ、立ち居振る舞いをすること。五感をフルに使い、何が求められているのか、何をすべきなのか、自ら考え、能動的に行動すること。わからないこと、不安なことは必ず確認すること。体験したこと、感じたこと、考えたことをまとめておくこと。	江頭説子　三枝七都子	オリジナルテキスト	実習(AL)
9/6	土	3	地域・医療体験学習 【A班】	各配属先での体験学習（2人一組）。 地域で支えられながら生活する方やその家族、支援する方々の前に立つことの意味をよく考え、それにふさわしい身だしなみ、立ち居振る舞いをすること。五感をフルに使い、何が求められているのか、何をすべきなのか、自ら考え、能動的に行動すること。わからないこと、不安なことは必ず確認すること。体験したこと、感じたこと、考えたことをまとめておくこと。	江頭説子　三枝七都子	オリジナルテキスト	実習(AL)
9/6	土	4	地域・医療体験学習 【A班】	各配属先での体験学習（2人一組）。 地域で支えられながら生活する方やその家族、支援する方々の前に立つことの意味をよく考え、それにふさわしい身だしなみ、立ち居振る舞いをすること。五感をフルに使い、何が求められているのか、何をすべきなのか、自ら考え、能動的に行動すること。わからないこと、不安なことは必ず確認すること。体験したこと、感じたこと、考えたことをまとめておくこと。	江頭説子　三枝七都子	オリジナルテキスト	実習(AL)
9/13	土	1	地域・医療体験学習 【B班】	各配属先での体験学習（2人一組）。 地域で支えられながら生活する方やその家族、支援する方々の前に立つことの意味をよく考え、それにふさわしい身だしなみ、立ち居振る舞いをすること。五感をフルに使い、何が求められているのか、何をすべきなのか、自ら考え、能動的に行動すること。わからないこと、不安なことは必ず確認すること。体験したこと、感じたこと、考えたことをまとめておくこと。	江頭説子　三枝七都子	オリジナルテキスト	実習(AL)
9/13	土	2	地域・医療体験学習 【B班】	各配属先での体験学習（2人一組）。 地域で支えられながら生活する方やその家族、支援する方々の前に立つことの意味をよく考え、それにふさわしい身だしなみ、立ち居振る舞いをすること。五感をフルに使い、何が求められているのか、何をすべきなのか、自ら考え、能動的に行動すること。わからないこと、不安なことは必ず確認すること。体験したこと、感じたこと、考えたことをまとめておくこと。	江頭説子　三枝七都子	オリジナルテキスト	実習(AL)
9/13	土	3	地域・医療体験学習 【B班】	各配属先での体験学習（2人一組）。 地域で支えられながら生活する方やその家族、支援する方々の前に立つことの意味をよく考え、それにふさわしい身だしなみ、立ち居振る舞いをすること。五感をフルに使い、何が求められているのか、何をすべきなのか、自ら考え、能動的に行動すること。わからないこと、不安なことは必ず確認すること。体験したこと、感じたこと、考えたことをまとめておくこと。	江頭説子　三枝七都子	オリジナルテキスト	実習(AL)
9/13	土	4	地域・医療体験学習 【B班】	各配属先での体験学習（2人一組）。 地域で支えられながら生活する方やその家族、支援する方々の前に立つことの意味をよく考え、それにふさわしい身だしなみ、立ち居振る舞いをすること。五感をフルに使い、何が求められているのか、何をすべきなのか、自ら考え、能動的に行動すること。わからないこと、不安なことは必ず確認すること。体験したこと、感じたこと、考えたことをまとめておくこと。	江頭説子　三枝七都子	オリジナルテキスト	実習(AL)

2025年度　3年　講義予定表

【早期体験学習Ⅲ】

月日	曜	時限	講義テーマ	講義内容	担当	教科書	授業形態
9/20	土	1	地域・医療体験学習 【C班】	各配属先での体験学習（2人一組）。 地域で支えられながら生活する方やその家族、支援する方々の前に立つことの意味をよく考え、それにふさわしい身だしなみ、立ち居振る舞いをすること。五感をフルに使い、何が求められているのか、何をすべきなのか、自ら考え、能動的に行動すること。わからないこと、不安なことは必ず確認すること。体験したこと、感じたこと、考えたことをまとめておくこと。	江頭説子　三枝七都子	オリジナルテキスト	実習(AL)
9/20	土	2	地域・医療体験学習 【C班】	各配属先での体験学習（2人一組）。 地域で支えられながら生活する方やその家族、支援する方々の前に立つことの意味をよく考え、それにふさわしい身だしなみ、立ち居振る舞いをすること。五感をフルに使い、何が求められているのか、何をすべきなのか、自ら考え、能動的に行動すること。わからないこと、不安なことは必ず確認すること。体験したこと、感じたこと、考えたことをまとめておくこと。	江頭説子　三枝七都子	オリジナルテキスト	実習(AL)
9/20	土	3	地域・医療体験学習 【C班】	各配属先での体験学習（2人一組）。 地域で支えられながら生活する方やその家族、支援する方々の前に立つことの意味をよく考え、それにふさわしい身だしなみ、立ち居振る舞いをすること。五感をフルに使い、何が求められているのか、何をすべきなのか、自ら考え、能動的に行動すること。わからないこと、不安なことは必ず確認すること。体験したこと、感じたこと、考えたことをまとめておくこと。	江頭説子　三枝七都子	オリジナルテキスト	実習(AL)
9/20	土	4	地域・医療体験学習 【C班】	各配属先での体験学習（2人一組）。 地域で支えられながら生活する方やその家族、支援する方々の前に立つことの意味をよく考え、それにふさわしい身だしなみ、立ち居振る舞いをすること。五感をフルに使い、何が求められているのか、何をすべきなのか、自ら考え、能動的に行動すること。わからないこと、不安なことは必ず確認すること。体験したこと、感じたこと、考えたことをまとめておくこと。	江頭説子　三枝七都子	オリジナルテキスト	実習(AL)
9/27	土	1	地域・医療体験学習 【D班】	各配属先での体験学習（2人一組）。 地域で支えられながら生活する方やその家族、支援する方々の前に立つことの意味をよく考え、それにふさわしい身だしなみ、立ち居振る舞いをすること。五感をフルに使い、何が求められているのか、何をすべきなのか、自ら考え、能動的に行動すること。わからないこと、不安なことは必ず確認すること。体験したこと、感じたこと、考えたことをまとめておくこと。	江頭説子　三枝七都子	オリジナルテキスト	実習(AL)
9/27	土	2	地域・医療体験学習 【D班】	各配属先での体験学習（2人一組）。 地域で支えられながら生活する方やその家族、支援する方々の前に立つことの意味をよく考え、それにふさわしい身だしなみ、立ち居振る舞いをすること。五感をフルに使い、何が求められているのか、何をすべきなのか、自ら考え、能動的に行動すること。わからないこと、不安なことは必ず確認すること。体験したこと、感じたこと、考えたことをまとめておくこと。	江頭説子　三枝七都子	オリジナルテキスト	実習(AL)
9/27	土	3	地域・医療体験学習 【D班】	各配属先での体験学習（2人一組）。 地域で支えられながら生活する方やその家族、支援する方々の前に立つことの意味をよく考え、それにふさわしい身だしなみ、立ち居振る舞いをすること。五感をフルに使い、何が求められているのか、何をすべきなのか、自ら考え、能動的に行動すること。わからないこと、不安なことは必ず確認すること。体験したこと、感じたこと、考えたことをまとめておくこと。	江頭説子　三枝七都子	オリジナルテキスト	実習(AL)
9/27	土	4	地域・医療体験学習 【D班】	各配属先での体験学習（2人一組）。 地域で支えられながら生活する方やその家族、支援する方々の前に立つことの意味をよく考え、それにふさわしい身だしなみ、立ち居振る舞いをすること。五感をフルに使い、何が求められているのか、何をすべきなのか、自ら考え、能動的に行動すること。わからないこと、不安なことは必ず確認すること。体験したこと、感じたこと、考えたことをまとめておくこと。	江頭説子　三枝七都子	オリジナルテキスト	実習(AL)
10/9	木	3	地域・医療体験学習 事後学習(1)	体験談の共有/学生介助者体験談	江頭説子　三枝七都子	オリジナルテキスト	講義(AL)
10/9	木	4	地域・医療体験学習 事後学習(2)	あらためて考える障がいとは何？（グループワーク） 障がいって何？当たり前の見方を変えてみよう	江頭説子　三枝七都子	オリジナルテキスト	講義(AL)
10/9	木	5	地域・医療体験学習 事後学習(3)	グループによる発表/地域・医療体験学習の総括	江頭説子　三枝七都子	オリジナルテキスト	講義(AL)

年度	2025年度	学年	3年
学科目	英語・医学英語 III	科目ナンバリング	FME-3B03
単位	2単位	コマ数	24コマ
科目責任者	柴原純二　教授（教務部長）		
担当教員	准教授 黒田 航 講　師 Khan, Fayyaz Ahmad 非常勤講師 馬場 美彦; 浜田 啓志		

A．教育の基本方針	まえがき 英語は医療関係者にとっても修得要求の増している技能である。最新の情報を早く入手するのに英語文献に当る事が必須であるだけでなく、患者や医療スタッフとの日常的な係わりで英語が実技として必要とされる度合いは高まる一方である。英語を実用技能だと認識した場合、多くの日本人には繰り返し指摘されているように (a) 英語で話す技能と (b) 英語で書く技能が未熟であるだけでなく実は (c) 十分に早く多量に読む技能や (d) 話された事を正確に聴き取る技能も欠けている。本科目では英語 III-A、B、C、Dの班ごとに別の目標を設定し受講者の技能水準に合わせて欠けている技能を伸ばすための指導を行なう。具体的な指導は担当教員に拠るものとする。従ってA、B、C、Dのそれぞれのクラスで学生が取り組む授業の内容は異なる。M1、M2までと違い、M3、M4 では英語の授業でも進んで医療に係わる教材を受講生の実力と志向性を考慮しつつ、クラスごとに選ぶ。 医学英語 III は前年度の希望調査の結果と成績とに基づいて、A班、B班、C班、D班の四クラスを編成する。A班とD班の定員は20名程度、B班とC班の定員は40名前後である。A班に関してだけ初回授業で受講資格検査を実施し、その成績によって帰属の可否を判定する。A班に帰属が認められかった者はB班かC班に所属の変更を行う。このように分けたクラスを英語・医学英語 III-A、英語・医学英語III-B、英語・医学英語 III-C、英語・医学英語 III-Dと呼び、以後、簡略して医学英語 III-A、B、C、Dと呼ぶ。 クラスにより課題の難度が異なるため、最終成績は特定のクラスにいることが不利にも有利にもならないように調節する。具体的には、A、Bクラスの最高点は100点、Cクラスの最高得点は95点、Dクラスの最高点は90点とする。得点算出の具体的な方法については、後述する。
B．到達目標	到達目標は英語・医学英語 III-A、B、C、Dで異なる。それぞれの授業の別紙資料の当該項目を参照のこと。 【杏林大学医学部学生の到達目標との関連】(3)-①，(4)-③
C．修得すべき能力	修得すべき能力は英語・医学英語 III-A、B、C、Dで異なる。それぞれの授業の別紙資料の当該項目を参照のこと。
D．学習内容	学習内容(アクティブ・ラーニング関連事項含む)は英語・医学英語 III-A、B、C、Dで異なる。それぞれの授業の別紙資料の当該項目を参照のこと。
E．実習・課外授業	英語・医学英語 III-A、B、C、Dは実習・課外授業は予定しない。
F．準備学習の内容	準備学習の内容は英語・医学英語 III-A、B、C、Dで異なる。それぞれの授業の別紙資料の当該項目を参照のこと。 所要時間の目安：各コマ75分程度
G．復習学習の内容	復習学習の内容は英語・医学英語 III-A、B、C、Dで異なる。それぞれの授業の別紙資料の当該項目を参照のこと。 所要時間の目安：各コマ75分程度
H．成績評価の方法・基準	成績は医学英語 III-A、B、C、Dで独立に評価するのではなく、英語・医学英語 III 全体として行う。 成績評価は学期毎に出すが、後期の成績は通年の成績と等価である。前期と後期について学期末試験の受験資格はそれぞれの学期の出席率が2/3を超えている事である。 前期成績と後期成績はそれぞれ次のように決める： • i) A、B、C、Dの別によらず、学期毎の得点 U は学期中の授業内課題の成績 S と期末試験の得点 T から求める (クラス毎に学期内課題の実施回数は異なる)。S と T の混合比率は 5:3 とする (つまりU = S*5/8 + V*3*/8)。 • ii) クラス毎の課題の難度の不公平を解消するため、1) Aの U の平均点≃Bの U の平均点 > C の U の平均点 > Dの U の平均点となり，2) A、Bの最高点の上限は100点、Cの最高点の上限は95点、Dの最高点の上限は90点となるように U を事後調節する。 • iii) 前期・学年末定期試験の受験を必須とする。 • iv) 100≧U≧90の学生の評価は S、90＞U≧80の学生の評価は A、80＞U≧70の学生の評価はB、70＞U≧60の学生の評価はC、60>Uの学生の評価はD (不合格)とする。 最終成績は次のように決める: • v) 前期のみの成績をU、後期のみの成績をVとすると、通常授業の通年の評価は U と V の平均値 W = (U＋V)/2 である。

	• vi) W が60に満たず D評価を受けた者は年度末（＝後期末）に再試を課し，その評価に基づき W を60点に修正できるかを判定する。 出席率は前期と後期毎に評価する。どちらの期でも規定の出席率に達している事を求める。前期と後期のそれぞれについて出席率が要件に達しない場合、定期試験の受験資格を失う。 授業内外で実施した課題には事後的に正解を示す他に、時間が許す限り解説を与え、これをフィードバックとする。

Ｉ．学習指導書

①教科書（学生が所持しなければならないもの）	教科書は英語・医学英語 III-A、B、C、Dで異なる。それぞれの授業の別紙資料の当該項目を参照のこと。
②参考書Ａ（学生の所持をすすめるもの）	参考書Aは英語・医学英語 III-A、B、C、Dで異なる。それぞれの授業の別紙資料の当該項目を参照のこと。 ※(R)：Remedial …　教科書の理解を助けるような補習的なもの (A)：Advanced　…　教科書より進んだ学習のためのもの
③参考書Ｂ（図書館等での利用をすすめるもの）	参考書Bは英語・医学英語 III-A、B、C、Dで異なる。それぞれの授業の別紙資料の当該項目を参照のこと。 ※(R)：Remedial …　教科書の理解を助けるような補習的なもの (A)：Advanced　…　教科書より進んだ学習のためのもの

Ｊ．講義予定表

「添付資料」参照

学科目（班）	英語・医学英語 III［Sport and Exercise Medicine (SEM) I - Musculoskeletal(MSK) Medicine & MSK Radiology Module］（前期・後期 A 班）
科目責任者	柴原純二　教授（教務部長）
担当教員	講　師　Khan, Fayyaz Ahmad

A．教育の基本方針	As instructed in the General Guide to Medical English III
B．到達目標	Learning outcomes On successful completion of this module, students should be able to: •Take, record and present history. •Communicate effectively in both written and verbal presentation. •Demonstrate a good knowledge base to perform a physical examination. •Critically evaluate an ultrasound image. •Interpret biomechanical data (kinematics, kinetics and EMG).
C．修得すべき能力	Problem-Based Learning (PBL): Collaboration and teamwork- Oral and written communication skills- Clinical skills- Ultrasound skills-Biomechanical analyses-Technology literacy.
D．学習内容	Class activities are based on: Semester 1　(Spring) Week 1 - Assessment for class A. Week 2 and 3 - Introduction to Clinical Skills and SEM/MSK Case 1 Week 4 – In-Course assessment 1 (lesson 2 and 3) Week 5 to 7 – Clinical Skills and SEM/MSK Case 2 Week 8 – In-Course assessment 2 (lesson 5 to 7) Week 9 and 10 - Clinical Skills and SEM/MSK Case 3 Week 11 – In-Course assessment 3 (lesson 9 and 10) Week 12 – Group discussions Semester 2　(Fall) Week 1 to 4 - Clinical Skills and SEM/MSK Case 4 Week 5 – In-Course assessment 1 (lesson 1 to 4) Week 6 to 9 - Clinical Skills and SEM/MSK Case 5 Week 10 – In-Course assessment 2 (lesson 6 to 9) Week 11 - Group discussions Week 12 - Group discussions
E．実習・課外授業	Read through the General Guide to Medical English III.
F．準備学習の内容	You are required to do the essential reading (as instructed by the tutor) before each face-to-face tutorial.
G．復習学習の内容	After each tutorial, you will be required to continue your discussions on the online discussion forum and complete a reflective report on the lesson as part of your self-assessment. You can find the reflective report section in your e-portfolio (Moodle/Padlet Backpack).
H．成績評価の方法・基準	At the end of each semester, your provisional mark for the summative assessment will be based on the following: Discussion Board and In-Class Discussions (17.5%) In-Course Assessments (45%) End-of-Course (Term-Final) Assessment (37.5%) During the modules, there will also be a formative assessment to test your knowledge.
I．学習指導書	Reading list CORE:　Handout FURTHER READING:　Brukner and Khan's Clinical Sports Medicine_Volume 1 and 2, McGraw-Hill, 5th Edition. Apps List Essential:　Complete Anatomy, Moodle & Padlet RECOMMENDED: Khan Academy
J．講義予定表	「添付資料」参照

学科目（班）	英語・医学英語Ⅲ（前期Ｂ班、後期Ｃ班）
科目責任者	柴原純二　教授（教務部長）
担当教員	准教授　黒田　航

Ａ．教育の基本方針	英語・医学英語Ⅲで共通して指定した通り
Ｂ．到達目標	日本の英語教育の主流である実用性からかけ離れた英語ではなく、日本人に欠落している （a） 聴き取り技能と（b）（日本語への翻訳を媒介としないで）十分に速く読む技能と（c）（日本語を媒介としないで）英語を産出する技能の獲得のための訓練を行なう。加えて，医学関係の文献をそれなりの速度で読み、概要を把握する技能の修得を目標とする。部分的な課題として、学術論文の基本構造の理解や学術語彙の増強を目指す。
Ｃ．修得すべき能力	1）自然な速度で話される英語発話を聴き取る実力 2）十分な速度で英文を読める実力 3）医療系の専門用語の構造を把握し，辞書を引く回数を減らす語彙力 4）英文を逐一日本語に訳さないで直観で概要を把握できる理解力
Ｄ．学習内容	英語は実技であり，講師の説明を聞くだけで英語が学べるはずがない。そのため，医療関係の英語講演を使った読解，聴き取り訓練が基本で，それに i）学術用語の造語法の解と ii）『英語医薬論文の読みかた・訳しかた』を使用した学術論文の基本構造の解説を加える。 英語講演を使った訓練は次の段階 1–3 を 1 サイクルとする実習形式で実施する（1 学期あたり 2 サイクル): ・段階 1 で候補講演を幾つか視聴し、選択する（M2 までとは違って 15 分越えの長目の講演が候補)。 これは調査学習と双方向アンケート（AL）に該当する。 ・段階 2 で講演の解説（長い講演を取り上げるので，解説に 2 回分の講義時間を要する)。 ・段階 3 で読解課題を実施。 なお、課題の一環として反転学習（AL）を行う。 ・段階 4 として、学期の最後にまとめて取り上げた講演 1 か 2 に基づいて作成した聴き取り課題を実施する。 講演 1 に基づく課題と講演 2 に基づく課題は、月例テストの実施日を避けて実施を前後に一週間の範囲で変更する可能性がある。
Ｅ．実習・課外授業	英語・医学英語Ⅲで共通して指定した通り
Ｆ．準備学習の内容	授業は講義内で完結する。従って、i）受講生の事前の予習を前提とせず、ii）復習を強要しない。この方針は個々の受講生の自主的な予習と復習の実行を妨げるものではない（予習と復習を自主的に実行すれば、受講生は自分の予想以上の実力を身につけることができる)。
Ｇ．復習学習の内容	段階 3 と段階 4 の課題が成績評価に直結するので、それに対して十分な準備をする事が大切である。本授業では方針として、どの課題でも日本語訳を要求しない。実地で英語が使えるようになる（ための準備を整える）のに、それは効果的でないからである(翻訳家になるのでもなければ、日本語訳がどんなに上手にできても英語が使えるとは言えない)。教材を日本語に訳して内容が分った段階で学習を終わりにすると、段階 3 と段階 4 の課題に十分に対応できない。
Ｈ．成績評価の方法・基準	英語・医学英語Ⅲで共通して指定した通り
Ｉ．学習指導書	学習教材は学生の希望に基づいて決めるが、授業の一部で次を使用する: [1] 鈴木伸二．英語医薬論文の読みかた・訳しかた：具体例による英語医薬論文の理解と表現検討（改訂・増補版）．薬事日報社. 教科書とは別に学習参考書を幾つか挙げておく： [2] 毎日の英文法：頭の中に「英語のパターン」をつくる（J・バーダマン）．朝日新聞出版. [3] 一億人の英文法（大西泰斗＆ポール・マクベイ）．東進ブックス. [4] 田淵アントニオ.「『トシ， 1 週間であなたの医療英単語を 100 倍にしなさい。できなければ解雇よ。』」. SOCIUS, 2009. [5] Myrna LaFleur Brooks & Danielle LaFleur Brooks. Exploring Medical Language: A Student-directed Approach. Elsevier. 解説 [4,5] はいわゆる〈医学英単語の学習帳〉である。[4] は日本人向け，[5] は英米の医学部の学部生が USMLE の準備に使う。[5] には医学用語を英語で朗読した音声 CD も用意されている。
Ｊ．講義予定表	「添付資料」参照

学科目（班）	英語・医学英語Ⅲ（前期Ｃ班、後期Ｂ班）
科目責任者	柴原純二　教授（教務部長）
担当教員	非常勤講師　馬場美彦

Ａ．教育の基本方針	英語・医学英語Ⅲで共通して指定した通り
Ｂ．到達目標	医師・医学研究者に求められる倫理を学び、常識だけでなく良識を身につけることを目標とする。医学および関連分野の研究論文を検索し、読むことが出来る。地域包括ケアの下、これまで以上の多職種連携が求められる中で必要なコミュニケーション能力を身につける。
Ｃ．修得すべき能力	1. 論文の結果と結論を正確に読み取ることができる。 2. 研究論文の構造（IMRAD)、研究デザイン（症例研究、横断研究、縦断研究、RCT、メタ分析など）の違いを理解する。 3. 研究の信頼性、臨床的意義、医学倫理について理解する。
Ｄ．学習内容	医薬論文の読解に関する講義として、英語学講座による指定テキストや医学論文を参照しながら、医学および関連分野における英語論文読解のための、構造理解・重要表現の学習を行う。 扱う内容 ・文献管理ソフト（Zotero を推奨)、PubMed、Language Tools などの使い方 ・メタ分析、ランダム化比較試験、コホート研究（リスク比、オッズ比、ハザード比）
Ｅ．実習・課外授業	実習：なし、課外授業：なし
Ｆ．準備学習の内容	事前予習は想定していないが、参考資料（英語論文等）を事前に配布する場合もある。その場合は、次回講義までに目を通して、概観について理解してくること。
Ｇ．復習学習の内容	配布された論文、文献管理ソフトなどで管理すること。
Ｈ．成績評価の方法・基準	2 回の課題（小テスト）と 1 回の期末試験で評価する。この他は、医学英語Ⅲで共通して指定する通り。
Ｉ．学習指導書	講義の中で、英語学講座で指定されたテキスト『英語医薬論文の読みかた・訳しかた』を使用する。また、適宜、関連論文を配布する予定である。 ・鈴木伸二（2016）「英語医薬論文の読みかた・訳しかた」薬事日報社 以下は参照文献。必須ではない。 ・浦島充佳（2020)「ゼロからはじめる臨床研究論文の読み方―研究デザインと医学統計の必須ポイントがよくわかる」東京図書 ・バウワース、オーウェンス、ハウス（2005）「医学英語論文の読み方」丸井英二、檀原高（翻訳)、朝倉書店 ・イアン・K・クロンビー（2007）「医療専門職のための研究論文の読み方―批判的吟味がわかるポケットガイド」津富宏（翻訳)、金剛出版 ・開原成允、浅井泰博（翻訳）(2001）「JAMA 医学文献の読み方（EBM ライブラリー)」中山書店
Ｊ．講義予定表	「添付資料」参照

学科目（班）	英語・医学英語Ⅲ（前期、後期Ｄ班）
科目責任者	柴原純二　教授（教務部長）
担当教員	非常勤講師　浜田啓志

Ａ．教育の基本方針	英語・医学英語Ⅲで共通して指定した通り
Ｂ．到達目標	医学論文を正確かつ素早く読むために求められる最低限の文法知識や文の構造を瞬時に見抜く力、そしてそれらに基づいて論文の要旨を適切に解釈する読解力を身につけることが目標である。また、これらの能力を英作文などの産出活動に還元できるようになることも併せてこの授業の目標とする。
Ｃ．修得すべき能力	1. 医療の現場において展開される、基本的なコミュニケーションを理解することが出来る。 2. 科学論文の読解に必須となる文法・語法の知識が身についている。 3. 医学論文の解釈に必須となる専門的な語彙の知識が身についている。 4. 学習した知識を基に、英作文などのアウトプットをすることが出来る。
Ｄ．学習内容	本授業では、主に医学論文をテキストとして採用する。一文一文じっくり読みながら文構造を把握するのに加え、内容理解確認のためのクイズ（真偽判断等）にも取り組んでいく。実際の医学論文に触れることで、その典型的なパターンを学びながら、より実践的な力を身につけていく。また、英作文などのアウトプット訓練や相互添削など協働的な活動も補足的に行う。正しい形式の使用に明示的に焦点を当てながら、学習知識のより一層の定着を図る。
Ｅ．実習・課外授業	英語・医学英語Ⅲで共通して指定した通り
Ｆ．準備学習の内容	Universal Passport に授業資料が前日までにアップロードされるので、知らない単語を辞書で引き、全体の文章にも簡単に目を通しておくこと。
Ｇ．復習学習の内容	授業内で配布した資料で空欄になっていた箇所、下線の引いてあった箇所を中心に、重要な語法・文法等を見直ししておくこと。
Ｈ．成績評価の方法・基準	英語・医学英語Ⅲで共通して指定した通り
Ｉ．学習指導書	基本的に授業資料は講師が配布するが、授業の一部で次を使用する: 鈴木伸二．英語医薬論文の読みかた・訳しかた：具体例による英語医薬論文の理解と表現検討（改訂・増補版）．薬事日報社．
Ｊ．講義予定表	「添付資料」参照

2025年度　3年　講義予定表

【英語・医学英語Ⅲ（Ａ班）】

月日	曜	時限	講義テーマ	講義内容	担当	教科書	授業形態
4/3	木	1	Lesson 1 SEM/MSK	Class A Assessment	Khan, Fayyaz	Handout	講義(AL)
4/10	木	1	Lesson 2 SEM/MSK	Introduction to Clinical Skills Case 1 & Ultrasound Physics	Khan, Fayyaz	Blended PBL/XR & 360° VR video	講義(AL)
4/24	木	1	Lesson 3 SEM/MSK	Introduction to Clinical Skills Case 1 & Ultrasound Physics	Khan, Fayyaz	Blended PBL/XR & 360° VR video	講義(AL)
5/8	木	1	Lesson 4 In-Course Assessment 1	復習のための課題 1 SEM/MSK Case 1	Khan, Fayyaz		試験
5/15	木	1	Lesson 5 SEM/MSK	Clinical Skills/Case 2 & MSK Imaging	Khan, Fayyaz	Blended PBL/XR & 360° VR video	講義(AL)
5/22	木	1	Lesson 6 SEM/MSK	Clinical Skills/Case 2 & Sonography	Khan, Fayyaz	Blended PBL/XR & 360° VR video	講義(AL)
5/29	木	1	Lesson 7 SEM/MSK	Clinical Skills/Case 2 & Practical Ultrasound	Khan, Fayyaz	Ultrasound Phantoms/POCUS	講義(AL)
6/5	木	1	Lesson 8 In-Course Assessment 2	復習のための課題 2 SEM/MSK Case 2	Khan, Fayyaz		試験
6/12	木	1	Lesson 9 SEM/MSK	Clinical Skills/Case 3 & MSK Imaging	Khan, Fayyaz	Blended PBL/XR & 360° VR video	講義(AL)
6/19	木	1	Lesson 10 SEM/MSK	Clinical Skills/Case 3 & Practical Ultrasound	Khan, Fayyaz	Ultrasound Phantoms/POCUS	講義(AL)
6/26	木	1	Lesson 11 In-Course Assessment 3	復習のための課題 3 SEM/MSK Case 3	Khan, Fayyaz		試験
7/3	木	1	Lesson 12 Review	Course Review	Khan, Fayyaz		講義(AL)
8/28	木	1	Lesson 1 SEM/MSK	Clinical Skills/Biomechanics/Case 4 & MSK Imaging	Khan, Fayyaz	Blended PBL/XR & 360° VR video	講義(AL)
9/4	木	1	Lesson 2 SEM/MSK	Clinical Skills/Biomechanics/Case 4 & MSK Imaging	Khan, Fayyaz	Blended PBL/XR & 360° VR video	講義(AL)
9/11	木	1	Lesson 3 SEM/MSK	Clinical Skills/Case 4 & Practical Ultrasound	Khan, Fayyaz	Ultrasound Phantoms/POCUS	講義(AL)
9/18	木	1	Lesson 4 SEM/MSK	Clinical Skills/Case 4 & Practical Ultrasound	Khan, Fayyaz	Ultrasound Phantoms/POCUS	講義(AL)
9/25	木	1	Lesson 5 In-Course Assessment 1	復習のための課題 1 SEM/MSK Case 4	Khan, Fayyaz		試験
10/2	木	1	Lesson 6 SEM/MSK	Clinical Skills/Case 5/Motion Analysis, Dynamometry & Electromyography	Khan, Fayyaz	Blended PBL/XR & 360° VR video	講義(AL)
10/9	木	1	Lesson 7 SEM/MSK	Clinical Skills/Case 5/Motion Analysis, Dynamometry & Electromyography	Khan, Fayyaz	Blended PBL/XR & 360° VR video	講義(AL)
10/16	木	1	Lesson 8 SEM/MSK	Clinical Skills/Case 5 & Practical Ultrasound	Khan, Fayyaz	Ultrasound Phantoms/POCUS	講義(AL)
10/23	木	1	Lesson 9 SEM/MSK	Clinical Skills/Case 5 & Practical Ultrasound	Khan, Fayyaz	Ultrasound Phantoms/POCUS	講義(AL)
10/30	木	1	Lesson 10 In-Course Assessment 2	復習のための課題 2 SEM/MSK Case 5	Khan, Fayyaz		試験
11/6	木	1	Lesson 11 Review	Course review 1	Khan, Fayyaz		講義(AL)
11/13	木	1	Lesson 12 Review	Course review 2	Khan, Fayyaz		講義(AL)

2025年度　3年　講義予定表

【英語・医学英語Ⅲ（Ｂ班）】

月日	曜	時限	講義テーマ	講義内容	担当	教科書	授業形態
4/3	木	1	医療関係の講演1の理解	TED講演 1の候補の試聴と選択	黒田航	スライドと配布資料	講義(AL)
4/10	木	1	医療関係の講演1の理解	TED講演 1の解説1/3	黒田航	スライドと配布資料	講義
4/24	木	1	医療関係の講演1の理解	TED講演 1の解説2/3	黒田航	スライドと配布資料	講義
5/8	木	1	医療関係の講演1の理解，医学用語の理解	TED講演 1の解説3/3; 医学英語の語彙の構造解析	黒田航	スライドと配布資料	講義
5/15	木	1	医療関係の講演1の理解	TED講演 1を基にした読解課題（課題1）	黒田航	スライドと配布資料	試験
5/22	木	1	医療関係の講演1の理解	課題 1の正解解説; TED講演1を基にした聴き取り課題	黒田航	スライドと配布資料	試験
5/29	木	1	医療関係の講演2の理解	TED講演 2の候補の試聴と選択	黒田航	スライドと配布資料	講義(AL)
6/5	木	1	医療関係の講演2の理解	TED講演 2の解説1/3	黒田航	スライドと配布資料	講義
6/12	木	1	医療関係の講演2の理解	TED講演 2の解説2/3	黒田航	スライドと配布資料	講義
6/19	木	1	医療関係の講演2の理解，医学論文の書かれ方を理解する1/2	TED講演 2の解説3/3; 医学論文の構造解析1/2	黒田航	スライドと配布資料	講義
6/26	木	1	医療関係の講演2の理解	TED講演 2を基にした読解課題（課題2）	黒田航	スライドと配布資料と『英語医薬系論文の読みかた・訳しかた』, pp. 43-50	試験
7/3	木	1	医学論文の書かれ方を理解する2/2，医療関係の講演2の理解	課題2の正解解説; 医学論文の構造解析2/2; TED講演2を基にした聴き取り課題	黒田航	スライドと配布資料と『英語医薬系論文の読みかた・訳しかた』, pp. 43-50	試験
8/28	木	1	英語論文の読み方講義 1	講義全体に関するオリエンテーション、および英語論文読解の基礎に関する講義	馬場美彦	スライド、テキスト、配布資料	講義
9/4	木	1	英語論文の読み方講義 2	英語論文読解に関する講義・演習	馬場美彦	スライド、テキスト、配布資料	講義
9/11	木	1	英語論文の読み方講義 3	英語論文読解に関する講義・演習	馬場美彦	スライド、テキスト、配布資料と『英語医薬系論文の読みかた・訳しかた』, pp. 51-56	演習
9/18	木	1	課題 1	講義１・２・３に関する課題１	馬場美彦		試験
9/25	木	1	英語論文の読み方講義 4	英語論文読解に関する講義・演習	馬場美彦	スライド、テキスト、配布資料	講義
10/2	木	1	英語論文の読み方講義 5	英語論文読解に関する講義・演習	馬場美彦	スライド、テキスト、配布資料	演習
10/9	木	1	英語論文の読み方講義 6	英語論文読解に関する講義・演習	馬場美彦	スライド、テキスト、配布資料	演習
10/16	木	1	課題 2	講義４・５に関する課題２	馬場美彦		試験
10/23	木	1	英語論文の読み方講義 7	英語論文読解に関する講義・演習	馬場美彦	スライド、テキスト、配布資料	講義
10/30	木	1	英語論文の読み方講義 8	英語論文読解に関する講義・演習	馬場美彦	スライド、テキスト、配布資料	演習
11/6	木	1	プレゼンテーション演習 1	英語論文の査読・Letterに関する講義・演習	馬場美彦	スライド、テキスト、配布資料	演習(AL)
11/13	木	1	プレゼンテーション演習 2	英語論文の査読・Letterに関する講義・演習	馬場美彦	スライド、テキスト、配布資料	演習(AL)

2025年度　3年　講義予定表

【英語・医学英語Ⅲ（Ｃ班）】

月日	曜	時限	講義テーマ	講義内容	担当	教科書	授業形態
4/3	木	1	英語論文の読み方講義 1	講義全体に関するオリエンテーション、および英語論文読解の基礎に関する講義	馬場美彦	スライド、テキスト、配布資料	講義
4/10	木	1	英語論文の読み方講義 2	英語論文読解に関する講義・演習	馬場美彦	スライド、テキスト、配布資料	講義
4/24	木	1	英語論文の読み方講義 3	英語論文読解に関する講義・演習	馬場美彦	スライド、テキスト、配布資料と『英語医薬系論文の読みかた・訳しかた』, pp. 51-56	演習
5/8	木	1	課題 1	講義１・２・３に関する課題１	馬場美彦		試験
5/15	木	1	英語論文の読み方講義 4	英語論文読解に関する講義・演習	馬場美彦	スライド、テキスト、配布資料	講義
5/22	木	1	英語論文の読み方講義 5	英語論文読解に関する講義・演習	馬場美彦	スライド、テキスト、配布資料	演習
5/29	木	1	英語論文の読み方講義 6	英語論文読解に関する講義・演習	馬場美彦	スライド、テキスト、配布資料	演習
6/5	木	1	課題 2	講義４・５に関する課題２	馬場美彦		試験
6/12	木	1	英語論文の読み方講義 7	英語論文読解に関する講義・演習	馬場美彦	スライド、テキスト、配布資料	講義
6/19	木	1	英語論文の読み方講義 8	英語論文読解に関する講義・演習	馬場美彦	スライド、テキスト、配布資料	演習
6/26	木	1	プレゼンテーション演習１	英語論文の査読・Letterに関する講義・演習	馬場美彦	スライド、テキスト、配布資料	演習(AL)
7/3	木	1	プレゼンテーション演習２	英語論文の査読・Letterに関する講義・演習	馬場美彦	スライド、テキスト、配布資料	演習(AL)
8/28	木	1	医療関係の講演1の理解	TED講演 1の候補の試聴と選択	黒田航	スライドと配布資料	講義(AL)
9/4	木	1	医療関係の講演1の理解	TED講演 1の解説1/3	黒田航	スライドと配布資料	講義
9/11	木	1	医療関係の講演1の理解	TED講演 1の解説2/3	黒田航	スライドと配布資料	講義
9/18	木	1	医療関係の講演1の理解，医学用語の理解	TED講演 1の解説3/3; 医学英語の語彙の構造解析	黒田航	スライドと配布資料	講義
9/25	木	1	医療関係の講演1の理解	TED講演 1を基にした読解課題 (課題1)	黒田航	スライドと配布資料	試験
10/2	木	1	医療関係の講演1の理解	課題 1の正解解説; TED講演 1を基にした聴き取り課題 (課題2)	黒田航	スライドと配布資料	試験
10/9	木	1	医療関係の講演2の理解	TED講演 2の候補の試聴と選択	黒田航	スライドと配布資料	講義(AL)
10/16	木	1	医療関係の講演2の理解	TED講演 2の解説1/3	黒田航	スライドと配布資料	講義
10/23	木	1	医療関係の講演2の理解	TED講演 2の解説2/3	黒田航	スライドと配布資料	講義
10/30	木	1	医療関係の講演2の理解，医学論文の書かれ方を理解する1/2	TED講演 2の解説3/3; 医学論文の構造解析1/2	黒田航	スライドと配布資料	講義
11/6	木	1	医療関係の講演2の理解	TED講演2を基にした読解課題 (課題3)	黒田航	スライドと配布資料と『英語医薬系論文の読みかた・訳しかた』, pp. 43-50	試験
11/13	木	1	医学論文の書かれ方を理解する2/2，医療関係の講演2の理解	課題3の正解解説; 医学論文の構造解析2/2; TED講演 2を基にした聴き取り課題	黒田航	スライドと配布資料と『英語医薬系論文の読みかた・訳しかた』, pp. 43-50	試験

2025年度　3年　講義予定表

【英語・医学英語Ⅲ（Ｄ班）】

月日	曜	時限	講義テーマ	講義内容	担当	教科書	授業形態
4/3	木	1	イントロダクション	授業の概要解説	浜田啓志	配布資料	講義
4/10	木	1	医学論文の精読 (1)	医学論文Aの精読、文法・内容理解訓練	浜田啓志	配布資料	講義
4/24	木	1	医学論文の精読 (2)	医学論文Bの精読、文法・内容理解訓練	浜田啓志	配布資料	講義
5/8	木	1	医学論文の精読 (3)	医学論文Cの精読、文法・内容理解訓練	浜田啓志	配布資料	講義
5/15	木	1	医学論文の精読 (4)	医学論文Dの精読、文法・内容理解訓練	浜田啓志	配布資料	講義
5/22	木	1	前期 第1回授業内課題	前期　第1回授業内課題	浜田啓志	配布資料	試験
5/29	木	1	基本英文の産出 (1)	基本構文を用いた英作文・相互添削訓練 1	浜田啓志	配布資料	講義(AL)
6/5	木	1	医学論文の精読 (5)	医学論文Eの精読、文法・内容理解訓練	浜田啓志	配布資料	講義
6/12	木	1	医学論文の精読 (6)	医学論文Fの精読、文法・内容理解訓練	浜田啓志	配布資料	講義
6/19	木	1	医学論文の精読 (7)	医学論文Gの精読、文法・内容理解訓練	浜田啓志	配布資料	講義
6/26	木	1	前期 第2回授業内課題	前期　第2回授業内課題	浜田啓志	配布資料	試験
7/3	木	1	基本英文の産出 (2)	基本構文を用いた英作文・相互添削訓練 2	浜田啓志	配布資料	講義(AL)
8/28	木	1	医学論文の精読 (8)	医学論文Hの精読、文法・内容理解訓練	浜田啓志	配布資料	講義
9/4	木	1	医学論文の精読 (9)	医学論文Iの精読、文法・内容理解訓練	浜田啓志	配布資料	講義
9/11	木	1	医学論文の精読 (10)	医学論文Jの精読、文法・内容理解訓練	浜田啓志	配布資料	講義
9/18	木	1	基本英文の産出 (3)	基本構文を用いた英作文・相互添削訓練 3	浜田啓志	配布資料	講義(AL)
9/25	木	1	医学論文の精読 (11)	医学論文Kの精読、文法・内容理解訓練	浜田啓志	配布資料	講義
10/2	木	1	後期 第1回授業内課題	後期　第1回授業内課題	浜田啓志	配布資料	試験
10/9	木	1	医学論文の精読 (12)	医学論文Lの精読、文法・内容理解訓練	浜田啓志	配布資料	講義
10/16	木	1	医学論文の精読 (13)	医学論文Mの精読、文法・内容理解訓練	浜田啓志	配布資料	講義
10/23	木	1	医学論文の精読 (14)	医学論文Nの精読、文法・内容理解訓練	浜田啓志	配布資料	講義
10/30	木	1	基本英文の産出 (4)	基本構文を用いた英作文・相互添削訓練 4	浜田啓志	配布資料	講義(AL)
11/6	木	1	後期 第2回授業内課題	後期　第2回授業内課題	浜田啓志	配布資料	試験
11/13	木	1	医学論文の精読 (15)	医学論文Oの精読、文法・内容理解訓練	浜田啓志	配布資料	講義

年度	2025年度	学年	3年
学科目	薬理学	科目ナンバリング	FME-3E01
単位	4単位	コマ数	62コマ
科目責任者	教室主任　櫻井　裕之　教授		
担当教員	教　授　櫻井裕之 助　教　福冨俊之、堅田智久、田中弦、末弘淳一		

A．教育の基本方針	薬理学は生体における薬物の作用を解明する学問である。本カリキュラムの中では、病態生理に基づく薬物療法の基礎を教育するのを基本方針とする。病気と治療薬の対応を暗記するのではなく、なぜその薬物が使われるのか、その作用機序は何なのか、を常に自答し、薬物の効果的な投与法の設計ができる医師を目指して教育する。
B．到達目標	杏林大学医学部教育における到達目標のうち、（２）① 「人体の正常の機能と構造」、（２）② 「主要疾患の病態生理と自然史」の知識を応用して、（２）③ 「薬物治療の原則と、個々の薬物の作用を理解する」、（２）④「主要疾患の治療法を理解する」、の薬物治療の部分を修得することを到達目標とする。それに加え、実習において（３）「問題解決能力とリサーチマインド」の実践の場を提供する。この科目は解剖学、組織学、生化学、分子生物学、感染症学、免疫学からの発展とされる面がある一方、臨床医学の薬物治療への科学的根拠を与えるものである。 【杏林大学医学部学生の到達目標との関連】 講義：(2)-①,②,③,④、実習：(1)-①,②,④, (2)-①,②,③,④, (3)-②,③,④
C．修得すべき能力	1. 薬物の体内での動態と生体への作用の定量的な記述ができ、薬物や毒物の毒性について説明できる。 2. 神経系（中枢、自律、末梢神経）に作用する薬物の、適応、作用機序、薬物動態、副作用について概説できる。 3. 循環器系に作用する薬物の、適応、作用機序、薬物動態、副作用について概説できる。 4. 免疫系や炎症に作用する薬物の、適応、作用機序、薬物動態、副作用について概説できる。 5. 内分泌・代謝疾患に使われる薬物の、適応、作用機序、薬物動態、副作用について概説できる。 6. 腫瘍や感染症に対する化学療法の、適応、作用機序、薬物動態、副作用について概説できる。
D．学習内容	２年生までの解剖、生理、生化学、感染症・免疫学は修得している前提で講義をする。教員から学生への一方向の講義だけでなく、学生のアクティブラーニングを進めるため、１）指名して意見を述べてもらうこと、２）講義後に発展的な課題を与え、提出してもらうミニレポート、３）教科書の予習によって学んだ知識を活かして問題解決するようなセミ反転授業　を取り入れる。
E．実習・課外授業	実習の詳細は実習書（実習前の講義で配布する）を参照すること。動物実験が含まれるが、それらの項目は横紋筋の収縮・弛緩、平滑筋の収縮, 尿路上皮での電解質輸送であり、現状で動物の組織を代替する手段はない。生体組織の精妙さに思いをいたし、動物の命を頂いているという意識をもって、真摯に取り組んでもらいたい。 動物実験の実習は学生を３－４グループに分けて実験を行ってもらう。実験中に疑問や提案があれば教官に申し出てほしい。実験が終わった時点で得られた結果をグループごとに討論しながら、課題に対する回答を作成する。この時点で教官による口頭試問を行うことがある。各実習終了時には、それぞれのグループのデータを比較し、考察についての講評を行う。レポートはこのグループ討議や教官による講評を参考に作成するが、少しでもよいから学生独自の考察をいれることを期待する。課題は教室で用意するが、自ら考え、学生同士で討論し、それを踏まえてさらに自分自身で考察するといったアクティブな姿勢で取り組むこと。 金曜日を実習総合討論の日とし、希望者に月曜日の実習内容をプレゼンテーションしてもらい、それに対してクラス全体で総合討論を行う（アクティブラーニング）。詳細は実習時に説明する。 基礎研究を体験したい学生は、面談の上、教室での研究を許可する。意欲のある学生には、研究成果の学会発表、論文化なども行ってもらう。
F．準備学習の内容	予定表に記載した講義内容を教科書で予習してくること。特に、章の前半にある解剖、生理、免疫、生化学など２年生までに学習していた内容についての理解を確実にし、余力があれば病態にまで目を通しておく。各回75分程度の予習を期待する。講義では取り上げないが神経生理の基礎の復習として重要な教科書（和訳）７、８章は４月中に自習しておくこと。
G．復習学習の内容	講義内容を理解できるように該当の章を読み、症例問題の解答を自力で作成してみる。章末の薬物のまとめ表に目を通し、代表的な薬物の作用機序、適応、禁忌などについて理解する。復習課題が教員から出された場合はそれに取り組む。各講義につき75分の復習を期待する。
H．成績評価の方法・基準	１．試験の方針 講義、実習の内容を理解できたかを総合的に評価し、合否を判定する。 ２．試験の期日と実施方法 前期定期試験として、8月25日(月)に行う筆記試験と実習のレポートが評価の対象となる。実習内容と神経生理学の基礎（教科書（和訳）７、８章)、心血管系薬理総論（教科書（和訳）25章）も筆記試験範囲に含む。再試験は筆記試験で行う。 ３．評価法 筆記試験：80点　実習（出席10点＋レポート10点）：20点の100点満点中60点以上の得点を得たものを合格とする。実習していない項目のレポートは受理せず、レポート点も与えない。特に優秀なレポートには加点することがある。詳細は実習開始時に説明する。 講義の出席（実習の出席は含めない）が、２／３を下回るものには筆記試験の本試験、追試験とも受験資格を与えない。原則として、実習はすべて出席しなければ筆記試験の受験資格を失う。 再試験は原則として筆記試験で満点の60％以上の得点を得た者を合格とするが、最終的には本試験と実習の成績も考慮して判定する。再試での合格者の科目の得点は60点となる。 ４．試験・実習レポートのフィードバック

	本試験に関しては、試験後できるだけ速やかに講評の講義を設ける予定である。レポートについても２週間程度で返却する予定であるが、全体的な講評は適宜担当教員の講義の中で行う。

Ｉ．学習指導書

①教科書（学生が所持しなければならないもの）	Golan et al, Principles of Pharmacology （4th ed）, Lippincott Williams & Wilkins ハーバード大学講義テキスト　臨床薬理学 原書３版 （丸善）上記の１つ前の版の和訳。 ＊３，４版の間に大きな違いはない。新たに４版で加わった事項は講義中に解説する。 この教科書を理解できるまで読みこんでもらいたいのであえて他の参考書はあげない。さらに進んだ内容を学習したい学生は教員に相談してほしい。
②参考書Ａ（学生の所持をすすめるもの）	なし ※(R)：Remedial …　教科書の理解を助けるような補習的なもの 　(A)：Advanced　…　教科書より進んだ学習のためのもの
③参考書Ｂ（図書館等での利用をすすめるもの）	なし ※(R)：Remedial …　教科書の理解を助けるような補習的なもの 　(A)：Advanced　…　教科書より進んだ学習のためのもの

Ｊ．講義予定表

「添付資料」参照

2025年度　3年　講義予定表

【薬理学】

月日	曜	時限	講義テーマ	講義内容	担当	教科書	授業形態
4/3	木	2	薬物作用の原理と薬物標的	薬物作用の原則を物理化学的に理解し、薬物標的としてのイオンチャネル、GPCR、膜貫通型レセプター、細胞内レセプターなどにつき学習する。	櫻井裕之	Chapter 1	講義
4/3	木	3	薬力学	薬物が生体にどのように作用するかを定量的に記述する方法、すなわち用量反応曲線について学習する。さらに、薬物の存在で生理的リガンドの用量反応曲線がどう変化するかを理解する。データ解釈の問題演習（AL)も行う	櫻井裕之	Chapter 2	講義(AL)
4/7	月	1	薬物動態学（1）	投与した薬物が血中に至るまでの過程を、吸収、分布、代謝、排泄に分けて概説し、薬物の細胞膜通過の様式、薬物投与経路による吸収、蛋白結合と分布について学習する。	櫻井裕之	Chapters 3,4	講義
4/7	月	2	薬物動態学（2）	薬物が代謝されたり、排泄されたりする過程を定量的に記載し、薬物の一次の消失とそれが成立している場合の薬物動態パラメタ-につき学習する。	櫻井裕之	Chapters 3,4	講義
4/8	火	4	薬物の毒性	薬物の毒性につき、作用標的との関係で記述することを学ぶ。さらに毒性のメカニズムとして、免疫学的機序と臓器特異的な細胞障害による臓器毒性について学習する。	田中弦	Chapter 5	講義
4/8	火	5	薬理遺伝学	ゲノム科学が個別化薬物療法にどのように役立っているかを学ぶ。	堅田智久	Chapter 6	講義
4/10	木	2	コリン神経	アセチルコリンが神経伝達物質となる、副交感神経系と神経筋接合部について、その受容体の仕組みと作用薬や阻害薬について学習する。	福冨俊之	Chapter 9	講義
4/10	木	4	アドレナリン神経	交感神経系の神経伝達物質（カテコラミン）の合成と代謝、その受容体について学習し、受容体の刺激薬や阻害薬とその適応について理解する。発展的課題のミニレポートを課す（AL)。	末弘淳一	Chapter 10	講義(AL)
4/10	木	5	血管緊張の調節	血管拡張や収縮に働く薬物の作用機序を細胞内信号伝達経路を含めて理解する。ニトロ製剤、アルファ１阻害薬、カルシウム阻害薬、hydralazine、Ｋチャネル開口薬などを扱う。	末弘淳一	Chapter 21	講義
4/11	金	2	局所麻酔薬	末梢での痛覚伝導の仕組みを概説し、電位依存性ナトリウムチャネルを標的とする、局所麻酔薬の作用機序につき理解を深める。代表的な薬物と麻酔法についても学習する。	福冨俊之	Chapter 11	講義
4/11	金	4	体液調節	血管容量調節系として、レニン・アンギオテンシン・アルドステロン系、交感神経系、ナトリウム利尿ペプチド系、抗利尿ホルモン系について学習する。腎臓でのナトリウム再吸収の仕組みとそれをブロックする利尿薬についても学ぶ。	堅田智久	Chapter 20	講義
4/14	月	1	薬理学実習	シラバスの実習についての記載を参照。３つの動物実験については、小グループで実験し、学生同士の討論を行う。	櫻井裕之、福冨俊之、堅田智久、田中弦、末弘淳一		実習(AL)
4/14	月	2	薬理学実習		櫻井裕之、福冨俊之、堅田智久、田中弦、末弘淳一		実習(AL)
4/14	月	3	薬理学実習		櫻井裕之、福冨俊之、堅田智久、田中弦、末弘淳一		実習(AL)
4/14	月	4	薬理学実習		櫻井裕之、福冨俊之、堅田智久、田中弦、末弘淳一		実習(AL)
4/14	月	5	薬理学実習		櫻井裕之、福冨俊之、堅田智久、田中弦、末弘淳一		実習(AL)
4/15	火	1	薬理学実習		櫻井裕之、福冨俊之、堅田智久、田中弦、末弘淳一		実習(AL)
4/15	火	2	薬理学実習		櫻井裕之、福冨俊之、堅田智久、田中弦、末弘淳一		実習(AL)
4/15	火	3	薬理学実習		櫻井裕之、福冨俊之、堅田智久、田中弦、末弘淳一		実習(AL)
4/15	火	4	薬理学実習		櫻井裕之、福冨俊之、堅田智久、田中弦、末弘淳一		実習(AL)
4/15	火	5	薬理学実習		櫻井裕之、福冨俊之、堅田智久、田中弦、末弘淳一		実習(AL)
4/16	水	1	薬理学実習		櫻井裕之、福冨俊之、堅田智久、田中弦、末弘淳一		実習(AL)
4/16	水	2	薬理学実習		櫻井裕之、福冨俊之、堅田智久、田中弦、末弘淳一		実習(AL)
4/16	水	3	薬理学実習		櫻井裕之、福冨俊之、堅田智久、田中弦、末弘淳一		実習(AL)
4/16	水	4	薬理学実習		櫻井裕之、福冨俊之、堅田智久、田中弦、末弘淳一		実習(AL)
4/16	水	5	薬理学実習		櫻井裕之、福冨俊之、堅田智久、田中弦、末弘淳一		実習(AL)

2025年度　3年　講義予定表

【薬理学】

月日	曜	時限	講義テーマ	講義内容	担当	教科書	授業形態
4/17	木	1	薬理学実習		櫻井裕之、福冨俊之、堅田智久、田中弦、末弘淳一		実習(AL)
4/17	木	2	薬理学実習		櫻井裕之、福冨俊之、堅田智久、田中弦、末弘淳一		実習(AL)
4/17	木	3	薬理学実習		櫻井裕之、福冨俊之、堅田智久、田中弦、末弘淳一		実習(AL)
4/17	木	4	薬理学実習		櫻井裕之、福冨俊之、堅田智久、田中弦、末弘淳一		実習(AL)
4/17	木	5	薬理学実習		櫻井裕之、福冨俊之、堅田智久、田中弦、末弘淳一		実習(AL)
4/18	金	1	薬理学実習	実習総合討論会：４つのテーマにつき希望者数名が実習の背景、内容、データ、解釈について全員にプレゼンテーションをしたのち質疑応答を行う。	櫻井裕之、福冨俊之、堅田智久、田中弦、末弘淳一		実習(AL)
4/18	金	2	薬理学実習		櫻井裕之、福冨俊之、堅田智久、田中弦、末弘淳一		実習(AL)
4/18	金	3	薬理学実習		櫻井裕之、福冨俊之、堅田智久、田中弦、末弘淳一		実習(AL)
4/18	金	4	薬理学実習		櫻井裕之、福冨俊之、堅田智久、田中弦、末弘淳一		実習(AL)
4/18	金	5	薬理学実習		櫻井裕之、福冨俊之、堅田智久、田中弦、末弘淳一		実習(AL)
4/21	月	1	心臓リズム調節	心臓のリズムの発生機序とその調節機構、それが破綻したときの不整脈の病態生理について解説する。抗不整脈薬の薬理作用を臨床上汎用される4群に分けるが、標的分子ベースでの理解を試みる。	櫻井裕之	Chapter 23	講義
4/21	月	2	心筋収縮力の調節	心筋収縮の生理を理解したうえで、強心薬として使われている、Digoxin, beta adrenergic receptor agonist, phosphodiestrase inhibitorの作用メカニズムを学ぶ。	櫻井裕之	Chapter 24	講義
4/24	木	2	コレステロールとリポタンパク代謝	コレステロールとリポタンパク代謝について学習し、その異常としての高脂血症と、その心血管系への悪影響の病態生理を理解する。その治療薬と作用メカニズム、副作用について学ぶ。発展的課題のミニレポートを課す（AL)。	末弘淳一	Chapter 19	講義(AL)
4/25	金	2	止血と血栓	不整脈、心不全、血栓症、塞栓症、虚血性心疾患の治療で重要な血小板機能阻害薬と抗凝固薬、そして血栓溶解薬について学ぶ。	福冨俊之	Chapter 22	講義
4/30	水	3	GABA神経とグルタミン酸神経	中枢神経の抑制性伝達物質としてのGABA作動性ニューロンとそこに作用する薬物、興奮性伝達物質として代表的なグルタミン酸作動性ニューロンの機能とそこに作用する薬物について学ぶ。	堅田智久	Chapter 12	講義
5/7	水	2	てんかん・痙攣	中枢神経系の異常な電気活動であるてんかん・痙攣の病態とその治療薬の作用メカニズムと臨床適応、主な副作用について学ぶ。	田中弦	Chapter 15	講義
5/8	木	2	中枢ドパミン神経	中枢でのドーパミン作用が不足した状態であるパーキンソン病の病態と薬物治療の原理を理解する。また、ドーパミンの阻害により、薬効を発揮していると考えられている向精神薬について学ぶ。	田中弦	Chapter 13	講義
5/9	金	2	エイコサノイドの薬理	アラキドン酸由来のオータコイドであるエイコサノイドは、炎症だけでなく、血管系、血小板などにも深く関わっており重要な薬物の標的である。この生理作用と薬理について学ぶ。	田中弦	Chapter 42	講義
5/12	月	1	鎮痛薬	痛覚伝導路と下行性抑制路について主な神経伝達物質とその受容体を学習し、慢性疼痛の病態生理を理解する。そのうえで、鎮痛薬の作用メカニズムと適応、副作用について学ぶ。	櫻井裕之	Chapter 17	講義
5/12	月	2	中枢のセロトニン神経とアドレナリン神経	セロトニン系とアドレナリン系神経は鬱病の病態と関わっているとみなされ、その増強が治療のターゲットとなっている。その病態生理と抗鬱薬の作用メカニズムと副作用について学ぶ。	櫻井裕之	Chapter 14	講義
5/15	木	2	ヒスタミン	炎症の主要なmediatorであり、胃酸の分泌や中枢神経系にも作用するヒスタミンの作用機序と機能阻害薬について学ぶ。消化性潰瘍治療薬についても学ぶ。	福冨俊之	Chapters 43、46	講義
5/16	金	1	依存性薬物	身体的依存と精神的依存を生じさせる薬物と、それらの依存形成のメカニズムを分子レベルで理解する。それらの薬物の摂取による症状、離脱症状を学んだうえで、解毒法を学習する。	櫻井裕之	Chapter 18	講義
5/16	金	2	全身麻酔薬	中枢神経系を抑制することにより、動きと痛覚を抑えて手術を容易にするのが全身麻酔である。吸入麻酔薬と静脈麻酔薬につきその作用メカニズムと薬物動態を学ぶ。	櫻井裕之	Chapter 16	講義
5/19	月	1	副腎皮質の薬理	副腎皮質ステロイドについて、その産生、代謝、生理的機能を学ぶ。グルココルチコイドの臨床適応と主な副作用について理解する。ミネラルコルチコイドについても学習する。	堅田智久	Chapter 28	講義
5/19	月	2	免疫抑制薬	免疫抑制薬の作用メカニズムと副作用について学ぶ。副腎皮質ステロイド、細胞毒性薬から、より毒性の少ないリンパ球の抑制薬や炎症性サイトカインやその受容体の抑制薬までをカバーする。発展的課題のミニレポートを課す（AL).	末弘淳一	Chapter 45	講義(AL)
5/22	木	2	喘息と痛風	炎症の統合的理解として、アレルギーを基盤とする喘息の病態生理と治療薬、自然免疫の活性化を基盤とする痛風の病態生理と治療について学習する。	福冨俊之	Chapters 47、48	講義
5/23	金	2	化学療法の原則	腫瘍や感染症への化学療法の原則を学び、葉酸代謝拮抗薬の作用メカニズムを細菌、原虫、哺乳類で比較し、どのように臨床使用されているかを理解する。	福冨俊之	Chapter 32	講義

2025年度　3年　講義予定表

【薬理学】

月日	曜	時限	講義テーマ	講義内容	担当	教科書	授業形態
5/26	月	1	DNAやタンパク質合成阻害薬	DNAやタンパク質合成系への阻害作用を持つ薬物と適応、主な副作用について学習する。キノロン、リファンピシン、リボソーム阻害薬が対象となる。	田中弦	Chapter 33	講義
5/26	月	2	細胞壁阻害薬	細胞壁合成の阻害作用をもつ薬物と適応、主な副作用について学習する。ベータラクタム薬、バンコマイシン、ホスホマイシンや多くの抗結核薬が対象となる。	堅田智久	Chapter 34	講義
5/29	木	2	抗真菌薬	真菌への化学療法の標的分子と作用メカニズムについて理解し、主な抗真菌薬の適応と副作用について学ぶ。アゾール系、ポリエン系、エキノキャンディン系、フルシトシン、などが対象となる。	末弘淳一	Chapter 35	講義
5/29	木	3	抗ウイルス薬	ヘルペスウイルス、HIV, CMV,インフルエンザなどウイルスへの化学療法の標的と作用機序、主な薬物とその副作用について学習する。発展的課題のミニレポートを課す（AL).	末弘淳一	Chapter 37	講義(AL)
5/30	金	2	古典的抗腫瘍薬	主にDNA合成や修復の過程を阻害する古典的抗腫瘍薬である代謝拮抗薬、DNA構造を変える、アルキル化薬や白金製剤、トポイソメラーゼを標的とする薬物、微小管阻害薬につき学習する。	田中弦	Chapter 38	講義
5/30	金	3	信号伝達と分子標的治療	悪性腫瘍の分子標的治療の理解のため、がん細胞における増殖促進の信号伝達系について学習し、それを阻害する、抗体や小分子医薬について学ぶ。	櫻井裕之	Chapter 39	講義
6/2	月	1	造血の薬理	造血の仕組みを学習し、赤血球、白血球、血小板のそれぞれの系統で、どのような薬物により、その産生を増加させることができるか理解する。	櫻井裕之	Chapter 44	講義
6/2	月	2	膵内分泌と糖尿病	膵臓から分泌されるホルモンとその作用を理解し、その異常として有病率の高い糖尿病について学ぶ。近年多く開発されている２型糖尿病治療薬に重点をおいて理解する。症例検討（AL)を予定している。	櫻井裕之	Chapter 30	講義(AL)
6/5	木	2	骨・ミネラル代謝	カルシウム・リン代謝と骨代謝について学び、その主要調節因子であるPTH,ビタミンD,FGF23、カルシトニンの作用を理解する。骨粗鬆症と腎性骨異栄養症について病態生理と治療を学ぶ。	堅田智久	Chapter 31	講義

年度	2025年度	学年	3年
学科目	病理学Ａ	科目ナンバリング	FME-3E02
単位	2単位	コマ数	29コマ
科目責任者	柴原純二　教授		
担当教員	教　授　　柴原純二、藤原正親 准教授　　長濱清隆、林玲匡、里見介史		

Ａ．教育の基本方針	病理学は形態学を基盤に病気・病態の解明を目指す基礎医学の一分野であるとともに、形態に基づいた病気の診断（病理診断）を通して臨床医学にも貢献している。病理学Aは病理学総論と病理学各論の一部から構成され、病理学総論では疾患の分類や病因、成立機序の基本を学び、病理学各論では各領域の主要疾患の病態や形態像について学ぶ。
Ｂ．到達目標	病理学総論では、病気の原因（病因）や基本病型を学び、炎症・免疫、先天異常、代謝障害、循環障害、腫瘍について分子から臓器レベルの視点で病態を理解する。病理学各論では、循環器および消化器の主要な疾患の病因、発病機構と病理形態について理解する。 【医学教育モデル・コア・カリキュラム（R4版）学修目標との関連】 RE-01-02-01,02, 02-01-01 PS-01-01-01,03,04,05,06,07,08,09,10, -01-02-04,05,07,10,11,12,13,14,25,28,29,30,31,32,37, -01-03-18,19,20,21,22,23, -01-04-05,06,07,08,09,10,12,13,15,16,17,19,20,21,22,23,24, -02-01-01, -02-06-01,05, -02-08-01,05, -03-04-01,06,07,08,14, 03-05-02, S0-03-01-05 【杏林大学医学部学生の到達目標との関連】 講義：(2)-①,②,③,④,⑥、実習：(1)-①,②, (2)-①,②,③,④,⑥, (3)-②,③,④
Ｃ．修得すべき能力	1. 病因の分類、基本病型について説明できる。 2. 細胞傷害、炎症・免疫、先天異常、代謝障害、循環障害、腫瘍 について、病気・病態の成立機序や特徴的な形態変化を説明できる。 3. 主要な循環器・消化器疾患の病態と形態変化を説明できる。
Ｄ．学習内容	以下の内容で病理学総論・各論の系統的講義・実習を行う。数字は講義数（うち実習数）。 1. 病理学総論　　１５（３） 　序論　　1 　細胞傷害　　1 　炎症・免疫　　４（１） 　先天異常　　1 　代謝障害　　1 　循環障害　　３（１） 　腫瘍　　４（１） 2. 病理学各論　　１４（３） 　循環器疾患　　５（１） 　消化器疾患　　９（２） アクティブラーニングの実施法 講義内容を題材とした討議・発表の機会を設ける。講義によっては小テストを実施する。
Ｅ．実習・課外授業	1. 実習 バーチャルスライドを用いた組織標本の観察と関連課題への取り組みを通して、病気の理解を深める。バーチャルスライドの観察にはPCもしくはタブレットを用いるため、各自持参のこと（スマートフォンは不可）。 アクティブラーニングの実施法：バーチャルスライドでの検討結果について討議・発表の機会を設ける。 2. 課外授業 希望する学生には「自由研究プログラム」で対応する。より踏み込んだ病理診断力の習得や病理学に関する研究の課題を提供する。
Ｆ．準備学習の内容	講義に際しては、シラバスを参照し、教科書の該当箇所に目を通しておく。 実習に際しては、関連講義の内容について教科書や配布資料を用いて復習しておく。 所要時間の目安：各コマ75分程度
Ｇ．復習学習の内容	教科書や配布資料を再度熟読して復習する。 所要時間の目安：各コマ75分程度
Ｈ．成績評価の方法・基準	1. 試験の方針 講義・実習で学んだことの習得の有無を判定する。 2. 試験の方法と評価 試験は筆記試験でマークシート、再生形式、記述式を併用する。 3. 評価 筆記試験の点数に加え、アクティブラーニングを含めた講義・実習時の態度や課題に対する評価も加え、総合的に判断する。 4.フィードバックの方法 講義や実習時の課題については講義・実習時間内に解説を行い、課題によってはUNIPAを介して全体ないし個別のフィードバックを行う。試験について試験終了後に模範解答を配布する。

Ⅰ．学習指導書

①教科書（学生が所持しなければならないもの）	標準病理学　医学書院　2023
②参考書Ａ（学生の所持をすすめるもの）	（R）病理組織の見方と鑑別診断　医歯薬出版　2020 ※(R)：Remedial …　教科書の理解を助けるような補習的なもの （A)：Advanced　…　教科書より進んだ学習のためのもの
③参考書Ｂ（図書館等での利用をすすめるもの）	（R）ロビンス基礎病理学　丸善　2025 （R）ルービン病理学　西村書店　2017 （R）解明病理学　医歯薬出版　2021 （A）外科病理学　文光堂　2020 ※(R)：Remedial …　教科書の理解を助けるような補習的なもの （A)：Advanced　…　教科書より進んだ学習のためのもの

Ｊ．講義予定表

「添付資料」参照

2025年度　3年　講義予定表

【病理学Ａ】

月日	曜	時限	講義テーマ	講義内容	担当	教科書	授業形態
4/2	水	1	序論	病理学の概要について歴史を含めて概説する。病理診断の実践についても解説する。	柴原純二	p3～p8	講義
4/2	水	2	細胞障害	細胞障害の機序、変性、壊死、修復と再生、肥大、過形成、萎縮、細胞分化の異常について講義する。評価以外の小テストを行う。	藤原正親	p9～p32	講義(AL)
4/4	金	1	炎症（1）	炎症の定義と病因、炎症の徴候、炎症の分類と反応形式（病理組織学的変化）について講義する。評価以外の小テストを行う。	藤原正親	p33～p36, p46～p67	講義(AL)
4/9	水	1	炎症（2）	炎症急性期の病態とメディエーター、サイトカイン、炎症細胞浸潤と走化因子について説明し、その病理組織学的変化について解説する。	林玲匡	p34～p67	講義(AL)
4/9	水	2	炎症（3）・実習	線維素性炎、化膿性炎および結核、真菌、ウイルス、原虫などの感染症の組織像を観察し、その病理所見についての理解を深める。	藤原正親	p33～p92	実習(AL)
4/9	水	3	免疫	免疫系の構築と特徴、液性免疫、細胞性免疫について概説する。腫瘍免疫、自己免疫疾患についても解説を加える。ユニパに付属するクリッカーを用い双方向性を高め、能動的学習を促す。	長濱清隆	p93～p134	講義(AL)
4/9	水	4	先天異常	先天異常について、染色体・遺伝子および発生の異常にわけて概説する。ユニパに付属するクリッカーを用い双方向性を高め、能動的学習を促す。	長濱清隆	p201～p238	講義(AL)
4/11	金	1	代謝障害	糖代謝、脂質代謝、蛋白質代謝を中心として、代謝障害の病理について解説する。ユニパに付属するクリッカーを用い双方向性を高め、能動的学習を促す。	長濱清隆	p135～p164	講義(AL)
4/23	水	1	循環障害（1）	浮腫（水腫）、充血、うっ血、出血，血栓形成，塞栓症、梗塞、播種性血管内凝固症候群（DIC）について講義する。評価以外の小テストを行う。	藤原正親	p165～p188	講義(AL)
4/23	水	2	腫瘍（1）	「『がん』とは何か？」をテーマとして、腫瘍の概念・定義、悪性腫瘍と良性腫瘍の違い、腫瘍の分類・命名法について講義する。発がんの原因や誘因についても解説する。講義内容を題材とした課題を設ける。	林玲匡	p240～p283	講義(AL)
4/23	水	3	腫瘍（2）	「『がん』の病理診断」をテーマとして、病理医がどのようにがんを診断しているかについて講義する。診断の補助となる免疫組織化学染色やin situ hybridizationについても解説する。講義内容を題材とした課題を設ける。	林玲匡	p240～p283	講義(AL)
4/25	金	1	腫瘍（3）	「『がん』の診断のその先へ」をテーマとして、近年その重要性が増す分子標的薬やがんゲノム医療などについて解説し、病理医が担う役割について解説する。講義内容を題材とした課題を設ける。	林玲匡	p240～p283	講義(AL)
4/25	金	4	循環障害（2）	心不全，高血圧と低血圧，ショックの概要とショックに伴う各臓器の組織所見について解説する。評価以外の小テストを行う。	藤原正親	p189～p199	講義(AL)
4/25	金	5	循環障害（3）・実習	血栓症の症例やDICによる腎臓のフィブリン血栓を観察する。梗塞の例として腎梗塞と脳梗塞症例の観察を行う。	藤原正親	p165～p200	実習(AL)
5/7	水	5	腫瘍（4）・実習	これまでの講義を復習を中心とした演習形式の実習を行う。バーチャルスライドを使用して、実際のがんの診断も体験してもらう。	林玲匡	資料配付	実習(AL)
5/14	水	1	循環器疾患（1）	心臓の肉眼解剖を復習する。心肥大と心拡張、心萎縮、先天性心疾患の病理について講義する。評価以外の小テストを行う。	藤原正親	p353～p357	講義(AL)
5/14	水	2	循環器疾患（2）	弁膜疾患および心内膜疾患、心筋症や心筋炎を含む心筋疾患、心外膜疾患の病理について講義する。評価以外の小テストを行う。	藤原正親	p361～p374	講義(AL)
5/21	水	1	循環器疾患（3）	大動脈の粥状動脈硬化の病理と動脈瘤、血管炎の病理について解説する。また血管系の腫瘍性病変についても簡潔に講義する。講義内容を題材とした演習・その他の検討の機会を設ける。	里見介史	p339～p352	講義(AL)
5/21	水	2	循環器疾患（4）	動脈硬化による冠動脈狭窄と心筋虚血の病理について解説する。急性心筋梗塞、陳旧性心筋梗塞の組織学的所見に重点を置いた説明を行う。講義内容を題材とした演習・その他の検討の機会を設ける。	里見介史	p353～p374	講義(AL)
5/28	水	1	循環器疾患（5）・実習	代表的循環器疾患の組織像を観察し、疾患の発生機序とその病理所見についての理解を深める。	藤原正親	p339～p374	実習(AL)
5/28	水	2	消化管疾患（1）	食道疾患の病理・病態について解説する。食道の基本構造、先天異常、アカラシア、胃食道逆流症、バレット食道、感染性食道炎、食道静脈瘤、食道腫瘍などを取り上げる。講義内容を題材とした演習・その他の検討の機会を設ける。	柴原純二	p433～p439	講義(AL)
5/28	水	3	消化管疾患（2）	胃疾患の病理・病態について解説する。胃の基本構造、急性胃炎、慢性胃炎、消化性潰瘍、ポリープ、腫瘍性疾患などを取り上げる。講義内容を題材とした演習・その他の検討の機会を設ける。	柴原純二	p440～p458	講義(AL)
6/4	水	1	消化管疾患（3）	下部消化管の非腫瘍性疾患の病理・病態について解説する。下部消化管の基本構造、炎症性腸疾患、感染性腸炎、偽膜性腸炎、虚血性腸炎などを取り上げる。講義内容を題材とした演習・その他の検討の機会を設ける。	柴原純二	p459～p480	講義(AL)
6/4	水	2	消化管疾患（4）	下部消化管の腫瘍性疾患の病理・病態について解説する。腺腫、癌、ポリポーシスなどを取り上げる。講義内容を題材とした演習・その他の検討の機会を設ける。	柴原純二	p459～p480	講義(AL)
6/4	水	3	肝胆膵疾患（1）	肝疾患の病理・病態について解説する。肝臓の基本構造、ウイルス性肝炎、肝硬変、肝膿瘍、自己免疫性肝炎、薬物性肝障害、劇症肝炎などを取り上げる。講義内容を題材とした演習・その他の検討の機会を設ける。	柴原純二	p481～p514	講義(AL)
6/11	水	1	肝胆膵疾患（2）	肝疾患の病理・病態について解説する。原発性胆汁性胆管炎、非アルコール性脂肪性肝疾患、アルコール性肝疾患、ヘモクロマトーシス、Budd-Chiari症候群、肝腫瘍などを取り上げる。講義内容を題材とした演習・その他の検討の機会を設ける。	柴原純二	p481～p514	講義(AL)
6/11	水	2	肝胆膵疾患（3）	胆膵系疾患の病理・病態について解説する。胆膵系の先天異常、胆石症、胆道炎、原発性硬化性胆管炎、急性・慢性膵炎、IgG4関連疾患、胆膵系の腫瘍などを取り上げる。講義内容を題材とした演習・その他の検討の機会を設ける。	柴原純二	p514～p534	講義(AL)
6/18	水	1	消化器疾患・実習（1）	代表的な消化管疾患の組織像をバーチャルスライドで検討し、疾患についての理解を深める。	柴原純二	p433～p480	実習(AL)
6/18	水	2	消化器疾患・実習（2）	代表的な肝胆膵疾患の組織像をバーチャルスライドで検討し、疾患についての理解を深める。	柴原純二	p481～p534	実習(AL)

年度	2025年度	学年	3年
学科目	病理学Ｂ	科目ナンバリング	FME-3E03
単位	2単位	コマ数	２８コマ
科目責任者	藤原正親　教授		
担当教員	教　授　　柴原純二、藤原正親 准教授　　長濱清隆、里見介史 助　教　　日比谷孝志		

Ａ．教育の基本方針	病理学は病気のメカニズムを明らかにすることを目的とする学問で、医学教育上は基礎医学と臨床医学を繋ぎ統合する役割を担う。膨大な臨床医学の知識を効率的に学ぶ為に、病理学を十分に理解し習得する。病理学Bでは、病理学Aの各論に含まれない臓器系ごとの疾病の発病機構と病理像について学ぶ。
Ｂ．到達目標	病理学総論で学んだことを基礎に、呼吸器、腎臓・泌尿器、神経・筋、乳腺、整形外科、血液・リンパ節、産婦人科、内分泌・代謝、皮膚科、耳鼻咽喉科の主要な疾患について、発病機構と病理形態について理解する。 【杏林大学医学部学生の到達目標との関連】 講義：(2)-①,②,③,④,⑥、実習：(1)-①,②, (2)-①,②,③,④,⑥, (3)-②,③,④
Ｃ．修得すべき能力	１．主要な呼吸器疾患の病態と形態変化を説明できる。 ２．主要な腎臓・泌尿器疾患の病態と形態変化を説明できる。 ３．主要な神経・筋疾患の病態と形態変化を説明できる。 ４．主要な産婦人科疾患の病態と形態変化を説明できる。 ５．主要な血液疾患の病態と形態変化を説明できる。 ６．主要な乳腺・内分泌・代謝疾患の病態と形態変化を説明できる。 ７．主要な整形外科疾患の病態と形態変化を説明できる。 ８．主要な皮膚科疾患の病態と形態変化を説明できる。 ９．主要な耳鼻咽喉科疾患の病態と形態変化を説明できる。
Ｄ．学習内容	以下の内容で病理学各論の系統的講義・実習を行う。数字は講義数。 病理学各論　２８ 呼吸器　3 腎臓・泌尿器　3 産婦人科　3 血液　2 神経・筋　3 乳腺・内分泌・代謝　2 整形外科　1 耳鼻咽喉科　1 皮膚　2 各論実習　8 「アクティブ・ラーニングの実施法」講義内容を題材とした討議・発表の機会を設ける。講義によってはグループディスカッション、小テストを実施する。
Ｅ．実習・課外授業	1. 実習 バーチャルスライドを用いた組織標本の観察と関連課題への取り組みを通して、病気の理解を深める。バーチャルスライドの観察にはPCもしくはタブレットを用いるため、各自持参のこと（スマートフォンは不可）。 「アクティブ・ラーニングの実施法」バーチャルスライドでの検討結果について討議・発表の機会を設ける。 2. 課外授業 希望する学生には「自由研究プログラム」で対応する。より踏み込んだ病理診断力の習得や病理学に関する研究の課題を提供する。
Ｆ．準備学習の内容	講義に際しては、シラバスを参照し、教科書の該当箇所に目を通しておく。所要時間1～2時間。 実習に際しては、関連講義の内容について教科書や配布資料を用いて復習しておく。所要時間の目安：各コマ75分程度。
Ｇ．復習学習の内容	教科書や配布資料を再度熟読して復習する。所要時間の目安：各コマ75分程度。
Ｈ．成績評価の方法・基準	1. 試験の方針 講義・実習で学んだことの習得の有無を判定する。 2. 試験の方法と評価 試験は筆記試験でマークシート、再生形式、記述式を併用する。 3. 評価 筆記試験の点数に加え、アクティブラーニングを含めた講義・実習時の態度や課題に対する評価も加え、総合的に判断する。 4.フィードバックの方法 講義や実習時の課題については講義・実習時間内に解説を行い、課題によってはUNIPAを介して全体ないし個別のフィードバックを行う。試験について試験終了後に模範解答を配布する。

Ｉ．学習指導書

①教科書（学生が所持しなければならないもの）	標準病理学　医学書院　2023

②参考書Ａ（学生の所持をすすめるもの）	（R）病理組織の見方と鑑別診断　医歯薬出版　2020 ※(R)：Remedial …　教科書の理解を助けるような補習的なもの （A)：Advanced　…　教科書より進んだ学習のためのもの
③参考書Ｂ（図書館等での利用をすすめるもの）	（R）ロビンス基礎病理学　丸善　2025 （R）ルービン病理学　西村書店　2017 （R）解明病理学　医歯薬出版　2021 （A）外科病理学　文光堂　2020 ※(R)：Remedial …　教科書の理解を助けるような補習的なもの （A)：Advanced　…　教科書より進んだ学習のためのもの

Ｊ．講義予定表

「添付資料」参照

2025年度　3年　講義予定表

【病理学Ｂ】

月日	曜	時限	講義テーマ	講義内容	担当	教科書	授業形態
8/27	水	1	腎疾患（1）	腎の構造と機能、腎機能異常の基本病態、糸球体腎炎の発生機序、一次性糸球体病変について解説する。ユニパに付属するクリッカーを用い双方向性を高め、能動的学習を促す。	長濱清隆	p535～p548	講義(AL)
8/27	水	2	腎疾患（2）	二次性糸球体病変や尿細管・間質病変、嚢胞性腎疾患について解説する。ユニパに付属するクリッカーを用い双方向性を高め、能動的学習を促す。	長濱清隆	p548～p564	講義(AL)
8/27	水	3	呼吸器疾患（1）	肺の非腫瘍性疾患（感染症，びまん性肺胞傷害，閉塞性肺疾患，間質性肺疾患，血管炎と肉芽腫症，肺高血圧症など）について解説する。評価以外の小テストを行う。	藤原正親	p375～p402	講義(AL)
9/3	水	1	呼吸器疾患（2）	肺の非腫瘍性疾患（感染症，びまん性肺胞傷害，閉塞性肺疾患，間質性肺疾患，血管炎と肉芽腫症，肺高血圧症など）について解説する。評価以外の小テストを行う。	藤原正親	p375～p402	講義(AL)
9/3	水	2	呼吸器疾患（3）	肺癌を中心とした腫瘍性肺疾患および胸膜・縦隔腫瘍の病理について解説する。評価以外の小テストを行う。	藤原正親	p403～p416	講義(AL)
9/5	金	1	泌尿器疾患	腎・尿路系及び前立腺、精巣疾患の病理・病態について解説する。各領域の発生と構造・機能、形態・形成異常、炎症性疾患、腫瘍を取り上げる。講義内容を題材とした演習・その他の検討の機会を設ける。	柴原純二	p565～p580, p649～p662	講義(AL)
9/9	火	3	神経・筋疾患（1）	脳・神経の先天異常、脳血管障害、頭部外傷、脳血管障害などの疾患の病理・病態について解説し、グループディスカッションを行う。	里見介史	p663～p671	講義(AL)
9/9	火	5	神経・筋疾患（2）	脳・神経の非腫瘍性疾患の病理・病態について解説する。髄膜炎、脳膿瘍、ウイルス性脳炎・脳症、真菌性脳炎、プリオン病，脱髄疾患、神経変性疾患、代謝・中毒性疾患などを取り上げ、グループディスカッションを行う。	里見介史	p672～p683	講義(AL)
9/10	水	3	神経・筋疾患（3）	脳・神経の腫瘍性疾患、骨格筋疾患と末梢神経系疾患の病理・病態について解説する。筋ジストロフィー症、ミオパチー、重症筋無力症、先天性疾患、横紋筋誘拐症、脱神経、末梢性ニューロパチー疾患、神経外傷、末梢神経腫瘍を取り上げる。下垂体腫瘍のほか、尿崩症、下垂体性小人症、下垂体腺腫、頭蓋咽頭腫も取り上げる。講義内容を題材としたグループディスカッションを行う。	里見介史	p684～p688, p581～586	講義(AL)
9/16	火	4	頭頸部疾患	頭頸部疾患（耳鼻科領域疾患）の病理・病態について解説する。各領域の発生と構造・機能、炎症性疾患と腫瘍を取り上げる。講義内容を題材とした演習・その他の検討の機会を設ける。	柴原純二	p417～p432	講義(AL)
9/22	月	1	病理学各論実習（1）	バーチャルスライドを用いた症例検討を通して、疾患の理解を深める。	柴原純二	資料配布	実習(AL)
9/22	月	2	病理学各論実習（2）	バーチャルスライドを用いた症例検討を通して、疾患の理解を深める。	藤原正親	資料配布	実習(AL)
9/25	木	2	病理学各論実習（3）	バーチャルスライドを用いた症例検討を通して、疾患の理解を深める。	長濱清隆	資料配布	実習(AL)
9/25	木	4	病理学各論実習（4）	バーチャルスライドを用いた症例検討を通して、疾患の理解を深める。	里見介史	資料配布	実習(AL)
10/2	木	4	血液疾患（1）	骨髄疾患、リンパ節の非腫瘍性疾患の病理・病態について解説する。基本構造、骨髄性白血病、骨髄増殖性疾患、骨髄異形成症候群、骨髄腫、感染症等によるリンパ節病変、菊池病、サルコイドーシスなどを取り上げる。講義内容を題材とした小テストをクリッカー(ユニパを使用)を用いて実施し、その場で学生の理解度を確認し、能動的学習を促す。	日比谷孝志	p288～p337	講義(AL)
10/6	月	1	血液疾患（2）	リンパ節の腫瘍性疾患の病理・病態について解説する。ホジキンリンパ腫、リンパ芽球性白血病/リンパ腫、成熟B細胞リンパ腫、成熟T/NK細胞リンパ腫などを取り上げる。講義内容を題材とした小テストをクリッカー(ユニパを使用)を用いて実施し、その場で学生の理解度を確認し、能動的学習を促す。	日比谷孝志	p320～p337	講義(AL)
10/15	水	1	乳腺・内分泌・代謝疾患（1）	甲状腺、副甲状腺、副腎疾患の病理・病態について解説する。甲状腺原発悪性腫瘍（乳頭癌・濾胞癌・低分化癌・未分化癌・髄様癌・低分化癌）、橋本病、急性副腎皮質機能不全、Addison病、原発性アルドステロン症、Cushing症候群、褐色細胞腫、神経芽腫などを取り上げる。講義内容を題材としたグループディスカッションを行う。	里見介史	p587～p606	講義(AL)
10/17	金	2	婦人科疾患（1）	子宮頸癌組織分類の現状，特に扁平上皮系累型病変のうち、いわゆる境界病変および上皮内癌からなる扁平上皮内腫瘍（CIN／SIL）を中心に解説する。腺腫瘍およびその前駆病変についても概説する。ユニパに付属するクリッカーを用い双方向性を高め、能動的学習を促す。	長濱清隆	p627～p634	講義(AL)
10/17	金	3	乳腺・内分泌・代謝疾患（2）	膵臓の発生、機能のほか、膵ラ氏島腫瘍（insulin産生、ガストリン産生）、糖尿病（IDDM、NIDDM）、糖尿病の合併症、カルシノイド、MEN1型、MEN2型を取り上げる。また、乳腺の発生、機能のほか、乳癌の遺伝子異常、乳管内乳頭状腫瘍、乳癌、浸潤性乳管癌、小葉癌、乳癌の前駆病変、粘液癌、髄様癌、Paget病、線維上皮性腫瘍、乳腺症を取り上げる。講義内容を題材としたグループディスカッションを行う。	里見介史	p609～p611, p613～p626	講義(AL)
10/29	水	1	婦人科疾患（2）	子宮体部病変について。内膜の周期変化。良性疾患として腺筋症、平滑筋腫、子宮内膜増殖症。異型増殖症と類内膜腺癌の関連、および上皮性、非上皮性悪性腫瘍について。加えて、絨毛性疾患も取り扱う。ユニパに付属するクリッカーを用い双方向性を高め、能動的学習を促す。	長濱清隆	p635～p640 p646～p648	講義(AL)
10/29	水	3	婦人科疾患（3）	卵巣腫瘍について。由来とする細胞の性格（種類）による分類、悪性度による分類（良性・境界悪性・悪性腫瘍）と、組織分類の項目が多く複雑なので、整理して解説する。ユニパに付属するクリッカーを用い双方向性を高め、能動的学習を促す。	長濱清隆	p641～p646	講義(AL)
11/6	木	2	皮膚疾患（1）	皮膚疾患の病理・病態について解説する。代表的な炎症性疾患を取り上げる。講義内容を題材とした演習・その他の検討の機会を設ける。	柴原純二	p729～p755	講義(AL)
11/6	木	3	皮膚疾患（2）	皮膚疾患の病理・病態について解説する。代表的な腫瘍性疾患を取り上げる。講義内容を題材とした演習・その他の検討の機会を設ける。	柴原純二	p729～p755	講義(AL)
11/12	水	2	運動器疾患	運動器疾患（整形外科領域疾患）の病理・病態について解説する。腫瘍性疾患を取り上げる。講義内容を題材とした演習・その他の検討の機会を設ける。	柴原純二	p691～p728	講義(AL)
11/12	水	3	病理学各論実習（5）	バーチャルスライドを用いた症例検討を通して、疾患の理解を深める。	日比谷孝志	資料配布	実習(AL)
11/13	木	2	病理学各論実習（6）	バーチャルスライドを用いた症例検討を通して、疾患の理解を深める。	柴原純二	資料配布	実習(AL)
11/17	月	1	病理学各論実習（7）	バーチャルスライドを用いた症例検討を通して、疾患の理解を深める。	長濱清隆	資料配布	実習(AL)
11/20	木	2	病理学各論実習（8）	バーチャルスライドを用いた症例検討を通して、疾患の理解を深める。	里見介史	資料配布	実習(AL)

年度	2025年度	学年	3年
学科目	衛生学	科目ナンバリング	FME-3E07
単位	2単位	コマ数	36コマ
科目責任者	苅田香苗　教授		
担当教員	教　授　　苅田香苗 准教授　　吉田正雄 講　師　　白土 健 教　授　　苣田慎一（代謝生化学） 兼担准教授　岡本博照（保健学部） 客員教授　　木﨑節子、照屋浩司 非常勤講師　長澤純一、竹前理映子 その他の担当教員は講義予定表に記載		

A．教育の基本方針	衛生学は疾病の予防、健康の保持・増進を目的とし、健康について集団を対象として総合的にみる科学といえる。この考え方に立脚し、個体としてだけでなく、環境要因との関わりの中で健康について考える力を身につける。講義、実習を通じて、できるだけ生活の場や労働現場における実際の場面を想定し、衛生学の技術や知識・考え方を身につける。加えて、疾病予防や患者の問題解決のための人的資源、医療・保健機関/施設、社会制度について学ぶとともに適切な医療記録を作成するための基本を習得する。さらに、これからの保健・医療環境に対応できるように情報処理に関する基本的な項目についても理解する。
B．到達目標	衛生学では、単に疾病を治療するだけでなく、疾病予防・早期発見、健康の維持推進、QOLの向上を担う医師としての基礎知識を習得する。また、疾病の背後には種々の自然環境の変化や社会の経済的・技術的変動や人々の価値観の変化などが存在する。これらの健康に影響を与える自然環境要因や社会環境要因を考察し、その変化にも対応できる能力を養成することを目標とする。 【杏林大学医学部学生の到達目標との関連】 講義：(2)-①,②,⑨,⑪，(5)-①,②,③,④、実習：(1)-①,②,④，(2)-①，(3)-②,③,④
C．修得すべき能力	１．健康とライフスタイル、遺伝、人口統計、環境、社会、経済、心理、文化の各因子との関連を説明できる。 ２．集団における疾病予防および健康維持・増進の意義について説明できる。 ３．わが国の医療・保健制度および医療経済について説明できる。 ４．個人あるいは地域・職域において健康を維持し疾病を予防することの重要性を説明できる。 ５．環境問題、健康課題や疾病予防について、地球規模の観点から説明できる。
D．学習内容	系統講義と特別講義により、医師として必要な社会医学の中核となる衛生学の基礎知識を学習する。さらに各論の講義では、双方的Q＆Aやディスカッション、小テストなどのアクティブ・ラーニングを取り入れる。 １．系統講義 ［保健医療論（衛生学総論、疫学、地域保健、関係法規、医療録、衛生統計、医療保険制度、社会保障）、各論（母子保健、成人保健、高齢者保健、感染症対策、学校保健、国際保健、化学的・物理的環境と健康、水・空気・放射線・地球環境・環境汚染と健康、国民栄養、食品保健、有酸素運動と健康）］ ２．特別講義 ［旅行医学、精神保健、職域におけるメンタルヘルス、感染症に対する漢方薬の役割］
E．実習・課外授業	実習 １．実習の基本方針 衛生学で学ぶ基本的な技術を習得すること、および保健・医療をとりまく社会的諸問題を理解することを目標とする。講義、教科書等で学んだことを実習により体得し、実習内容を考察し、レポートにまとめることにより論理的に考えることを学ぶ。 ２．実習の項目 環境保健（実習講義を含む）：３グループに分け、ローテーション方式で、水と空気の諸性質・成分の検査を行う。必要に応じ、小グループ内で学生主導型ディスカッションを行う。結果を考察しレポートにまとめ提出する。実習の詳細は実習書（実習初日に配布する）を参照すること。（６コマ） 担当：苅田、吉田、白土、苣田 課外教育 １．衛生学で学ぶべき基本的事項の理解が不充分な学生のために特別の指導を行うことがある。 ２．衛生学で学ぶ内容・領域に強い興味を持つ学生のために特別の指導を行うことがある。
F．準備学習の内容	事前にシラバスの「講義テーマ」や「講義内容」を読み、教科書や参考書から関連事項についての情報を得た上で講義に臨むこと。なお、特別講義は、衛生学・公衆衛生学分野でも特に専門的な分野のエキスパートによって行われる。必要に応じて文献検索などにより事前の情報を得て、自分なりの興味と関心を持つことが望ましい。（所要時間の目安：各コマ75分程度）
G．復習学習の内容	講義で配布されたプリントや練習問題の解答および教科書の関連ページを熟読して復習すること。（所要時間の目安：各コマ75分程度）
H．成績評価の方法・基準	１．試験の方針 衛生学で学んだ基本的事項を正しく理解していることを確認する。すべての講義・実習内容と指定教科書の関連項目から出題する。受験資格は講義の2/3以上の出席率を有する者とする。但し、実習は全回出席を前提とする。 ２．試験の期日と実施方法 前期の期末に定期試験を行う。学年末に追再試験を、また随時、臨時試験を行う。試験はすべて筆記を原則とし、多肢選択式の問題と総合的な理解力を確認するために記述式の問題を出題する。試験は模範解答・点数をもって、フィードバックする。また、場合により口頭試問を行うことがある。

	３．評価法 前期試験の結果を学則および修学規則に基づき評価する。その他の小テスト、レポート、学習態度、実習態度および出欠状況も参考にし、評価の高い者には加点し総合評価を行う。 ４．判定基準 60点以上を合格とする。 ５．フィードバック方法 試験終了後に模範解答を配布

Ｉ．学習指導書

①教科書（学生が所持しなければならないもの）	１）New Simple Step 公衆衛生　高橋茂樹、西　基著　第2版 総合医学社　2023 ISBN： 978-4-88378-931-3　6,500円+税
②参考書Ａ（学生の所持をすすめるもの）	なし ※(R)：Remedial …　教科書の理解を助けるような補習的なもの (A)：Advanced　…　教科書より進んだ学習のためのもの
③参考書Ｂ（図書館等での利用をすすめるもの）	(R) １）環境白書・循環型社会白書・生物多様性白書 令和6年版 環境省(電子版は1年間無料配信, 環境省webサイト参照) (R) ２）職場の健康がみえる 第１版　医療情報科学研究所編 メディック・メディア　2019 ISBN: 978-4-89632-782-3 3,850円(税込) (R) ３）厚生統計協会　厚生の指標　国民衛生の動向（特集号） （最新号のもの）2,970円(税込) (A) ４）福井次矢監訳　臨床疫学 EBM実践のための必須知識第３版 メデイカル・サイエンス・インターナショナル　2016 ISBN: 978-489592-853-3　5,500円(税込) ※(R)：Remedial …　教科書の理解を助けるような補習的なもの (A)：Advanced　…　教科書より進んだ学習のためのもの

Ｊ．講義予定表

「添付資料」参照

2025年度　3年　講義予定表

【衛生学】

月日	曜	時限	講義テーマ	講義内容	担当	教科書	授業形態
4/8	火	1	衛生学総論	衛生学総論として今後の講義の構成と進め方、参考図書などについて概説する。衛生学の変遷および環境と人の相互作用に係わる歴史的公害事例について理解する。	苅田香苗	2-17	講義
4/8	火	2	食品衛生・食中毒	食品衛生法、食中毒の疫学、細菌、ウイルス、自然毒および化学物質による食中毒について学ぶ。また、食品に起因して発生する疾病の症状、治療、予後とその予防対策について解説する。	吉田正雄	275-294	講義
4/22	火	1	生活習慣病と行動変容	運動、栄養、休養、喫煙、飲酒が関わる生活習慣病について学ぶ。行動変容のための動機付け支援についても解説する。講義内容の理解度を量るために、講義途中で復習問題を提示する。	白土健	2-17, 196-201	講義(AL)
4/22	火	2	感染症に対する漢方薬の役割（1）	漢方薬の有効性を先ずは実験科学的に示し、風邪に対する漢方薬の使い方を学ぶ。臨床的に補剤と称する漢方薬を服用していると風邪をひかない、あるいはひいても軽くすむということが言われているが、これを科学的に理解する。	石毛敦	配布資料	講義
4/28	月	2	感染症に対する漢方薬の役割（2）（特別講義）	漢方薬の有効性を先ずは実験科学的に示し、風邪に対する漢方薬の使い方を学ぶ。臨床的に補剤と称する漢方薬を服用していると風邪をひかない、あるいはひいても軽くすむということが言われているが、これを科学的に理解する。	石毛敦	配布資料	講義
4/30	水	1	衛生学と疫学	衛生学総論を受け、その研究方法としての疫学との係わりを学ぶ。	照屋浩司	18-65	講義
4/30	水	2	学校保健・国際保健	学校保健関連法規、学校医と保健管理、学齢期の疾病と学校管理下の死亡の推移と現状について例題を交えながら解説する。また、プライマリヘルスケアとヘルスプロモーション、WHO、ILO、WFP、FAO、UNICEF、UNESCO、UNHCR、ODA、JICA、NGOの主な活動について概説する。	吉田正雄	167-171, 295-305	講義(AL)
5/13	火	1	衛生統計	人口静態統計と人口動態統計の概要を学び、死因統計からわが国の疾病構造を理解する。	岡本博照	66-98	講義
5/13	火	2	医療保険制度・社会保障	わが国の医療保険制度、国民医療費、社会保障などの概要について理解する。	岡本博照	99-114	講義
5/20	火	1	物理的環境と健康（1）	生活環境を取り巻く物理的要因である騒音や振動がもたらす生体への影響やVDT症候群などについて学習し、環境衛生の重要性を理解する。講義内容の理解度を量るために、講義途中で復習問題を提示する。	白土健	306-351	講義(AL)
5/20	火	2	環境汚染と健康	公害病の原点的存在である有機水銀による水俣病などから環境汚染による公害問題と健康について理解を深める。廃棄物処理法、特に感染性廃棄物処理についての正しい知識を身につける。	木﨑節子	352-379	講義
5/27	火	1	関係法規、診療録など	わが国の保健医療の関係法規、診療録などの診療に必要な諸証明書について理解する。	岡本博照	141-161	講義
5/27	火	2	地域保健・職域での健康づくり	地域保健の概要、とくに地域保健医療計画の内容、医療圏の定義、保健医療従事者、健康増進法などについて理解する。また、職域では労働基準法、労働安全衛生法などの法律に関する事柄、産業医の職務などについて学ぶ。	岡本博照	115-140, 306-351	講義
6/3	火	1	高齢者保健	高齢者の健康状態と健康管理、介護保険制度、後期高齢者医療制度、老人福祉について理解する。講義内容の理解度を量るために、講義途中で復習問題を提示する。理解が十分でないと認められた点についてさらなる解説を加える。	白土健	202-225	講義(AL)
6/3	火	2	旅行医学（特別講義）	最近、やっと旅行医学が確立しつつある。本講義では、旅行全般に関する医学、たとえば旅行者下痢症、マラリア、急性高山病、エコノミークラス症候群、検疫などを紹介し、旅行医学の現状を理解する。	荻原理江	配布資料	講義
6/9	月	2	食生活と健康	食事の欧米化に伴う疾病構造の変化、特に日本のメタボリックシンドロームの現状を把握するとともに、食生活と健康について理解する。また、生活習慣病対策について学ぶ。	木﨑節子	196-201, 275-294	講義
6/10	火	1	空気と健康	空気の性状の変化のヒトへの影響を包括的に学ぶ。特に、酸素欠乏症や化学的窒息を促す中毒ガスの発生要因や生理的影響などについて、実際の事例を交えながら理解する。講義内容の理解度を量るために、講義途中で復習問題を提示する。	白土健	352-379	講義(AL)
6/10	火	2	口腔保健と予防医学	口腔疾患やトラブルが全身へ及ぼす影響、予防について解説する。	竹前理映子	配布資料	講義
6/12	木	2	水と健康	ヒトの健康において、水は極めて重要な位置を占める。水の供給、排水の処理などのわが国の水環境について学び、水と健康について理解する。講義内容の理解度を量るために、講義途中で復習問題を提示する。	白土健	352-379	講義(AL)
6/13	金	1	精神保健（特別講義）	精神的健康は健康の要因の一つであり、その維持は重要である。わが国の精神保健行政や精神保健の活動の在り方などについて理解する。	角田透	234-244	講義
6/13	金	2	職域におけるメンタルヘルス（特別講義）	働く人の健康管理のうち、特にメンタルヘルスの実状と問題点について長時間残業の問題、改正労働安全衛生法についておよび産業ストレスの視点から理解する。	角田透	306-351	講義
6/16	月	2	地球環境と健康	人類と環境は相互に影響を及ぼし合って変化し続けている。地球環境の現況を把握し、環境問題が健康と社会へ与える影響を理解し、環境保全の重要性を学ぶ。理解度を確認するため双方向的Q＆Aと小テストを実施する。	苅田香苗	352-379	講義(AL)
6/19	木	2	物理的環境と健康（2）	非常に身近な環境因子である温度や気圧の異常による健康障害を理解し、どのようにして熱中症・低体温症や高山病・減圧症（潜函病）といった疾患が引き起こされるかを学ぶ。また、放射性障害についても理解を深める。	苣田慎一	306-351	講義(AL)
6/20	金	2	”健康に資する身体運動”の学術的背景とその処方	有酸素運動がなぜ体力科学分野で重要視されているのか、ならびに個人の健康維持増進とどのようにかかわるのかについて，理論面と処方面から学習する。	長澤純一	配布資料	講義
6/23	月	4	化学的環境と健康（1）	化学物質による健康影響と職業病について学ぶ。金属中毒、有機溶剤中毒、有機化合物中毒、ガス体中毒、農薬中毒について概説する。有機溶剤は、揮発性と脂溶性の特徴を有するため幅広く使用されており、特に重点的に理解する。	角田透	306-351	講義
6/23	月	5	化学的環境と健康（2）	化学物質による健康影響と職業病について学ぶ。特に、じん肺に焦点を当て、社会問題となっている石綿肺（中皮腫）について関心を深める。また、労働者の疾病を予防し、健康維持・増進に寄与する産業衛生について理解する。	角田透	306-351	講義
6/24	火	2	母子保健	社会問題の一つである少子化に焦点を当て、我が国の母子保健の現状について問題点を併せて理解する。講義内容の理解度を量るために、講義途中で復習問題を提示する。	白土健	174-195	講義(AL)

2025年度　3年　講義予定表

【衛生学】

月日	曜	時限	講義テーマ	講義内容	担当	教科書	授業形態
6/26	木	2	公衆衛生行政	保健衛生行政の現場で活躍する公衆衛生医師による講義を行う。感染症対策、環境/生活衛生行政、行政医師の業務等について理解を深める。	東京都公衆衛生医師	配布資料	講義
6/26	木	4	感染症対策	感染症と人類の闘いの歴史を振り返り、共存のために整備された感染症法、検疫法、予防接種法などに代表される制度について学ぶ。双方向的なQ&Aを行いながら感染症の分類と対策の変遷をまとめる。	苅田香苗	245-274	講義(AL)
6/26	木	5	予防医学	疾病予防の概念、死因統計・国民医療費の推移と現状について学ぶ。また、学齢期から高齢期までのライフステージ別の疾病構造の変化、生活習慣と疾病構造の変化との関連について保健医療統計に基づき概説する。	吉田正雄	2-17, 66-98	講義(AL)
6/30	月	3	水と空気の衛生学（1）（実習）	ローテーション方式により、実際に大気の物理的・化学的性質、および飲料水や自然水の検査と判定を実施する。	苅田香苗、吉田正雄、白土健、苣田慎一	配布資料（実習書）	実習
6/30	月	4	水と空気の衛生学（2）（実習）	ローテーション方式により、実際に大気の物理的・化学的性質、および飲料水や自然水の検査と判定を実施する。	苅田香苗、吉田正雄、白土健、苣田慎一	配布資料（実習書）	実習
7/1	火	1	水と空気の衛生学（3）（実習）	ローテーション方式により、実際に大気の物理的・化学的性質、および飲料水や自然水の検査と判定を実施する。	苅田香苗、吉田正雄、白土健、苣田慎一	配布資料（実習書）	実習
7/1	火	2	水と空気の衛生学（4）（実習）	ローテーション方式により、実際に大気の物理的・化学的性質、および飲料水や自然水の検査と判定を実施する。	苅田香苗、吉田正雄、白土健、苣田慎一	配布資料（実習書）	実習
7/2	水	3	水と空気の衛生学（5）（実習）	ローテーション方式により、実際に大気の物理的・化学的性質、および飲料水や自然水の検査と判定を実施する。	苅田香苗、吉田正雄、白土健、苣田慎一	配布資料（実習書）	実習
7/2	水	4	水と空気の衛生学（6）（実習）	ローテーション方式により、実際に大気の物理的・化学的性質、および飲料水や自然水の検査と判定を実施する。	苅田香苗、吉田正雄、白土健、苣田慎一	配布資料（実習書）	実習

年度	2025年度	学年	3年
学科目	免疫学	科目ナンバリング	FME-3E08
単位	2単位	コマ数	25コマ
科目責任者	三戸部治郎　教授		
担当教員	教　　授　三戸部治郎（感染症学）、久松理一（消化器内科学）、 倉井大輔（臨床感染症学）、駒形嘉紀（腎臓・リウマチ膠原病内科学）、成田雅美（小児科学）、 大山　学（皮膚科学）、谷垣伸治（産科婦人科学） 客員教授　新藏礼子（感染症学）、大﨑敬子（予防医学） 特任教授　高山信之（血液内科学） 准 教 授　三好　潤（消化器内科学）、岸本暢将（腎臓・リウマチ膠原病内科学） 講　　師　白土　健（衛生学公衆衛生学） 学内講師　内堀　歩（脳神経内科学） 助　　教　佐田　充（呼吸器内科学） 学外講師　北野滋久（がん研有明病院）		

A．教育の基本方針	免疫学は基礎科学の一分野から腫瘍免疫の応用に至る長足の進歩を遂げ、今後の医学にとって不可欠な知識となりつつある。当然その発展に伴い自然免疫系などの新概念が生まれ、有力だった仮説が変更されるなどの変遷を経ている。このように教科書的な知識においても変化しうる内容があることから、国家試験やCBTでの出題は比較的基本的な内容に限られているように思える。 新たに開講した免疫学では、こうした基礎知識と臨床応用とのギャップを少しでも埋めるためと、学習するモチベーションを高めるため、カリキュラムの後半は、各診療科の協力を得て、それぞれの専門分野で進んでいる免疫治療や、その分野で必要な”生きた”免疫学の知識に触れるオムニバス形式とする。後期の授業を受講するには最低限の基礎知識が必要であり、カリキュラムの前半に自然免疫系および、液性免疫、細胞性免疫からなる獲得免疫系、粘膜免疫、アレルギー・検査について学習する。 細分化した医療の中では最新の免疫の臨床応用と治療を横断的に学ぶことができる機会は極めて限られている。多数の診療科の協力で成り立つ本カリキュラムが、新しい世代の医師たちの知識という武器の礎となることを願ってやまない。
B．到達目標	免疫学の基本体系を理解する。臨床現場での免疫が関連する疾患の病態、治療、診断の現状を理解し、アクティブ・ラーニングで教え合うことができるようにする。 【杏林大学医学部学生の到達目標との関連】 (1)-①,②,③,④
C．修得すべき能力	1. 免疫反応に関わる組織と細胞について理解している。 2. 抗原提示細胞の種類と役割、抗原提示機構について理解している。 3. 自然免疫系を構成する主な細胞とそれらの活性化機構(TLR等)を理解している。 4. 補体及び自然免疫細胞が病原体により活性化し、炎症を引き起こす機構を理解する。 5. MHCクラスIとクラスIIの基本構造と機能、抗原提示によるT細胞活性化を理解する。 6. 免疫グロブリンとT細胞抗原レセプターの構造と反応様式、これらの遺伝子再構成に基づく多様性獲得の機構について理解する。 7. ヘルパーT細胞(Th1 cell、Th2 cell、Th17 cell)、細胞傷害性T細胞、制御性T細胞それぞれが担当する生体防御反応について理解する。 8. ウイルス、細菌、真菌と寄生虫に対する免疫応答の特徴の概要について理解している。 9. 原発性免疫不全症候群と後天性免疫不全症候群の概要について理解している。 10. 免疫寛容の維持機構とその破綻による自己免疫疾患の発症について理解している。 11. アレルギー発症の機序について理解している。 12. がん免疫に関わる細胞性機序について理解している。 13. 微生物感染症に対するワクチンの原理、種類と問題点について理解している。 14. 移植における免疫応答（拒絶反応、移植片対宿主病）について理解している。
D．学習内容	1．系統講義　年間コマ数（25）

項　目	概　　要	期	コマ	担当
基礎免疫学	抗原提示細胞、自然免疫系、獲得免疫(細胞性免疫：主要組織適合遺伝子複合体(MHC)とT細胞抗原レセプター活性化、液性免疫：抗体産生と遺伝子再構成、アレルギー	前	10	三戸部、大﨑、新藏、白土、三好、久松
応用免疫学	自己免疫疾患１，２、後天性免疫不全(ワクチン)、悪性腫瘍と免疫１，２、皮膚免疫と疾患病態、呼吸器と免疫、神経と免疫、移植と免疫、妊娠と免疫、グループワーク。	後	13	倉井、駒形、成田、大山、高山、 谷垣、岸本、内堀、佐田、北野
アクティブ・ラーニング	グループにわかれ、分担する応用免疫学の講義内容を復習、発展学習し、相互レクチャーと質疑応答を行う。	後	2	三戸部、大﨑、駒形、岸本

E．実習・課外授業	なし

F．準備学習の内容	事前にシラバスの「講義テーマ」や「講義内容」を読み、教科書や配布資料などの該当する項目に目を通しておくこと。 所要時間の目安：各コマ75分程度
G．復習学習の内容	講義プリントや教科書の関連ページを熟読して復習すること。 所要時間の目安：各コマ75分程度
H．成績評価の方法・基準	1.　試験の方針 免疫学の基本体系と用語を理解し。次年度以降の科目を学ぶに耐え得る学力を有すると判定されることにより合格とする。 2.　試験の実施方法と期日 前期試験:（記述方式、多肢選択方式） 前期試験とアクティブ・ラーニングの点数の合計が6割未満の者に再試験を実施する。再試験の形式は状況に応じて指定する。 3.　定期試験の受験資格とアクティブ・ラーニングの参加資格に関する出席の取り扱い 受験資格:本学部学修規定6条(4)に準じ、前期、後期の講義をそれぞれ2/3以上出席した者に付与する。 なお、毎回の授業について別途定める出席点を与えることがある。 4.　本科目合格の基準と成績の評価法 (1)判定の基準 前期試験とアクティブ・ラーニングの点数の合計が6割以上、または再試験が6割以上であることを基準に、上級学年での学修に適応できると判断された場合に合格とする。 (2)成績の評価法 前期試験とアクティブ・ラーニングの内容を元に総合的に評価する。再試験受験者の最終成績は、学修規定第8条により決定される。 ５．フィードバックの方法 試験終了後に模範解答を配布する。

Ｉ．学習指導書

①教科書（学生が所持しなければならないもの）	●エッセンシャル免疫学　第4版　メディカル・サイエンス・インターナショナル　2023年 ●標準小児科学　第９版　医学書院　2022年 ●標準皮膚科学　第11版　医学書院　2020年 ●あたらしい皮膚科学　第3版　中山書店　2018年
②参考書Ａ（学生の所持をすすめるもの）	(R)病気がみえる。Vol.6 免疫・膠原病・感染症　第2版　メディックメディア　2018年 ※(R)：Remedial …　教科書の理解を助けるような補習的なもの (A)：Advanced　…　教科書より進んだ学習のためのもの
③参考書Ｂ（図書館等での利用をすすめるもの）	(A)アバス-リックマン-ピレ　分子細胞免疫学　第１0版 エルゼビア・ジャパン東京化学同人 2023年 (A)Janeway's Immunobiology (9th) Garland Science　2017年 ※(R)：Remedial …　教科書の理解を助けるような補習的なもの (A)：Advanced　…　教科書より進んだ学習のためのもの

Ｊ．講義予定表

「添付資料」参照

2025年度　3年　講義予定表

【免疫学】

月日	曜	時限	講義テーマ	講義内容	担当	教科書	授業形態
4/4	金	3	免疫学序論	免疫系を構成する細胞と組織を知り、免疫系の全体像を理解する。免疫系に登場するHLAやCD分類、レセプター、サイトカインなどの基本的な分子と概念を学び以降の学習に備える。	三戸部治郎	資料配布　第１章	講義
4/7	月	4	抗体・補体	免疫の主要な液性因子である抗体・補体について学ぶ。抗体の基本構造を理解する。補体の活性化経路と生物活性について知る。	三戸部治郎	資料配布　第２，３章	講義
4/21	月	3	自然免疫	自然免疫のパターン認識機構について理解する。自然免疫と獲得免疫との関わりを理解する。自然免疫が関連する疾患を知る。	三戸部治郎	資料配布　第２，３章	講義
5/9	金	4	獲得免疫(1)	B細胞の成熟と自己反応性のB細胞の排除を理解する。抗体産生におけるB細胞活性化などの細胞間相互作用を理解し、特異抗体産生のメカニズムを学ぶ。	新藏礼子	資料配布　第４、６章（９１－１０８、１４８－１６１）	講義
5/9	金	5	獲得免疫(2)	リンパ節胚中心におけるB細胞の親和性成熟とクラススイッチについて学び、高親和性抗体への急激な分子進化と中和抗体による免疫を学ぶ。	新藏礼子	資料配布　第６、９章（１６２－１７１、２３０－２４３）	講義
5/16	金	4	獲得免疫(3)	T細胞の抗原認識機構と、成熟過程で獲得するMHC拘束と自己寛容について理解し、ヘルパーT細胞、細胞障害性T細胞を中心とした細胞性免疫について学ぶ。	白土健	資料配布　第５章（１５章）	講義
5/21	水	4	獲得免疫(4)	エフェクターT細胞の免疫反応調節とサイトカインの働きを理解する。T細胞を介した様々な免疫応答について学ぶ。	白土健	資料配布　第７，８章	講義
6/3	火	3	腸管免疫(1)	粘膜面は外界と情報のやり取りをする場でありながら感染を受けやすい特徴を持つ。粘膜免疫における自然免疫と獲得免疫との相互作用を理解する。粘膜免疫と疾患との関連性について学ぶ。	三好潤	資料配布、第１０章（２６５－２８８）	講義
6/9	月	3	腸管免疫(2)	腸管粘膜免疫の恒常性の破綻が関与する炎症性腸疾患について進捗著しい免疫を標的とした新規治療薬を含めて解説する。またトピックスの多臓器連関についても触れる。	久松理一	資料配布、第１０章（２６５－２８８）	講義
6/13	金	3	アレルギー免疫系の検査	アレルギーの定義と分類（Ⅰ型～Ⅳ型）を理解する。 免疫血清学検査の原理を理解する。	大﨑敬子	資料配布、第１３、１４章（３６１－３８３，３９７－４２６）	講義
8/26	火	4	後天性免疫不全(ワクチン)	臨床医学の視点で免疫不全を概説する。特に、免疫不全の種類とその原因となる微生物・典型的な病態・予防に焦点を当てる。また、ワクチンの種類と特徴を学ぶ。	倉井大輔	配布資料	講義
9/25	木	3	呼吸器と免疫	喘息等、呼吸器疾患における免疫系の関わり、免疫学的治療について概説する。	佐田充	資料配布	講義
9/30	火	3	原発性免疫不全症	先天的な遺伝子異常により免疫機構の破綻をきたす原発性免疫不全症について、機能異常がある免疫系に着目して理解する。	成田雅美	第１３章、標準小児科学第９版 第１４章	講義
10/3	金	4	悪性腫瘍と免疫　1	がんと免疫系の相互作用、がんの免疫治療について学ぶ。	北野滋久	第１７章（参考）	講義
10/3	金	5	悪性腫瘍と免疫　2	がんと免疫系の相互作用、がんの免疫治療について学ぶ。	北野滋久	第１７章（参考）	講義
10/6	月	3	自己免疫疾患　2	代表的な自己免疫疾患における免疫学的治療（生物学的製剤含）について	岸本暢将	資料配布	講義
10/15	水	3	皮膚免疫と疾患病態	外界と人体との境界の最前線である皮膚は効率よく免疫応答を生じさせるため、Langerhans細胞、皮膚樹状細胞、resident memory T細胞など独自の免疫システムを発達させている 。その破綻が尋常性乾癬、アトピー性皮膚炎、固定薬疹などの疾患と関連している。皮膚免疫の基本と疾患の病態について臨床医学の視点から学ぶ。	大山学	あたらしい皮膚科学 第3版28－38、標準皮膚科学 第11版29－42	講義
10/23	木	4	自己免疫疾患　1	免疫寛容の内容を理解し、自己免疫疾患の成立機序から、自己免疫疾患の種類を知り、主たる自己免疫疾患の発症機序と症状について学ぶ。	駒形嘉紀	第１６章（参考）	講義
11/4	火	2	神経と免疫	自己免疫性脳炎、脱髄性疾患における免疫系の関わり、抗体療法について概説する。	内堀歩	資料配布	講義
11/10	月	5	妊娠と免疫	生殖・妊娠における免疫機構と、その破綻による病態について学ぶ。	谷垣伸治	資料配布	講義
11/20	木	1	移植と免疫	骨髄移植を例に移植における免疫と拒絶反応について理解する。	高山信之	第１５章（参考）	講義
11/27	木	1	グループワーク１	各科の講義終了後、約６名ずつ20グループに分け、指定した講義の内容の発表準備を行う。	三戸部治郎、大﨑敬子		演習
12/1	月	1	グループワーク２	各科の講義終了後、約６名ずつ20グループに分け、指定した講義の内容の発表準備を行う。	三戸部治郎、大﨑敬子		演習
12/4	木	4	アクティブラーニング	全体発表（発表の内容を評価の対象とする。）	三戸部治郎、大﨑敬子、駒形嘉紀、岸本暢将		演習(AL)
12/4	木	5	アクティブラーニング	発表の予備時間（質問も評価の対象とする。）	三戸部治郎、大﨑敬子、駒形嘉紀、岸本暢将		演習(AL)

年度	2025年度	学年	3年
学科目	遺伝医学	科目ナンバリング	FME-3E09
単位	1単位	コマ数	12コマ
科目責任者	市川弥生子　教授		
担当教員	教　授　　市川弥生子(脳神経内科学), 粟崎　健(生物学), 苣田慎一 (代謝生化学), 安田和基(糖尿病・内分泌・代謝内科学) 兼担教授　　滝　智彦(保健学部/腫瘍内科学) 准教授　　平井和之(生物学), 青柳共太(細胞生化学) 講　師　　大塚弘毅(臨床検査医学) 学内講師　　松島実穂(産科婦人科学) 非常勤講師　小須賀基通(小児科学) 認定遺伝カウンセラー　菊地茉莉(遺伝子診療センター)		

A．教育の基本方針	発展するゲノム医療、遺伝医療に対応できる基礎的な能力を身につける。 カリキュラムは、前半のヒトの遺伝学・遺伝子解析技術に関する基礎編、後半の遺伝医療編で構成している。 （１）基礎編：ヒトに関する遺伝学の基礎ならびに遺伝子・ゲノム解析技術を学び、臨床遺伝を理解するための基礎知識 を習得する。 （２）遺伝医療編：染色体異常、単一遺伝子疾患から多因子遺伝について学習し、出生前診断、遺伝学的検査、ゲノム医療、遺伝カウンセリングなど臨床の場で行われている遺伝医療への理解につなげていく。
B．到達目標	[モデル・コア・カリキュラムに準じた到達目標] ・メンデルの法則、ミトコンドリア遺伝、エピゲノム修飾(インプリンティングを含む)及び多因子遺伝について理解している。 ・遺伝型と表現型の関係について理解している。 ・染色体の構造を理解し、ゲノムと染色体及び遺伝子の構造と関係性、体細胞分裂及び減数分裂における染色体の挙動について理解している。 ・DNAの複製と修復、DNAからRNAへの転写、タンパク質合成に至る翻訳を含む遺伝情報の発現及び調節（セントラルドグマ）について理解している。 ・染色体分析・DNA配列決定を含むゲノム解析技術について概要を理解している。 ・ゲノムの多様性に基づく個体の多様性について理解している。 ・単一遺伝子疾患、染色体異常による疾患、ミトコンドリア遺伝子の変異による疾患を挙げ、遺伝様式を含め理解している。 ・多因子疾患における遺伝要因と環境要因の関係について理解している。 ・集団遺伝学の基礎としてハーディ・ワインベルグの法則について概要を理解している。 ・家系図を作成し、評価できる。 ・生殖細胞系列変異と体細胞変異の違い、遺伝学的検査の目的と意義について理解している。 ・遺伝情報の特性(不変性、予見性、共有性、あいまい性)について理解している。 ・染色体・遺伝子検査の目的と適応を説明し、結果を解釈できる。 ・遺伝カウンセリングの意義と方法について理解している。 ・遺伝医療における倫理的・法的・社会的配慮について理解している。 ・遺伝医学関連情報にアクセスすることができる。 ・遺伝情報に基づく治療や予防をはじめとする未発症者を含む患者・家族への適切な対処法につ いて概要を理解している。 【杏林大学医学部学生の到達目標との関連】 (1)-①,②,③,④
C．修得すべき能力	１．DNA・遺伝子・ゲノムについて説明でき、ゲノム解析技術の概要、ゲノム多様性について理解できる。 ２．染色体の構造と染色体異常について説明することができる。 ３．メンデル遺伝、ミトコンドリア遺伝、エピゲノムおよび多因子遺伝について理解している。 ４．自分で家系図を記載することができ、作成した家系図から遺伝形式ならびにリスクを推定することができる。 ５．遺伝学的検査の目的と適応を理解し、検査結果を解釈することができる。 ６．遺伝情報の特性について理解し、遺伝カウンセリングの意義と配慮すべき点について理解している。
D．学習内容	[総論] 遺伝情報の特性について理解し、家系図のかき方、リスク評価法について学習する。 [基礎編] 遺伝子の構造、メンデルの法則、ミトコンドリア遺伝、多因子遺伝および集団遺伝学の基礎を学ぶ。 セントラルドグマ、インプリンティング、エピゲノムの機序、ゲノム多様性、ゲノム解析技術について学び、遺伝性疾患や遺伝学的検査・ゲノム解析結果を理解できる基礎を身につける。 [遺伝医療編] 染色体異常、単一遺伝子疾患、多因子疾患について学習するとともに、染色体検査を含む遺伝学的検査、出生前診断の目的や適応を理解する。発展するゲノム医療についても学習する。 [アクティブラーニング]遺伝カウンセリングのロールプレイを通して、遺伝医療についての理解を深める。
E．実習・課外授業	１．実習　　なし ２．課外授業　なし
F．準備学習の内容	事前にシラバスの「講義テーマ」や「講義内容」を詳しく読み、以下に挙げる教科書や参考書、配布資料に目を通しておくこと。 所要時間の目安：各コマ75分程度
G．復習学習の内容	講義で配布された資料および教科書の関連ページを熟読し、キーワードに留意しながら学習内容を説明できるようにする。 所要時間の目安：各コマ75分程度

H．成績評価の方法・基準	１．試験の方針 筆記試験（五者択一のマークシート方式と記述式の混合）を行う。 ２．試験の期日と実施方法 前期定期試験期間中に筆記試験を行う（追・再試験は後期） ３．評価法 定期試験の成績により評価する。 ４．判定基準 定期試験60%以上を合格とする。 本試験に不合格であれば再試を受けなければならない。 定期試験を受験するには一定以上の講義出席率を必要とする。 ５．フィードバック方法 課題おいて出した課題については、講義にて解説する。 試験については、試験終了後に模範解答を配布する。

Ｉ．学習指導書

①教科書（学生が所持しなければならないもの）	コアカリ準拠　臨床遺伝学テキストノート 改訂第2版　日本人類遺伝学会編集，診断と治療社 キャンベル 生物学　原著第11版　丸善出版 Essential細胞生物学　原書第5版　南江堂 標準産科婦人科学　第5版　医学書院 標準小児科学　第9版　医学書院
②参考書Ａ（学生の所持をすすめるもの）	(R)基礎から学ぶゲノム医療学　平沢　晃編, 羊土社 (R)よくわかるゲノム医学 改訂第２版　服部成介，水島-菅野純子／著，羊土社 ※(R)：Remedial …　教科書の理解を助けるような補習的なもの (A)：Advanced　…　教科書より進んだ学習のためのもの
③参考書Ｂ（図書館等での利用をすすめるもの）	(A)新 遺伝医学やさしい系統講義19講 第1版　福嶋義光監修，メディカル・サイエンス・インターナショナル (A)トンプソン&トンプソン遺伝医学　福嶋 義光監訳，メディカル・サイエンス・インターナショナル ※(R)：Remedial …　教科書の理解を助けるような補習的なもの (A)：Advanced　…　教科書より進んだ学習のためのもの

Ｊ．講義予定表

「添付資料」参照

2025年度　3年　講義予定表

【遺伝医学】

月日	曜	時限	講義テーマ	講義内容	担当	教科書	授業形態
4/1	火	5	遺伝医学総論	基礎医学から発展し、臨床応用された遺伝医学の概要を解説する。遺伝情報の特性(不変性、予見性、共有性）、倫理的・法的・社会的配慮についても理解する。家系図の書き方、リスク評価について学習する。	市川弥生子	臨床遺伝学テキストノート第2版 第1, 12講義, 配布資料	講義
4/2	水	5	分子遺伝学(1)	Mendelの法則、減数分裂、遺伝型と表現型の関係、多因子遺伝、ミトコンドリア遺伝、DNAの複製と修復、ゲノムの多様性に基づく個体の多様性、集団遺伝学とHardy-Weinbergの法則について復習し、関連する生命現象について例を挙げて説明する。	平井和之	キャンベル生物学 13～15章	講義
4/3	木	4	分子遺伝学(2)	セントラルドグマと遺伝子の発現制御、インプリンティング、エピゲノムの機序について復習し、関連する生命現象について例を挙げて説明する。	粟崎健	キャンベル生物学 14~16章	講義
4/23	水	5	遺伝子・ゲノム解析技術	核酸の性質やPCRの原理について確認した後、古典的なDNA塩基配列決定法について復習する。さらに、マイクロアレイや次世代シークエンサーなど、近年の遺伝子診断において用いられているゲノム技術についても解説を行う。	青柳共太	Essential細胞生物学 第10章, 臨床遺伝学テキストノート第2版 11講義, コラム2	講義
4/24	木	5	代謝疾患と分子遺伝学	先天代謝異常症、ミトコンドリア病、および代謝に関連する多因子遺伝疾患を例に挙げ、遺伝様式、遺伝子発現、QTL解析、新生児マススクリーニング、常染色体潜性（劣性）遺伝病の頻度について解説する。	苣田慎一	臨床遺伝学テキストノート第2版 第3, 6講義, 配布資料	講義
4/28	月	1	染色体検査と染色体異常	先天異常と造血器腫瘍を対象にした染色体検査の方法と、その特徴及び注意点について解説する。また、染色体検査が疾患の診断に重要な役割を果たす代表的な染色体異常について解説する。	滝智彦	臨床遺伝学テキストノート第2版 第7-9講義	講義
5/12	月	3	出生前診断（胎児異常含む）	胎児の染色体異常や遺伝性疾患の有無を調べる遺伝学的検査が出生前診断と呼ばれている。現在では受精卵を用いて着床前に診断することも可能となっている。本講義では胎児期の代表的な疾患を中心に検査方法や診断後の対応、遺伝カウンセリングなどについて解説する。	松島実穂	標準産科婦人科学 378,379, 442-446, 499-509	講義
5/15	木	5	単一遺伝子疾患	遺伝子や染色体の知識を確認し、小児期発症の骨系統疾患、神経筋疾患などの単一遺伝子疾患のおのおのの病態に基づいた臨床症状を主として講義する。生殖細胞に由来する単一遺伝子疾患における遺伝カウンセリングの原則を理解し、遺伝にまつわる患者・患者家族の悩みの解決に向けた支援ができるようにする。	小須賀基通	標準小児科学 第10章	講義
6/2	月	3	多因子遺伝	多因子遺伝病における遺伝因子については過去20年で飛躍的に進歩した。２型糖尿病を例にあげながら、ゲノム多様性が遺伝因子の本体であること、疾患の決定因子ではなく危険因子であること、単独での効果は弱いこと、集団における頻度、ゲノムワイド関連解析（GWAS）やポリジェニックリスクスコア（PRS）など研究の進歩とその現状、今後の臨床応用の課題、などについて、どの分野でも最低限知っておくべきことを紹介する。	安田和基	臨床遺伝学テキストノート 第2講義, 配布資料	講義
6/23	月	3	腫瘍遺伝・がんゲノム	がんの多くは後天的な要因によって発症するが、その一部に遺伝要因によるものがある。遺伝性腫瘍が見つかるきっかけは、従来は家系情報によることが多かったが、がんゲノム医療など、がんに対して網羅的な遺伝子検査を行う機会が増えたことにより、家族歴のない患者から遺伝性腫瘍が見つかる場合が増えてきた。がん診療に関わる全ての医療者が知っているべき、がんと遺伝の関係について解説する。	滝智彦	臨床遺伝学テキストノート第2版 第10, 15, 17講義	講義
6/24	火	3	遺伝子関連検査	遺伝医療における遺伝子関連検査の目的と適応および検査法について学び、検査結果の解釈について学習する。	大塚弘毅	臨床遺伝学テキストノート第2版第2, 11講義 コラム3	講義
6/24	火	5	遺伝カウンセリング, 遺伝医療	遺伝カウンセリングの基礎を学習する。アクティブラーニングでは、遺伝カウンセリングを通して、遺伝に関する情報を分かりやすく、相手の気持ちにも配慮をした上で伝えることを学習する。遺伝情報に基づく治療や予防が実際の医療で行われていることについても学ぶ。	市川弥生子、 菊地茉莉（認定遺伝カウンセラー）	臨床遺伝学テキストノート第2版 第12, 17講義, コラム1, 5, 配布資料	講義(AL)

年度	2025年度	学年	3年
学科目	臨床医学総論	科目ナンバリング	FME-3F03
単位	1単位	コマ数	14コマ
科目責任者	冨田泰彦　教授		
担当教員	担当教員は講義予定表に記載 担当教員については、主として医学部付属病院において、医師として勤務（実務経験）する教員が講義・実習を担当しており、実際の医療現場における最新の知見に基づく教育内容を受けることができる。		

A．教育の基本方針	臨床で求められる各専門分野の知識を習得する上での基礎となる知識を習得することである。
B．到達目標	臨床各領域の基礎となる諸知識を幅広く習得する。 【杏林大学医学部学生の到達目標との関連】 (1)-②,③，(2)-①,②,③,④,⑤,⑥,⑧,⑨，(4)-①,②
C．修得すべき能力	1．医師・医学研究者としてふさわしい価値観、医師・医学研究者に求められる倫理と法的責任、医学的教養を説明できる。 2．医療の質と安全の確保についての基本的な考え方を説明できる。 3．EBM(根拠に基づく医療)の基本を説明できる。 4．医療面接や、患者医師関係を説明できる。 5．基本的な放射線画像を説明できる。 6．外科治療の基本を説明できる。
D．学習内容	医師としての心構えと医の倫理、診療の進め方、放射線医学入門、外科学総論など。一部の授業では事前の予習を課す。 「医の倫理 (1)、(2)、(4)」では演習問題を解きながらの講義となる。「女性の診察」ではアクティブラーニングとしてグループディスカッションや発表を行う予定である。
E．実習・課外授業	1．実習　　なし 2．課外授業　なし
F．準備学習の内容	事前にシラバスの「講義テーマ」や「講義内容」を読み、参考書等により関連事項についての情報を得たうえで、これに目を通しておくこと。所要時間の目安：各コマ75分程度
G．復習学習の内容	講義で配布されたプリントおよび参考書等の関連ページを熟読して復習すること。所要時間の目安：各コマ75分程度
H．成績評価の方法・基準	1．試験の方針 　筆記試験 2．試験の期日と実施方法 　前期定期試験期間中に筆記試験を行う（追・再試験は後期）。 3．評価法 　定期試験の成績から判定する。 4．判定基準 　60点以上（100点満点として）を合格とする。 　不合格の場合、再試験を受け合格する必要がある。 5．フィードバックの方法 　試験終了後に模範解答を配布

I．学習指導書

①教科書（学生が所持しなければならないもの）	特に無し
②参考書A（学生の所持をすすめるもの）	なし ※(R)：Remedial …　教科書の理解を助けるような補習的なもの (A)：Advanced　…　教科書より進んだ学習のためのもの
③参考書B（図書館等での利用をすすめるもの）	なし ※(R)：Remedial …　教科書の理解を助けるような補習的なもの (A)：Advanced　…　教科書より進んだ学習のためのもの

J．講義予定表

「添付資料」参照

2025年度　3年　講義予定表

【臨床医学総論】

月日	曜	時限	講義テーマ	講義内容	担当	教科書	授業形態
4/2	水	4	EBMの基礎	Evidence Based Medicine（EBM）の概要、エビデンスレベル分類とその内容、疫学研究の方法と研究デザインの概略について例題と演習問題を交えながら解説する。	吉田正雄	資料配付	講義(AL)
4/10	木	3	医の倫理（1）	医師という職業の尊厳と重要性について学び、十分に自覚することを目標とする。ここでは、主に以下の項目について理解し、説明できるようにする。①基本的人権（日本国憲法）と健康の定義（世界保健機関憲章）　②医学史および医学・医療に関する一般教養的知識や考え方　③ヒポクラテスの誓い　④ジュネーブ宣言　⑤患者の権利（リスボン宣言）	吉田正雄	資料配付	講義(AL)
4/23	水	4	診療ガイドライン	現代医学の進歩はめざましく、世界中で最新の診断法、治療法、予防法の研究開発が進んでいるが、日常診療の中で最新のエビデンスを取り入れるのは容易ではない。診療ガイドラインはこのような最新のエビデンスと日常診療の乖離を改善し、日常診療の質の向上を図ることを目的としている。本講義では診療ガイドラインの意義や具体的な作成方法、日常臨床の中での活用方法について概説する。	坪井貴嗣	資料配付	講義
4/25	金	3	腹部単純写真、 消化管X線透視、 血管撮影	主な腹部画像診断法の種類や特徴について、総論的に概説する。また、腹部単純X-Pの基本的な読影方法について解説し、代表的な腹部疾患のX線所見・徴候（サイン）について紹介する。	黒木一典	資料配付	講義
4/28	月	3	小児患者の病歴聴取と診察のエッセンス	小児科の診療における病歴聴取のポイントを理解することを目標とし、小児の成長・発達に即した病歴のとりかた、情報源としての母子健康手帳の利用、および小児を診察する際の注意点について学ぶ。	関口進一郎	資料配付	講義
5/7	水	1	外科周術期管理	手術を支える3本の柱は、術前・術中（麻酔）・術後の管理であり、どれか一つが欠けても手術を成功に導くことはできない。正確な術前評価と手術適応の決定、手術侵襲を極力小さくして、術後合併症や後遺症を回避するために注意すべき点について解説する。	百瀬博一	資料配付	講義
5/7	水	3	医の倫理（2）	医の倫理や臨床医学に関連して、「患者医師関係」を考える上で必要とされる知識につき解説する。	冨田泰彦	資料配付	講義
5/7	水	4	胸部単純写真	全ての画像診断の基礎となる胸部単純写真について、検査法や装置、診断に必要な画像解剖、さらに基本的な画像所見や徴候（サイン）について概説する。	平岡祥幸	資料配付	講義
5/14	水	4	臨床研究の倫理	人を対象とした医学研究は高い倫理に基づいた実施が求められる。倫理指針として、「ヘルシンキ宣言」や「人を対象とする医学研究の倫理指針」が基本となっている。2018年から「特定臨床研究法」が施行され、罰則を伴うなど、医学研究の倫理はますます厳しくなっている。医学研究の臨床試験、倫理、および利益相反について学ぶ。	水谷友紀	資料配付	講義
5/16	金	3	外科侵襲学	外科手術は侵襲を伴う完全回復を放棄した治療法である。このため外科的治療を計画する際には、外科侵襲を理解し手術がもたらすメリットとのバランスを常に考慮する必要がある。講義では外科侵襲やショックの病態につき解説する。	本多五奉	資料配付	講義
5/19	月	3	医の倫理（3）	医師のプロフェッショナリズムに必要とされる、医療倫理や患者医師関係に関する項目について解説する。また関連した医学史上で重要な史実や一般教養の知識について解説する。	冨田泰彦	資料配付	講義
5/26	月	4	医の倫理（4）	⑥ヒトを対象とする医学研究の倫理原則（ヘルシンキ宣言）　⑦医師の法的義務（刑法、医師法など）　⑧生命倫理（尊厳死、安楽死）　⑨ホスピスの歴史と概念。さらに、⑩全人的苦痛、⑪死に至る心の過程については演習問題を交えながら理解を深める。	吉田正雄	資料配付	講義(AL)
6/2	月	5	医療の質と安全の確保	医療の質の確保、医療事故の防止、院内感染対策に関して必要な項目（医師国家試験出題基準）の概略に沿って解説する。	冨田泰彦	資料配付	講義
6/9	月	4	女性の診察	女性の診療と男性の診療の違い，妊婦健診における留意点についてグループワークを行う。	谷垣伸治	資料配付	講義(AL)

年度	2025年度	学年	3年
学科目	呼吸器内科学	科目ナンバリング	FME-3F04
単位	1単位	コマ数	16コマ
科目責任者	石井晴之　教授		
担当教員	教　授　石井晴之、皿谷健 その他の担当教員は講義予定表に記載 上記担当教員については、主として医学部付属病院において、医師として勤務（実務経験）する教員が講義・実習を担当しており、実際の医療現場における最新の知見に基づく教育内容を受けることができる。		

A．教育の基本方針	呼吸器の形態と機能を理解したうえで、呼吸器病学の全体像を把握する。さらに、主要な疾患について、その病態と診断および治療について系統的に理解する。呼吸器がvital organであることを理解し、臨床医学の中での重要性を理解する。これらの学習を通して、良医となるための心構えを育成する。
B．到達目標	呼吸器疾患群の分類・原因・診断学につき理解し、その概要を身につける。実地医療の入り口として画像診断学、呼吸生理学、そのほかの検査を理解し、概要を述べることができる。診断のプロセスと技術について理解し、実際の症例に応用する準備を整える。治療法選択の科学的根拠と個々の疾患の治療について述べることができる。 【杏林大学医学部学生の到達目標との関連】 (1)-②,③,（2)-①,②,③,④,⑤,⑥,⑧,⑨,（4)-①,②
C．修得すべき能力	１）呼吸器疾患群の分類・原因・診断学につき理解し説明することができる。 ２）基本的な画像診断学、呼吸生理学、そのほかの検査を理解し、診断に役立てることができる。 ３）主な疾患の治療法を理解し、その科学的根拠について述べることができる。
D．学習内容	指定教科書の内容は予習・復習のための参考である。授業で配布する資料・スライドなどの教材を用いながら呼吸器病学の系統的理解と習得を行う。 学生参加型臨床講義（アクティブ・ラーニング）を呼吸器内科の症候学（咳、痰、呼吸困難）において 1 コマ行う。 事前に配布される資料を予習し、講義に臨む。全体を 3 グループに分け、担当グループは質疑応答し ながら、学生自身が考えながら進める。
E．実習・課外授業	１．実習　　なし ２．課外授業　なし
F．準備学習の内容	事前にシラバスの「講義テーマ」や「講義内容」を読み、教科書に目を通しておくこと。所要時間の目安：各コマ75分程度。
G．復習学習の内容	講義で配布されたプリントや練習問題の解答および教科書の関連ページを熟読して復習すること。所要時間の目安：各コマ75分程度。
H．成績評価の方法・基準	１．試験の方針 呼吸器疾患の病態、診断、治療の基礎知識の習得状況を確認する。 試験内容のフィードバックは適宜行う。 ２．試験の期日と実施方法 学期末に行う。 ３．評価法 試験結果。出席日数が所定の数に達しないものは受験できない。 ４．判定基準 60点以上。 ５．フィードバック方法 試験終了後に模範解答を配布

Ⅰ．学習指導書

①教科書（学生が所持しなければならないもの）	呼吸器診療 ANDS BOOK (中外医学社)
②参考書Ａ（学生の所持をすすめるもの）	(R)朝倉書店：内科学、中山書店：内科学書、 (R)新臨床内科学(医学書院)など ※(R)：Remedial …　教科書の理解を助けるような補習的なもの (A)：Advanced　…　教科書より進んだ学習のためのもの
③参考書Ｂ（図書館等での利用をすすめるもの）	(A) Fraser: Diagnosis of diseases of the chest ※(R)：Remedial …　教科書の理解を助けるような補習的なもの (A)：Advanced　…　教科書より進んだ学習のためのもの

Ｊ．講義予定表

「添付資料」参照

2025年度　3年　講義予定表

【呼吸器内科学】

月日	曜	時限	講義テーマ	講義内容	担当	教科書	授業形態
8/27	水	5	解剖と生理・呼吸不全	呼吸器の解剖、つまり気道とガス交換器の構造について学ぶ。 正常時における呼吸器系の機能を、呼吸運動・換気、呼吸の調節機構など呼吸生理学の見地から理解する。さらに臨床の場で行われる呼吸機能検査、すなわちスパイロメトリ、フローボリューム曲線、肺コンプライアンスやクロージングボリュームについて概括を知る。	石井晴之	呼吸器診療ANDS BOOK p82-84, p180-208, p311-324,	講義
9/2	火	3	呼吸器疾患の症候学	咳、喀痰、呼吸困難など呼吸器領域での主要な症候を、その病態生理とともにグループディスカッションを交えながら理解する。	皿谷健	呼吸器診療ANDS BOOK p2-99	講義(AL)
9/9	火	4	呼吸器疾患の身体所見	身体所見（視診、触診、打診、聴診）について学ぶ。	皿谷健	呼吸器診療ANDS BOOK p2-99	講義
9/17	水	3	画像診断	呼吸器疾患の診断を進める上で重要な画像診断の基本的な知識を整理する。また胸部単純写真および胸部CTにおける診断の基本的な考え方を説明する。その他の検査にもふれる。	石井晴之	呼吸器診療ANDS BOOK p131-172	講義
9/18	木	2	気管支鏡検査	肺と気道の解剖、気管支鏡検査の適応、検査の流れ、検査の種類、合併症を症例を交えながら概説する。	麻生純平	呼吸器診療ANDS BOOK p365-370, p381-383.（初めて握る人のための気管支鏡入門マニュアルmedical view社）	講義
9/25	木	5	COPD・DPB	慢性閉塞性肺疾患COPDの概念、診断と治療について学ぶ。びまん性汎細気管支炎DPB、気管支拡張症、閉塞性細気管支炎などについても概説する。	和田裕雄	呼吸器診療ANDS BOOK p8-10, p21-24,p152, p311-336, p278-282	講義
10/16	木	3	気管支喘息・好酸球アレルギー	気管支喘息の病態として気道の慢性炎症と気道の狭窄や過敏性亢進が重要であること、その臨床症状、診断と治療について学ぶ。長期管理のための重症度分類や重症度に対応した治療内容を理解することが必要である。好酸球性肺炎の概念、分類さらに主要疾患について理解する。アトピー咳嗽や喘息とCOPDのオーバーラップについても学ぶ。	中本啓太郎	呼吸器診療ANDS BOOK p21-24, p232-234, p311-316,p388,391, p424-429	講義
10/20	月	5	市中肺炎・院内感染	市中肺炎、院内肺炎の定義、起炎菌、病態、治療、予防（インフルエンザ、肺炎球菌ワクチン含む）など症例を交えながら解説する。呼吸器ウイルスの関与も概説する。	本多紘二郎	呼吸器診療ANDS BOOK p236-261, p209-220	講義
10/22	水	5	換気障害・睡眠時無呼吸	気管支閉鎖症、CCAM, 肺分画症の概説。睡眠時無呼吸の疫学、診断、予防、治療、合併症を理解する。	布川寛樹	呼吸器診療ANDS BOOK, p166-171, p173-178	講義
10/27	月	5	肺腫瘍・診断学	原発性肺癌の臨床症状、組織学的分類（非小細胞肺癌、小細胞肺癌）とそれぞれの特徴、診断、腫瘍随伴症候群、病期診断ついて概説する。	高田佐織	呼吸器診療ANDS BOOK p35, 47-50, p53-56, 61-67, p342-358, p411-420, p454-475	講義
10/30	木	4	肺腫瘍・治療学	肺癌の最新治療、病期分類に基づいた化学療法、分子標的治療薬、免疫チェックポイント阻害薬、放射線照射、緩和治療を含めて学ぶ。	高田佐織	呼吸器診療ANDS BOOK p342-358, p411-420, p454-475	講義
11/4	火	5	肺結核・非結核性抗酸菌症	肺抗酸菌症として重要な肺結核と非結核性抗酸菌症について呼吸器からみた視点で解説する。	皿谷健	呼吸器診療ANDS BOOK,p262-281	講義
11/5	水	3	肉芽腫症肺疾患	サルコイドーシスの概念、臓器病変（肺、眼、心臓、神経、筋、骨、皮膚など）、診断、治療、画像所見などについて整理する。過敏性肺炎の概念、病態、症状、検査、治療に関して解説する。そのほかの全身性疾患をGoodpasture症候群、Langerhans細胞組織球症、多発血管炎性肉芽腫症、好酸球性多発血管炎性肉芽腫症を中心に概説する。	石井晴之	呼吸器診療ANDS BOOK p381-383, p424-428, p302-310, p441-443	講義
11/12	水	5	間質性肺疾患	肺線維症・間質性肺炎の病態、間質性肺炎の分類、主要疾患である原因不明の特発性間質性肺炎、さらに、二次性の間質性肺疾患として、医原性（薬剤性と放射線）、膠原病に伴うもの、塵肺症(珪肺症とアスベストによる肺障害)を述べる。	石井晴之	呼吸器診療ANDS BOOK p21-24, p283-292, p302-310, p434-441, p482-488	講義
11/27	木	2	胸膜疾患	胸膜疾患の基本と胸水の鑑別およびLightの基準について解説する。疾患では、感染性胸膜炎、癌性胸膜炎、結核性胸膜炎、乳び胸、胸膜中皮腫とアスベスト関連疾患について概説する。つづいて、気胸の概念、原因、診断と治療方針、縦隔炎や縦隔腫瘍などの縦隔疾患についても概説する。	佐田充	呼吸器診療ANDS BOOK,p16, p230, p294-299, p444-453,p488-490, p497-501	講義
12/3	水	4	稀少先天性肺疾患	肺稀少疾患のうち、肺胞蛋白症、リンパ脈管筋腫症、肺胞微石症を解説する。近年の分子生物学的な技術の進歩で、病態の解明と、有効な治療の開発が進んでいる。稀少疾患の病態解明は、肺内の生理的機構の理解にも役立つ。	石田学	呼吸器診療ANDS BOOK, 157-171	講義

年度	2025年度	学年	3年
学科目	腎臓内科学	科目ナンバリング	FME-3F05
単位	1単位	コマ数	18コマ
科目責任者	駒形 嘉紀 教授		
担当教員	客員教授　有村 義宏、要 伸也 准教授　川上 貴久 講師　鮎澤 信宏 学内講師　池谷 紀子、川嶋 聡子 助教(任期)　久木元 光 腎臓・リウマチ膠原病内科学教室が担当する。 主として医学部付属病院において医師として勤務する教員が講義・実習を担当しており、実践的かつ最新の知見に基づく医学の教育を受けることができる。		

A．教育の基本方針	医師・医学研究者として必要な本領域の医学知識と技能を備え、かつ、医の倫理の意識と社会的使命の自覚をもった医師を育成する。
B．到達目標	Bed Side Learning時に、および卒後に医師として必要な腎臓内科学の知識・技能を修得する。 ：腎臓は体液の恒常性維持を司るvital organであり、様々な原因・疾患により、その生理的機能が破綻し、水・電解質・酸塩基などの異常を呈する。臨床の現場で頻繁に遭遇するそのような状況に対処できるようになるために必要な知識・技能を修得する。ただ知識を暗記するのではなく、その機序＝病態生理を理解する。 【杏林大学医学部学生の到達目標との関連】 (1)-②,③，(2)-①,②,③,④,⑤,⑥,⑧,⑨，(4)-①,②
C．修得すべき能力	１．腎臓・ネフロンの構造とその各部位の機能を理解し、説明することができる。 ２．腎疾患による症候、検査の異常所見にはどのようなものがあるか把握し、その機序を説明することができる。 ３．医師として知っておくべき基本的な腎疾患の各々について、その概念、病態生理、検査所見、治療法などを系統立てて理解し、説明することがができる。
D．学習内容	講義形式で学習する。各講義の内容は講義予定表を参照のこと。 アクティブ・ラーニングの実施法：講義の中で質疑応答を行う。
E．実習・課外授業	なし
F．準備学習の内容	講義テーマ・講義内容を確認し、少なくとも教科書の該当箇所は事前に学習しておくこと。 必要に応じて他の参考書や文献検索等により関連事項についても学習しておくこと。 所要時間の目安：各コマ75分程度
G．復習学習の内容	講義スライドや教科書の該当ページが理解できるまで復習すること。 興味を持った分野については、参考書などでさらに理解を深めるとよい。 所要時間の目安：各コマ75分程度
H．成績評価の方法・基準	１．試験の方針 腎臓に関する基礎知識、腎疾患の病態、診断、治療に関して修得状況を確認する。 ２．試験の期日と実施方法 学期末に筆記試験（５択及び再生形式）を実施する。 ３．評価法 定期試験の結果をもって本科目の成績とする。ただし、出席日数が所定の数に達しないものは受験できない。本試験で不合格の者に対しては再試験を実施する。 ４．判定基準 本試験、再試験ともに100点満点で60点以上を合格とする。 ５．フィードバック方法 試験終了後に模範解答を配布

Ｉ．学習指導書

①教科書（学生が所持しなければならないもの）	新臨床内科学　第10版　矢崎義雄監修　医学書院　（2020年）
②参考書Ａ（学生の所持をすすめるもの）	下記の「参考書B」に挙げた本で気に入ったもの、面白そうなものがあったら所持して下さい。
③参考書Ｂ（図書館等での利用をすすめるもの）	・病気がみえる vol.8 腎・泌尿器　第3版　メディックメディア　（2019年） ＜内科学＞ ・内科学　第12版　矢﨑 義雄 他 総編集　朝倉書店（2022年） 　日本語の内科学の教科書で最も定番のもの ・内科学書　改訂第9版　南学 正臣 総編集　中山書店（2019年） 　日本語の内科学の教科書で定番のもの ・Harrison's Principles of Internal Medicine, 21st ed., MCGRAW-HILL EDUCATION （2022年） 　英語の内科学の教科書で最も定番のもの（和訳はかなり古い版なのでお薦めしない）

	＜腎臓内科学＞ ・Comprehensive Clinical Nephrology, 7th ed. R.J.Johnson et al. ELSEVIER（2024年） 　英語の腎臓病学の教科書で人気のもの ・Brenner & Rector's the Kidney, 11th ed. A.S.L.Yu et al. ELSEVIER（2020年） 　英語の腎臓病学の教科書で最も定番のもの ＜水・電解質・酸塩基平衡＞ ・水・電解質と酸塩基平衡：step by stepで考える　黒川 清 著　南江堂（2004年） 　薄くて読みやすいが、内容は薄くない ・より理解を深める！ 体液電解質異常と輸液　改訂3版　柴垣 有吾 著　中外医学社（2007年） 　評判の良い電解質の本 ＜腎病理＞ ・なぜパターン認識だけで腎病理は読めないのか？　長田 道夫、門川 俊明 著（2017年） 　腎病理医と腎臓内科医の対話形式で読みやすく、異常が起こる機序が分かる ・非腫瘍性疾患病理アトラス 腎　大橋 健一 他 編　文光堂（2022年） 　包括的な腎病理アトラスで最新のもの ・腎生検病理アトラス改訂版　日本腎病理協会・日本腎臓学会編　東京医学社　（2017年） 　包括的な腎病理アトラス。少しだけ古いが、上記より写真が大きい。

Ｊ．講義予定表

「添付資料」参照

2025年度　3年　講義予定表

【腎臓内科学】

月日	曜	時限	講義テーマ	講義内容	担当	教科書	授業形態
8/26	火	5	腎臓内科学総論　～病態生理から腎疾患を俯瞰する～	腎臓はその精緻な構造によって多様な生理的機能を果たしている。どのような構造・機能の破綻がどのような腎疾患の原因となるのかを見ていきながら、今後の講義に出てくるバラエティーに富んだ腎疾患を俯瞰してみよう。	川上貴久	1118-24	講義
9/2	火	5	腎疾患の検査（１） 腎機能検査と画像検査	腎機能検査の基本である糸球体濾過量(GFR)の評価法（クリアランス法、推算GFR、クレアチニン・シスタチンＣなどの血液検査）とそれぞれの特徴について学ぶ。また、腎疾患の診療で用いる他の機能検査（腎血流量検査、レノグレムなど）、画像検査（超音波検査、CTなど）についても学ぶ。	軽部美穂	1133-35	講義
9/4	木	4	主要症候と検査（１） 浮腫，多尿・乏尿／尿検査	体液組成と体液の過剰による浮腫について、そして多尿・乏尿といった尿についての徴候と尿検査の見方について解説する。特に、尿蛋白の定性・定量法、尿潜血、沈渣の鏡検法を学び、各種疾患の鑑別法を知る。またFractional Excretion(FE)の意味を理解する。	池谷紀子	58-61,1125-32	講義
9/11	木	4	電解質異常（１） 水・ナトリウム代謝異常	体液の組成とその調節メカニズムの破綻により電解質異常が生ずる。ここではまず、水・ナトリウム・浸透圧の異常（とくに低Na血症、高Na血症）を来たす疾患の鑑別、治療法について解説する。	要伸也	1135-38	講義
9/11	木	5	電解質異常（２） 酸・塩基異常	酸・塩基の調節メカニズムを復習したあと、代謝性アシドーシス・アルカローシスの意味、原因と鑑別、さらに血液ガスの読み方の基本について解説する。尿細管性アシドーシスの３つの病型（１型、２型、４型）の違いを理解する。	要伸也	1141-46, 1231-32	講義
9/16	火	2	糸球体疾患総論	糸球体疾患の症状・徴候や検査所見に触れた後で、臨床診断／組織診断、腎炎／ネフローゼ(症候群)という鑑別に必要な概念を説明する。腎病理の読み方と糸球体疾患の治療の総論についても触れる。	川上貴久	1177-81	講義
9/18	木	5	電解質異常（３） カリウム代謝異常、および Bartter症候群、Gitelman症候群、Liddle症候群について	カリウムの調節メカニズムと低K血症、高K血症の原因およびその鑑別、治療法につき解説する。尿細管異常のうちBartter症候群、Gitelman症候群、Liddle症候群の原因と病態についても触れる。	鮎澤信宏	1138-40, 1232-34	講義
9/19	金	4	電解質異常（４） カルシウム・リン代謝異常と尿細管機能異常	Ca、Pの調節メカニズムについて概説し、その異常によって起こる疾患とその鑑別法につき解説する。最後に、電解質異常を来たす近位および遠位尿細管疾患、利尿薬の作用点についてまとめる。	川嶋聡子	1146-51, 1234-35	講義
10/14	火	5	急性腎障害＜AKI＞	急速に腎機能や尿量が低下する急性腎障害は、その機序から腎前性、腎性、腎後性に分類される。それぞれの原因となる病態および鑑別の方法、対処法について学ぶ。	池谷紀子	1158-63	講義
10/16	木	4	一次性糸球体疾患 各論（１）	微小変化(型)、巣状分節性糸球体硬化症、膜性腎症、IgA腎症、膜性増殖性糸球体腎炎、溶連菌感染後糸球体腎炎の6疾患について講義する。臨床所見と病理所見からこれらの疾患が鑑別できるようになることが目標である。加えて、各疾患の治療、二次性の原因などについても解説する。	川上貴久	1181-92	講義
10/16	木	5	一次性糸球体疾患 各論（２）	上記の内容の後半を解説し、講義の後半では腎生検の組織を見ながら質問に答えてもらいディスカッションをしていく予定である。	川上貴久	1181-92	講義(AL)
10/23	木	5	高血圧（腎血管性を含む）・ 腎循環障害	本態性以外の二次性高血圧の中に腎性高血圧（腎実質性と腎血管性）がある。高血圧の成因には腎臓が深く関与し、逆に高血圧は腎障害（腎硬化症）を引き起こす。その他、腎梗塞、微小血管障害である血栓性微小血管症（TMA）・コレステロール塞栓症にも触れる。	鮎澤信宏	407-415, 1195-1202	講義
10/29	水	4	二次性腎障害（１） 膠原病、血管炎と腎	全身性エリテマトーデス、強皮症などの膠原病、およびANCA関連血管炎、抗糸球体基底膜病、IgA血管炎などの全身性血管炎に伴う腎障害について解説する。	有村義宏	1203-14	講義
10/30	木	5	尿細管間質性腎炎 薬剤性腎障害 妊娠高血圧症候群	尿細管間質性腎炎は、その原因から薬剤性、自己免疫性、感染性に大別される．その臨床所見、病理所見、治療について講義する。そして薬剤性腎障害全般、妊娠高血圧症候群（妊娠によって起こる高血圧・腎障害）についても解説する。	川上貴久	1128-1231, 1255-65	講義
11/20	木	4	慢性腎臓病＜CKD＞（１）	慢性腎臓病（chronic kidney disease：CKD）は腎機能低下，尿検査異常，腎形態異常などの腎障害の1つ以上を３ヶ月以上認めるものと定義されるが、狭義に(e)GFR<60mL/min/1.73m^2のものを指すことが多い。進行するものは腎機能が年余にわたり低下し、末期にいたれば腎代替療法が必要となる。本講義では、CKDの重症度分類、進行機序、心血管病との関連、管理・治療について解説する。	川上貴久	1151-57	講義
11/20	木	5	慢性腎臓病＜CKD＞（２）	上記のCKDの治療の後半、特に貧血とCKD-MBD（mineral and bone disease）について解説する。	川上貴久	1156-57, 1167-68, 1169-71	講義
11/21	金	4	二次性腎障害（２） 代謝性疾患など	糖尿病性腎症のほか、痛風腎（尿酸腎症）、遺伝性腎炎（アルポート症候群、菲薄基底膜病）、Fabry病、アミロイド腎症、M蛋白血症に伴う腎症（骨髄腫腎など）、肝炎ウイルス・HIV, MRSAなどの感染症やクリオグロブリン血症に伴う腎障害について学ぶ。	川嶋聡子	745-748, 1193-95, 1214-28	講義
12/5	金	1	腎代替療法（透析・移植）と 血液浄化療法	血液透析・腹膜透析の原理・方法，両者の利点・欠点を解説し、アミロイドーシスなどの主な透析合併症についてまとめる。腎移植，透析以外の血液浄化療法（アフェレーシス）にも触れる。	川嶋聡子	1163-77	講義

年度	2025年度	学年	3年
学科目	神経内科学・脳卒中医学	科目ナンバリング	FME-3F07
単位	2単位	コマ数	24コマ
科目責任者	市川弥生子　教授		
担当教員	教　授　　市川弥生子（脳神経内科学）、平野照之（脳卒中医学） 准教授　　辻川将弘（リハビリテーション医学） 学内講師　　内堀歩（脳神経内科学）、大石知瑞子（脳神経内科学） 助　教　　徳重真一（脳神経内科学） 非常勤講師　畑中裕己（脳神経内科学） 医学部付属病院において、医師として勤務（実務経験）する上記教員が講義を担当する。実際の医療現場における最新の知見に基づく教育内容を受けることができる。		

A．教育の基本方針	カリキュラムは前半の基礎・総論編と後半の疾患・各論編で構成している。 （１）基礎編・総論編：神経疾患の理解の上で最も重要な神経解剖について臨床神経学の見地から復習を行う。その上で症候学、補助診断、画像診断などの神経疾患診断学の基礎となる事項について学習し、病的状態をどのようにしてとらえるかを学ぶ。 （２）疾患・各論編：機能性疾患（けいれん、頭痛など）、中枢神経・末梢神経・自律神経・筋肉の血管障害・炎症・感染症・変性疾患・脱髄性疾患、内科的疾患における神経障害などの臨床を学習する。
B．到達目標	神経内科学・脳卒中医学では、まず中枢および末梢神経系の構造について学び、それぞれの基本的機能を理解する。その基礎知識に基づいて、脳・神経系の主な症候と病態生理、それを臨床的に捉えるための検査について理解する。脳神経系の各疾患について、系統毎に概念・病態・診断・治療について理解する。体系的な学習により、脳・神経系の構造と機能を理解し、神経症候から体系的な鑑別診断を組み立てられる能力を身につける。 [本講義で学ぶ疾患] １．機能性疾患：けいれん・頭痛・めまい ２．脳・脊髄の血管障害 ３．代謝性神経疾患 ４．末梢神経・筋疾患 ５．神経変性疾患 ６．感染性神経疾患 ７．脱髄性疾患 ８．脊椎・脊髄障害 【杏林大学医学部学生の到達目標との関連】 (1)-②,③,（2)-①,②,③,④,⑤,⑥,⑧,⑨,（4)-①,②
C．修得すべき能力	１．臨床に必要な脳神経系の構造と機能を説明することができる ２．神経症候とその病態生理を説明することができる。 ３．神経症候とそれを捉えるための検査を説明することができる。 ４．神経系の各疾患について、その概念・病態・診断・治療の基本事項について説明することができる。
D．学習内容	神経内科学・脳卒中医学が対象とする領域は、脳神経系全般であり、脳、脊髄、末梢神経、骨格筋と幅広い。各臓器について、感染・炎症・脱髄・変性・血管障害に関連した病態が生じるため、的確な診断を行うには臨床病態についての幅広い知識が必要とされる。 本講義では、まず臨床に必要な神経解剖・機能を理解し、神経症候学を学ぶ。病態生理をとらえる検査法を理解した上で、神経疾患の各論について学べるよう系統立てた学習プログラムとなっている。 脳血管障害のリハビリテーションについても学習する。 アクティブ・ラーニングの実施法：講義で学習した神経疾患に関連したディスカッションを行う。
E．実習・課外授業	１．実習　　なし ２．課外授業　なし
F．準備学習の内容	事前にシラバスの「講義テーマ」や「講義内容」を詳しく読み、以下に挙げる教科書や参考書、必要に応じて文献検索等により関連事項についての情報を得たうえで、これに目を通しておくこと。所要時間の目安：各コマ75分程度
G．復習学習の内容	講義で配布されたプリントおよび教科書の関連ページを熟読し、キーワードに留意しながら復習すること。神経解剖に基づく病態生理を理解し、自分で説明できるようにする。所要時間の目安：各コマ75分程度
H．成績評価の方法・基準	１．試験の方針 筆記試験（五者択一のマークシート方式と記述式の混合）を行う。 ２．試験の期日と実施方法 前期定期試験期間中に筆記試験を行う（追・再試験は後期） ３．評価法 定期試験の成績により評価する。 ４．判定基準 定期試験60%以上を合格とする。 本試験に不合格であれば再試を受けなければならない。 定期試験を受験するには一定以上の講義出席率を必要とする。 ５．フィードバック方法 試験終了後に模範解答を配布する。質問にも対応する。

Ⅰ．学習指導書

①教科書（学生が所持しなければならないもの）	矢﨑義雄　新臨床内科学　第10版、医学書院
②参考書Ａ（学生の所持をすすめるもの）	(R)病気がみえる vol.7脳・神経　医療情報科学研究所　最新版 (R)神田隆　医学生・研修医のための脳神経内科　改訂4版　中外医学社 (R)上田敏/伊藤利之　標準リハビリテーション医学　第４版　医学書院 (A)田崎義昭　ベッドサイドの神経の診かた　南山堂 ※(R)：Remedial …　教科書の理解を助けるような補習的なもの (A)：Advanced　…　教科書より進んだ学習のためのもの
③参考書Ｂ（図書館等での利用をすすめるもの）	(A)水野美邦　神経内科ハンドブック　第5版　医学書院 (A)豊田一則　脳梗塞診療読本　第3版　中外医学社 ※(R)：Remedial …　教科書の理解を助けるような補習的なもの (A)：Advanced　…　教科書より進んだ学習のためのもの

Ｊ．講義予定表

「添付資料」参照

2025年度　3年　講義予定表

【神経内科学・脳卒中医学】

月日	曜	時限	講義テーマ	講義内容	担当	教科書	授業形態
4/1	火	4	神経総論 科目の概要・診断手順	神経内科疾患のカテゴリーとそれぞれの発症パターン、診断の手がかりとなるエピソード、神経症候をとらえる上での着眼点・所見の整理法・解析のためのロジックについて解説する。	市川弥生子	1268～1275, 配布資料	講義
4/2	水	3	臨床に必要な神経解剖の基本	神経放射線学的検査の読影など臨床現場で必要とされる神経解剖の基本について概説する。特に中枢神経系と脳血管系に関して医学的記述が出来るよう神経解剖の基礎を解説する。	畑中裕己	配布資料	講義
4/11	金	3	神経系の症候学（1): 脳神経	１２対ある脳神経系の具体的な診察場面で見られる症候を学ぶ。生理的なものから病的な反応を含む。いくつかの脳神経にまたがる症候群についても解説する。	内堀歩	配布資料	講義
4/21	月	4	神経系の症候学（２）：運動・感覚	神経内科の臨床で最も重要な症候学である運動や感覚について講義する。これら両系の正常機能と病的状態に関して臨床に即した解説を行う。	大石知瑞子	81～84, 1274, 1294～1295, 配布資料	講義
4/21	月	5	神経系の補助検査（１）：髄液・電気生理	神経系領域での各種補助検査について概説する。特に神経系臨床で頻用される髄液検査と電気生理検査（脳波・筋電図・各種誘発電位検査など）を中心に講義する。	大石知瑞子	1341～1342, 1441～1442, 配布資料	講義
4/24	木	4	神経系の症候学（３）：大脳高次機能	失語症の基本的な病型分類とその特徴、脳における病巣の局在との対応、診断のプロセスについて解説する。失読症、失行・失認の様々な病型についても解説する。	徳重真一	配布資料	講義
4/30	水	4	神経筋疾患（１）： 末梢神経障害	総論として末梢神経の解剖に即した障害パターンと臨床症候・電気生理学所見の特徴を解説し、各論として遺伝、アミロイド、自己免疫などによるニューロパチーについて解説する。	大石知瑞子	1440～1459, 配布資料	講義
4/30	水	5	神経系の補助検査（２）：画像・生検	臨床で遭遇する放射線検査などの画像検査を取り上げる。このなかには筋肉のCTや頭蓋・脊椎のX線検査などを含む。また神経や筋の生検の適応と神経・筋病理の実際にも触れる。	内堀歩	1277, 配布資料	講義
5/8	木	5	機能性疾患（１）： てんかん	てんかんの疾患概念と各種発作型とその脳波上の特徴をビデオによる実際の発作の様子を示しながら解説する。原因ごとの好発年齢、薬物療法、妊娠時の対応についても解説する。	徳重真一	1481～1483,1492, 配布資料	講義
5/14	水	3	機能性疾患（２）: 頭痛・めまい・自律神経障害	臨床の実際で見られることの多い頭痛とめまいについて、そのメカニズムおよび鑑別診断を考えていく。その他失神およびその原因となりうる起立性低血圧などの自律神経障害の原因と対策にもふれる。	内堀歩	8～10, 72～76, 1457, 1483～1490, 1494～1495, 配布資料	講義
5/19	月	5	神経変性疾患（１）: 不随意運動・PD	不随意運動は一見わけがわからないように見える。しかし、一定の特徴があり、それに沿ってみていくと容易にわかるようになる。重要な疾患について説明する。	徳重真一	84-85,1389-1405, 配布資料	講義
5/26	月	3	脳血管障害（１）	３大病型であるラクナ梗塞、アテローム血栓性脳梗塞、心原性脳塞栓症、それぞれの病態の違いを示し、一過性脳虚血発作についても解説する。さらにNIHSS評価など救急対応の実際を紹介する。	平野照之	1275～1278,1286～1305, 配布資料	講義
6/4	水	4	神経変性疾患（２）：SCD・MND	脊髄小脳変性症の分類と各病型の症状・画像の特徴を解説する。筋萎縮性側索硬化症を中核とする運動ニューロン疾患について解説する。	市川弥生子	1405-1416, 配布資料	講義
6/6	金	3	脳血管障害（２）	脳血管障害の危険因子とその管理方法について解説する。最新の脳卒中治療ガイドラインに準拠して、病型ごとの治療指針（急性期・慢性期）を示す。	平野照之	1286～1305, 配布資料	講義
6/10	火	4	神経筋疾患（２）： 筋疾患	筋疾患は近年基礎・治療研究でめざましい進歩が見られる。筋疾患の診察・検査法、代表的な筋疾患（筋ジストロフィー/ミオパチ、筋炎、各種のミオパチー）と神経・筋接合部疾患について、必要な知識と研究の進歩を概説する。	大石知瑞子	1459～1480, 配布資料	講義
6/10	火	5	脊髄・脊椎	脊髄疾患の診断に必要な高位診断や横位診断などの基本的事項、病変の局在により異なる症候を解説する。脊髄血管障害、炎症性疾患、感染症、腫瘍、放射線障害などを解説する。	大石知瑞子	1319～1323, 配布資料	講義
6/11	水	3	脳血管障害（３）	無症候性脳血管障害、脳小血管病、遺伝性脳血管障害、および全身性疾患と脳血管障害の関連について様々な観点から解説を加える。	平野照之	1280～1282,1305～1317, 配布資料	講義
6/11	水	4	神経変性疾患（３）: 認知症性疾患	認知機能とその障害である認知症に関して概説する。特にアルツハイマー病について詳細に講義するが、他にも前頭側頭型認知症やプリオン病など多彩な疾患について解説する。	徳重真一	90,1361～1389, 配布資料	講義
6/17	火	1	脱髄性疾患： 多発性硬化症と脱髄性疾患	自己免疫性中枢性脱髄疾患である多発性硬化症・急性散在脳脊髄炎について詳しく解説する。代謝異常による各種白質脳症、橋中心髄鞘崩壊についても解説する。	内堀歩	1354～1361, 配布資料	講義
6/17	火	4	神経感染症（１）： 髄膜炎	ウイルス性髄膜炎・細菌性髄膜炎・結核性髄膜炎・真菌性髄膜炎について、各病型の臨床経過・髄液の特徴、背景因子、年齢と好発起炎菌、治療の進め方、合併症について解説する。	市川弥生子	1331～1354, 配布資料	講義
6/17	火	5	神経感染症（２）： 脳炎・その他	ヘルペスウイルス感染症、中でも単純ヘルペス脳炎について詳しく解説し、 HTLV-1関連脊髄症、HIV感染関連神経障害、神経梅毒、プリオン病、などについても解説する。	市川弥生子	1331～1354, 配布資料	講義
6/25	水	3	中毒・代謝・栄養疾患（１）	代謝異常をきたしている物質グループごとに分けて、そこに含まれる疾患とその共通する特徴を解説する。第１回目は、アミノ酸、脂質・ムコ多糖・オリゴ糖の代謝異常症について解説する。	市川弥生子	1417-1433, 配布資料	講義
6/25	水	4	中毒・代謝・栄養疾患（２） AL（アクティブ・ラーニング）	第２回目は、金属・核酸・糖質の代謝異常症、ミトコンドリア病、アルコールによる神経障害を含む中毒・栄養障害による神経障害について解説する。 ALでは神経筋疾患患者の背景、日常生活について、ディスカッションを行い、理解を深め、地域医療体験学習につなげる。	市川弥生子	1433-1440, 1867, 配布資料	講義(AL)
6/27	金	2	脳血管障害（４）： リハビリテーション	脳卒中のリハで問題となる障害として画像と対比して片麻痺、感覚障害、運動失調、嚥下障害を取り上げ、歩行障害やADL、摂食嚥下のリハについて概説する。	辻川将弘	「標準リハビリテーション４版（医学書院）」221～241　および配布プリント資料	講義

年度	2025年度	学年	3年
学科目	循環器病学	科目ナンバリング	FME-3F08
単位	3単位	コマ数	36コマ
科目責任者	副島京子　教授		
担当教員	教　授　　副島京子、村田光繁 、河野隆志、窪田　博、細井　温 准教授　　松尾征一郎、合田あゆみ、小山幸平、遠藤英仁、保崎　明 特任教授　佐藤俊明 その他の担当教員は講義予定表に記載 上記担当教員については、主として医学部付属病院において、医師として勤務（実務経験）する教員が講義・実習を担当しており、実際の医療現場における最新の知見に基づく教育内容を受けることができる。		

A．教育の基本方針	循環器系疾患の理解と、病態の把握。いずれも解剖学的知識を基礎に、小児科・内科・外科・放射線科的な診断から治療法への流れを系統的に教育し、基礎・臨床医学の総合的知識を習得する。 また、疾患を学ぶだけでなく、良医となるための心構えを持つことを教育する。
B．到達目標	１）心臓・血管を主にした循環器の解剖、生理・機能、また各種疾患の病態、診断、治療・予防についての基本的知識およびその応用を習得する。 ２）循環器系疾患を正しく理解するとともに、それらの診断や治療を的確に行うことができる臨床医となるため、必須な基礎知識とその活用法を習得する。 【杏林大学医学部学生の到達目標との関連】 (1)-②,③，(2)-①,②,③,④,⑤,⑥,⑧,⑨，(4)-①,②
C．修得すべき能力	①循環器の正常構造と機能を、正しく理解できる。 ②主要な循環器系疾患の病態生理、原因、症候について、正しく理解し説明できる。 ③主要な循環器系疾患の診断に必要な検査法と、その評価や鑑別診断について、正しく理解し説明できる。 ④主要な循環器系疾患の治療法について、正しく理解し説明できる。
D．学習内容	循環器内科学教室のほか、放射線医学、解剖学、小児科学、心臓血管外科学の各教室が協力して担当する。 主としてスライドを用いた対面授業を行う。 学生参加型臨床講義を１コマ行う。事前に配布資料を予習し講義に臨む。与えられた課題を、学生自身で解決しながら進める。
E．実習・課外授業	１．実習　　なし ２．課外授業　なし
F．準備学習の内容	事前にシラバスの「講義テーマ」や「講義内容」を読み、教科書や参考書、必要に応じて文献検索等により関連事項についての情報を得たうえで受講すること。 所要時間の目安：各コマ75分程度
G．復習学習の内容	講義ノートを見直して内容を理解する。必ず記憶すべき事項としては、教科書となっている新臨床内科学での記載は最低限記憶する。 所要時間の目安：各コマ75分程度
H．成績評価の方法・基準	１．評価の方針 講義および自習によって身につけた循環器病学の知識を確認する。 ２．試験の期日と実施方法 記述式またはマークシート方式 ３．評価法 試験成績によって評価する。 ４．判定基準 60％以上を合格とする。 ５．フィードバック方法 試験終了後に模範解答を配布

Ⅰ．学習指導書

①教科書（学生が所持しなければならないもの）	新臨床内科学　医学書院　最新版
②参考書Ａ（学生の所持をすすめるもの）	病気がみえるvol2循環器 医療情報科学研究所　最新版 新臨床内科学　　医学書院　最新版 ルービン病理学　西村書店　最新版 図解心電図テキスト　原書第６版（Dale Dubin著）文光堂
③参考書Ｂ（図書館等での利用をすすめるもの）	Kasper DL,他編Harrison’s Principles of Internal Medicine　McGrow Hill Hurst編　The Heart　McGrow Hill Braunwald編　Heart Disease　Saunders

Ｊ．講義予定表

「添付資料」参照

2025年度　3年　講義予定表

【循環器病学】

月日	曜	時限	講義テーマ	講義内容	担当	教科書	授業形態
8/26	火	3	循環器内科学総論・医師のキャリアパス	循環器疾患の基本知識を整理する。また、医師となった後のキャリアパスを紹介しながら、循環器内科学の魅力に迫る。	副島京子	配布資料	講義(AL)
8/28	木	4	循環器症候学	循環器内科学の症状・身体所見：「胸痛」と「ショック」「呼吸困難」「浮腫」「失神」「動悸」につき講義する。身体所見から診断に至るアプローチを習得する。	小山幸平	配布資料	講義
9/2	火	4	心臓血管外科学総論	「本邦の心臓血管手術の内容および手術数、疾患の概要、診断法、症状、手術適応、手術法、術後管理など」についての講義である。	窪田博	なし	講義
9/10	水	4	心電図（２）	刺激伝導系の解剖、標準１２誘導心電図の原理、基本的な所見（電気軸、心室内伝導異常、心房拡大、心室肥大、ST-T異常など）の出現発生機序について解説する。さらに心電図による循環器疾患の診断法も説明する。	上田明子	配布資料	講義
9/10	水	5	循環器画像診断の解剖学的基礎	循環器画像診断ならびに循環器疾患の病態を理解する上で必要とされる解剖学的構造について，医療画像と肉眼所見と対比しながら解説する。	井川修	配布資料	講義
9/16	火	3	頻脈性不整脈	不整脈の中で頻脈性（上室性、心室性）不整脈について解説する。	松尾征一郎	配布資料	講義
9/16	火	5	心電図（１）	刺激伝導系の解剖、標準１２誘導心電図の原理、基本的な所見（電気軸、心室内伝導異常、心房拡大、心室肥大、ST-T異常など）の出現発生機序について解説する。さらに心電図による循環器疾患の診断法も説明する。	冨樫郁子	配布資料	講義
9/19	金	2	先天性心疾患（１）	小児の先天性心疾患のなかで、基本的な非チアノーゼ性疾患の病態、身体所見、検査、診断および治療について解説する。	保崎明	配布資料	講義
9/30	火	2	冠動脈疾患　内科	虚血性心疾患の発生病態を理解し、臨床徴候と諸検査から鑑別診断を行いつつ確定診断に到る過程を理解し、治療の最新動向を知る。虚血性心疾患の病態解明と診断治療において医師としての問題解決能力を養う。冠動脈造影の適応と診断において、その基本と最新の動向について理解する。心臓カテーテル検査の適応と診断について、その基本と最新の動向を理解する。	斉藤竜平	配布資料	講義
10/1	水	5	徐脈性不整脈	不整脈の中で徐脈性不整脈について解説する。	佐藤俊明	配布資料	講義
10/7	火	2	冠動脈疾患　救急対応・心臓突然死	心臓性急死（心臓突然死）をきたす疾患が理解できるよう、また、心臓突然死を予防するための方法（AED、蘇生術など）について解説する。	石黒晴久	なし	講義
10/7	火	5	弁膜症	大動脈弁狭窄、大動脈弁閉鎖不全の原因、病態、合併症、診断法、重症度判定、治療法の選択につき、現在のガイドラインにのっとって説明する。僧帽弁狭窄、僧帽弁閉鎖不全の原因、病態、合併症、診断法、重症度判定、治療法の選択につき、現在のガイドラインにのっとって説明する。	南島俊徳	配布資料	講義
10/14	火	3	心電図演習（１）	心電図の基本的知識を活用して実践的な心電図の読み方を解説する。	友野泰秀	資料配布	演習
10/15	水	5	冠動脈疾患　外科	狭心症、心筋梗塞を含めた冠動脈疾患における冠動脈バイパス手術を含めた外科的治療について、その選択、方法などを講義する。	久木基至	配布資料	講義
10/20	月	1	高血圧・動脈硬化	血圧制御の機序と高血圧の定義、その合併症(動脈硬化)、そして治療法についての講義である。	西尾智	配布資料	講義
10/21	火	1	心筋症	特発性・二次性心筋症の病態、身体所見、診断、治療、予後についての講義である。	合田あゆみ	配布資料	講義
10/21	火	4	心電図演習（２）	心電図の基本的知識を活用して実践的な心電図の読み方を解説する。	友野泰秀	資料配布	演習
10/27	月	2	先天性心疾患（２）	小児の先天性心疾患のなかで、基本的なチアノーゼ性疾患の病態、身体所見、検査、診断および治療について解説する。	保崎明	配布資料	講義
10/31	金	2	弁膜症　外科	大動脈弁、僧帽弁、三尖弁などの弁膜症の多様な病態に対する手術適応、外科治療法の特徴・留意点に関して学ぶ。最新の低侵襲心臓手術や経カテーテル手術についても手術動画や実際の症例を交えて紹介する。	伊藤丈二	配布資料	講義
11/5	水	5	心不全	心不全(急性心不全と慢性心不全）の診断に関して学ぶ。心不全の内科的治療を、急性期・慢性期に分けて解説する。	河野隆志	配布資料	講義
11/10	月	2	感染性心内膜炎・心外膜炎・心筋炎	急性心膜炎・慢性収縮性心膜炎および急性心筋炎の原因、症状、身体所見、病態、診断法、治療法、予後について講義する。身体所見・検査所見より診断ができ、治療法の選択ができることを目標とする。	江頭徹	配布資料	講義
11/10	月	3	感染性心内膜炎の外科的治療 心臓腫瘍	感染性心内膜炎の手術適応基準とhigh risk症例に対する手術適応基準、各弁位における手術術式の選択と方法。人工弁の種類と選択。手術成績。心臓腫瘍の発生率と種類。粘液腫に対する手術方法と成績。	遠藤英仁	配布資料	講義
11/10	月	4	心電図演習（３）	心電図の基本的知識を活用して実践的な心電図の読み方を解説する。	星田京子	資料配布	演習
11/17	月	4	循環器の再生医学	「自分の細胞を用いて自分の臓器を作る」という点に於いて、今回循環器疾患を中心に再生医療の基礎研究から臨床応用までの超最先端治療について講義する。	岩畔英樹	配布資料	講義
11/17	月	5	心不全　外科	心臓血管外科領域では欠かすことのできない手技である体外循環法（特に人工心肺）の原理・実際の使用方法ついて概説する。また、心筋症の外科治療法、特に重症心不全に対する外科治療法としての補助人工心臓、心臓移植に関して概説する。	峯岸祥人	配布資料	講義
11/21	金	5	不整脈　外科	WPW症候群、非虚血性心室頻拍（不整脈源性右室心筋症　ファロー四徴症根治術後など）の治療に加え、近年は心房粗細動の外科治療が飛躍的進歩を遂げた。その歴史と現在を学ぶ。	今井克彦	配布資料	講義
11/25	火	5	大動脈解離・診断と内科的治療	大動脈解離（解離性大動脈瘤）の診断と内科的治療について詳説する。発生病態を理解し、急性期の鑑別診断と急性期から慢性期にいたる治療を自らのものとして獲得する。	竹内真介	配布資料	講義
11/26	水	1	心エコー	心血管疾患の非侵襲的検査法として心臓超音波検査法は有用な検査である。心臓の解剖的異常の評価法から、各心血管疾患の特徴的所見について講義する。	村田光繁	配布資料	講義
11/26	水	4	学生参加型講義　心電図	実際の症例をベースに学生参加型の講義を行う。学生自らが考えながら進めていく授業を予定している。	三輪陽介	配布資料	演習(AL)
12/1	月	5	大動脈解離、真性大動脈瘤の外科的治療	真性大動脈瘤の疫学、分類。手術適応基準および部位別手術方法、部位別人工心肺確立方法および補助循環方法、手術成績と近年の新しい手術方法についての講義である。	峯岸祥人	配布資料	講義

2025年度　3年　講義予定表

【循環器病学】

月日	曜	時限	講義テーマ	講義内容	担当	教科書	授業形態
12/2	火	4	静脈瘤・静脈血栓症（血栓性静脈炎）、肺動脈塞栓症の外科的治療	静脈疾患は日常診療でも遭遇する頻度の高い疾患である。講義では、弁不全による逆流に起因する下肢静脈瘤と血栓閉塞による深部静脈血栓症の２つの代表的疾患について、その病態、症状、診断、治療について概説する。	細井温	配布資料	講義
12/3	水	5	腹部大動脈瘤・末梢動脈瘤の外科的治療・Buerger病／閉塞性動脈硬化	腹部大動脈瘤については、待機的手術の手術適応、生命予後、破裂のリスクと破裂した場合の死亡率。開腹手術の具体的方法と合併症。ステントグラフトの適応と具体的手技、合併症。慢性動脈閉塞肢の臨床症状と治療戦略。保存的治療と侵襲的治療の使い分け。外科手術と血管内治療の変遷と今後の動向。急性動脈閉塞肢の病態。MNMSと切断の適応。	伊佐治寿彦	配布資料	講義
12/8	月	4	肺塞栓症・肺高血圧症	肺塞栓症は原因、誘因、病態、症状、診断法、治療について解説する。肺高血圧症は分類、病態、特に肺動脈性肺高血圧症の診断法と治療について概説する。	伊波巧	配布資料	講義
12/9	火	2	循環器診察	循環器内科診療に必要な身体診察法、身体所見の取り方の講義である。血圧測定、脈拍測定、心臓の視診・触診、頚部血管の診察を含めた講義である。心音の聴診法、診断法の講義である。疾患ごとの異常心音・異常心雑音の特徴につき講義し、心血管疾患の心音による診断法を習得してもらう。	竹内かおり	配布資料	実習(AL)
12/10	水	5	循環器疾患の核医学	心筋血流イメージングの代表であるTl心筋シンチグラフィと、心機能評価法のTc心プールシンチグラフィについて触れた講義である。	谷合誠一	配布資料	講義
12/12	金	5	循環器診断 循環器疾患のCT/MRI	循環器疾患のCT・MRI診断は急速に進歩しており、現在の日常臨床において不可欠なものとなっている。CT・MRIにおける循環器領域の正常解剖、代表的疾患の特徴的な所見や診断の方法について解説する。	町田治彦	配布資料	講義

年度	2025年度	学年	3年
学科目	血液内科学	科目ナンバリング	FME-3F10
単位	1単位	コマ数	20コマ
科目責任者	教　授　荒井俊也（血液内科学）		
担当教員	教　授　荒井俊也（血液内科学）、大西宏明（臨床検査医学） 准教授　佐藤範英（血液内科学） 上記担当教員については、主として医学部付属病院において、医師として勤務（実務経験）する教員が講義・実習を担当しており、実際の医療現場における最新の知見に基づく教育内容を受けることができる。		

A．教育の基本方針	血液学全般について、病態生理の基礎から、臨床診断学、治療学について幅広い知識を習得し、更にそれを応用して問題解決ができる能力を身につける。
B．到達目標	血液細胞の形態と機能についてまず学び、生命の恒常性維持に血液細胞がいかにかかわっているかを理解する。血液細胞は顕微鏡で容易に観察できるので、その形態に慣れ親しむことも重要である。次にその機能の破綻により、どのような疾患を生じるのかを学ぶ。血液疾患は基本的に全身疾患であるので、内科全体を視野に入れて学習することが重要である。また、疾患の正しい理解のためには、生化学、分子生物学、病理学、臨床検査医学的知識も必要となるので、適宜、これらの知識を補いながら理解を深める。 【杏林大学医学部学生の到達目標との関連】 (1)-②,③,（2)-①,②,③,④,⑤,⑥,⑧,⑨,（4)-①,②
C．修得すべき能力	1）造血の基礎について説明できる。 2）血液内科で行われる主な検査法の原理と方法を説明できる。 3）血液・リンパ系の異常を認める患者の正しい鑑別診断の方法を説明できる。 4）赤血球・白血球の良性疾患の病態生理と診断・治療について説明できる。 5）止血・血栓の病態生理とその異常によって起こる疾患の診断・治療を説明できる。 6）造血器腫瘍の診断法について説明できる。 7）造血器腫瘍で行われる化学療法の原理と方法について説明できる。 8）骨髄系腫瘍の診断と治療について説明できる。 9）リンパ系腫瘍の診断と治療について説明できる。 10）造血幹細胞移植の原理と方法について説明できる。
D．学習内容	1）血液学の基礎　2コマ　担当：荒井俊也 2）赤血球疾患　3コマ　担当：荒井俊也 3）止血・血栓の疾患　3コマ　担当：佐藤範英 4）血液疾患の診断における臨床検査　1コマ　担当：大西宏明 5）造血器腫瘍　9コマ　担当：荒井俊也 6）その他の血液疾患 1コマ　担当：荒井俊也 7）症例提示と学生参加型ディスカッション　1コマ　担当：荒井俊也
E．実習・課外授業	1．実習　　なし 2．課外授業　なし
F．準備学習の内容	事前にシラバスの「講義テーマ」や「講義内容」を読み、教科書の関連する項目を通読しておくこと。所要時間の目安：各コマ75分程度。
G．復習学習の内容	講義で配布されたプリントおよび教科書の関連ページを熟読して復習すること。所要時間の目安：各コマ75分程度。プリントはＭ５のBSLでも使用するので、試験終了後も保存しておくこと。
H．成績評価の方法・基準	1．試験の方針 講義内容を中心とするが、それを理解することによって容易に判断できる関連した事項ならびに、直接講義に含まれない事項についても教科書的なものは含む。 2．試験の期日と実施方法 筆答（選択問題と記述問題が半々） 3．評価法 100点満点 4．判定基準 60点以上を合格とする。 5．フィードバック方法 試験終了後に模範解答を配布

I．学習指導書

①教科書（学生が所持しなければならないもの）	新臨床内科学 内科学、小児科学、病理学、薬理学の標準的な教科書。最新版。あるいは系統講義で指定のもの。
②参考書Ａ（学生の所持をすすめるもの）	(R) 神田善伸著：血液病レジデントマニュアル　医学書院 (A) 鈴木 隆浩・竹中 克斗・池添 隆之編：専門医のための血液病学　医学書院 (A) 木崎昌弘・田丸淳一編：WHO分類第５版による白血病・リンパ系腫瘍の病態学　中外医学社 (A) 朝倉英策編：臨床に直結する血栓止血学 改訂３版　中外医学社 ※(R)：Remedial …　教科書の理解を助けるような補習的なもの (A)：Advanced　…　教科書より進んだ学習のためのもの

③参考書Ｂ（図書館等での利用をすすめるもの）	(R) 日本血液学会編：造血器腫瘍診療ガイドライン　金原出版 (R) 遠山薫・張替秀郎編：血液細胞アトラス　文光堂 (R) 中村栄男他編：リンパ腫アトラス　文光堂 (A) 日本臨牀, 78巻増刊号3：造血器腫瘍学（第2版）―基礎と臨床の最新研究動向―　日本臨牀社 (A) 日本臨牀, 81巻増刊号3：新リンパ腫学 ー基礎・臨床の最新動向ー　日本臨牀社 (A) 金倉譲監修：EBM血液疾患の治療　中外医学社 (A) K.Kaushansky, M.A.Lichtman, J.T.Prchal他編：Williams Hematology.　MCGRAW-HILL (A) R.T.Means.Jr, G.M.Rodgers, B.Glader他編：Wintrobe's Clinical Hematology.　WOLTERS KLUWER (A) WHO Classification of Tumours Editorial Board編：Haematolymphoid Tumours: WHO Classification of Tumours, 5th ed.　WORLD HEALTH ORGANIZATION いずれも最新版。 ※(R)：Remedial …　教科書の理解を助けるような補習的なもの (A)：Advanced　…　教科書より進んだ学習のためのもの

Ｊ．講義予定表

「添付資料」参照

2025年度　3年　講義予定表

【血液内科学】

月日	曜	時限	講義テーマ	講義内容	担当	教科書	授業形態
9/3	水	3	血液の基礎（１）	末梢血に存在する血液細胞・造血と発生・造血幹細胞・造血因子・骨髄における血液細胞の分化	荒井俊也	９６４－９６７	講義
9/5	金	4	血液の基礎（２）	白血球（好中球・好酸球・好塩基球・単球・リンパ球）の機能・赤血球の機能・ヘモグロビン	荒井俊也	９６４－９６７	講義
9/9	火	2	止血・血栓の疾患（１）	正常の止血機構・血小板と止血・凝固因子と止血・線溶・血小板機能検査・凝固関連検査・von Willebrand因子	佐藤範英	１０１４－１０５４	講義
9/12	金	5	貧血性疾患（１）	血算の読み方・貧血の鑑別診断・骨髄検査・鉄欠乏性貧血・鉄芽球性貧血・巨赤芽球性貧血・二次性貧血	荒井俊也	９６８－１００４	講義
9/16	火	1	血液疾患における臨床検査	血液疾患の診断および治療方針決定に重要な各種検査のうち、血清学的検査、白血球表面抗原検査について詳説する。	大西宏明	１０５５－１０６８	講義
9/17	水	5	貧血性疾患（２）	再生不良性貧血・赤芽球癆・先天性骨髄不全症・遺伝性溶血性貧血・異常ヘモグロビン症・サラセミア	荒井俊也	９６８－１００４	講義
9/24	水	4	貧血性疾患（３）	溶血性貧血総論・溶血性貧血の分類・Coombs試験・自己免疫性溶血性貧血・寒冷凝集素症・発作性寒冷血色素尿症・その他の溶血の病態	荒井俊也	９６８－１００４	講義
9/26	金	4	造血器腫瘍総論	造血器腫瘍のWHO分類・造血器腫瘍の診断に必要な検査・血液内科で使用する抗腫瘍薬・血液疾患における感染症・発熱性好中球減少症	荒井俊也	１０６２－１０７０	講義
9/26	金	5	急性白血病・骨髄異形成症候群（１）	急性骨髄性白血病の診断と治療・分化誘導療法・分子標的治療・造血幹細胞移植	荒井俊也	１０７１－１０９４	講義
10/7	火	1	止血・血栓の疾患（２）	血栓症・抗血小板療法・抗凝固療法・von Willebrand病・後天性血友病・ヘパリン起因性血小板減少症	佐藤範英	１０１４－１０５４	講義
10/14	火	1	止血・血栓の疾患（３）	特発性血小板減少性紫斑病・血栓性血小板減少性紫斑病・ADAMTS13・播種性血管内凝固症候群・偽性血小板減少症	佐藤範英	１０１４－１０５４	講義
10/17	金	4	急性白血病・骨髄異形成症候群（２）	骨髄異形成症候群の診断と予後因子・骨髄異形成症候群の治療	荒井俊也	１０７１－１０９４	講義
11/5	水	4	急性白血病・骨髄異形成症候群（３）	急性リンパ性白血病の診断と治療・分子標的治療・造血幹細胞移植	荒井俊也	１０７１－１０９４	講義
11/7	金	4	慢性骨髄性白血病と骨髄増殖性腫瘍	慢性骨髄性白血病の検査所見と臨床病態・Philadelphia染色体・BCR:ABL遺伝子の構造と機能・チロシンキナーゼ阻害薬・その他の骨髄増殖性腫瘍の臨床病態と治療	荒井俊也	１０７１－１０９４	講義
11/14	金	4	悪性リンパ腫総論・Hodgkinリンパ腫	悪性リンパ腫の診断・FDG-PET・病期分類・治療の総論・Hodgkinリンパ腫の病理・Hodgkinリンパ腫の臨床的特徴と治療	荒井俊也	１０９４－１１１６	講義
11/14	金	5	非Hodgkinリンパ腫（１）	非Hodgkinリンパ腫の分類・各リンパ腫細分類の臨床病理学的特徴・臨床像に基づいた分類・びまん性大細胞型リンパ腫	荒井俊也	１０９４－１１１６	講義
11/19	水	5	非Hodgkinリンパ腫（２）	濾胞性リンパ腫・マントル細胞リンパ腫・慢性リンパ性白血病・MALTリンパ腫・Burkittリンパ腫・成人T細胞白血病/リンパ腫・その他の末梢性T細胞リンパ腫	荒井俊也	１０９４－１１１６	講義
11/21	金	3	多発性骨髄腫と類縁疾患	M蛋白・免疫電気泳動・多発性骨髄腫の分類・多発性骨髄腫の病態・多発性骨髄腫の治療・原発性マクログロブリン血症・アミロイドーシス	荒井俊也	１０９４－１１１６	講義
11/26	水	3	その他の血液疾患	血球貪食性リンパ組織球症・伝染性単核球症・Castleman病・TAFRO症候群・IgG4関連疾患	荒井俊也	１００７－１０１２，１７９８－１８０２	講義
12/12	金	4	ケーススタディ	症例提示とそれに基づいた学生参加型グループディスカッション	荒井俊也	９６４－１１１６	講義(AL)

年度	2025年度	学年	3年
学科目	内分泌・代謝内科学	科目ナンバリング	FME-3F11
単位	2単位	コマ数	25コマ
科目責任者	教室主任　安田和基　教授		
担当教員	教　授　　安田和基（糖尿病・内分泌・代謝内科学） 講　師　　田中利明（糖尿病・内分泌・代謝内科学） 非常勤講師　勝田秀紀（糖尿病・内分泌・代謝内科学）、近藤琢磨（糖尿病・内分泌・代謝内科学）、炭谷由計（糖尿病・内分泌・代謝内科学）、近藤健（糖尿病・内分泌・代謝内科学） その他の担当教員は講義予定表に記載 上記担当教員については、主として医学部付属病院において、医師として勤務（実務経験）する教員が講義・実習を担当しており、実際の医療現場における最新の知見に基づく教育内容を受けることができる。		

A．教育の基本方針	内分泌・代謝病学について、基礎医学を含む基本的知識とともに、臨床教育への準備のために、疾患に関する病態生理、診断、治療を統合的に理解することを目標とする。
B．到達目標	１）一般目標 臨床実習において、診療チームの一員としての役割を果たすことができるために、内分泌・代謝疾患を正しく理解するとともに、それらの診断や治療を的確に行うことができる臨床医となるために必須な基礎的、臨床的、予防医学的知識とその活用法を習得する。 ２）行動目標 ①内分泌・代謝系器官の形態と機能を説明できる。 ②主要なホルモンの生理・薬理作用とその分泌調節機構を、正しく理解し説明できる。 ③主要なホルモンの分泌過剰、あるいは分泌低下状態における臨床症状や一般検査所見について、正確に述べることができる。 ④主要な内分泌疾患や糖尿病・代謝疾患、およびその合併症の診断に必要な検査法と、その結果の評価や鑑別診断について、正確に述べることができる。 ⑤主要な内分泌疾患や糖尿病の治療法について、正しく理解し説明できる。 ⑥医師としての社会的責任、医学知識と技能を有するとともに、日常的に医療者として実際の患者に接して、適切な医療面接と身体診察を行なうための問題解決能力やコミュニケーション能力を発揮できる。 【杏林大学医学部学生の到達目標との関連】 (1)-②,③,（2)-①,②,③,④,⑤,⑥,⑧,⑨,（4)-①,②
C．修得すべき能力	１．内分泌・代謝疾患の病態生理と自然歴を説明できる。 ２．主要な内分泌検査（負荷試験など）の意義と適応を理解する。 ３．糖尿病の急性・慢性合併症の病態を理解する。 ４．糖尿病の食事療法や運動療法の基本を理解する。 ５．内分泌・代謝疾患の薬物療法の原則と、個々の薬物の作用を理解する。 ６．医学知識に基づいた科学的思考により、医師の社会的責任を理解するとともに、問題解決を図るリサーチマインドを有することができる。 ７．医師としてのコミュニケーション能力を身につけるとともに、医学・医療と地域・社会との関わりについて実際に体験することができる。
D．学習内容	以下のテーマにつき、合計25回の系統的な講義・実習を行う。 講義・実習テーマ　　回数 内分泌総論　　1 視床下部下垂体疾患　　5 甲状腺疾患　　4 副腎疾患　　5 副甲状腺疾患　　3 糖尿病・代謝　　6 内分泌・代謝と免疫　　1 なお糖尿病・代謝の一部で、AL（active learning）として、具体的な症例を提示し、問診の仕方や診断や治療について「グループディスカッション」を行い、糖尿病・代謝疾患への臨床的なアプローチを学ぶ。
E．実習・課外授業	１．実習　　なし ２．課外授業　なし
F．準備学習の内容	シラバスのなかの「講義テーマ」や「講義内容」を事前に読み、教科書や参考書、さらには必要に応じて関連文献などを予め検索し、関連事項についての情報を十分に得る。指定教科書については、事前に講義の該当部分を予習したうえで講義に臨むことが望ましい。なお講義で話しきれない項目については、自主学習をきちんと行うべきである。 所要時間の目安：各コマ75分程度
G．復習学習の内容	ユニパに掲載し講義で使用したスライド資料や教科書の関連ページを熟読して復習することが求められる。 所要時間の目安：各コマ75分程度 なお、必要に応じて講師への質問をすることは、理解を深める上で重要であり歓迎・奨励する。
H．成績評価の方法・基準	１．評価の方針 内分泌・代謝病学についての基本的知識とともに、疾患に関する病態生理、診断、治療が正しく理解されていることを確認する。

	２．試験の期日と実施方法 ユニットの終了後に記述式またはマークシート方式にて実施する。 ３．評価法 基本的に試験成績により評価する。その他、学習態度と出席日数を一部参考にして総合的に評価する場合もありうる。 ４．判定基準 総合評点60％以上を合格とする。 ５．フィードバック方法 試験終了後に模範解答を配布

Ｉ．学習指導書

①教科書（学生が所持しなければならないもの）	・新臨床内科学　最新版　医学書院（指定教科書）
②参考書Ａ（学生の所持をすすめるもの）	(R)・内科学　最新版　朝倉書店 (R)・内科診断学　最新版　医学書院 (R)・門脇　孝、永井良三総編集　カラー版内科学　西村書 (R)・黒川　清、福井次矢監修　ハリソン内科学第５版（19th Edition訳）メディカル・サイエンス・インターナショナル ※(R)：Remedial …　教科書の理解を助けるような補習的なもの (A)：Advanced　…　教科書より進んだ学習のためのもの
③参考書Ｂ（図書館等での利用をすすめるもの）	(A)・日本内分泌学会・日本糖尿病学会 編集　内分泌代謝・糖尿病内科専門医研修ガイドブック　診断と治療社 (A)・日本糖尿病学会 編集　糖尿病治療ガイド2024 文光堂 (R)・Kasper D, Fauci A, et al (editors). Harrison’s Principles of Internal Medicine 最新版　McGraw-Hill (R)・DeFronzo RA, Ferrannini E, et al (editors). International Textbook of Diabetes Mellitus 第4版　Wiley-Blackwell 2015 (A)・Melmed S, Koenig R, et al (editors). Williams Textbook of Endocrinology 第14版　Elsevier 2019 ※(R)：Remedial …　教科書の理解を助けるような補習的なもの (A)：Advanced　…　教科書より進んだ学習のためのもの

Ｊ．講義予定表

「添付資料」参照

2025年度　3年　講義予定表

【内分泌・代謝内科学】

月日	曜	時限	講義テーマ	講義内容	担当	教科書	授業形態
9/1	月	1	内分泌総論	ホルモンの種類や受容体、分泌調節機構など内分泌の基本知識を整理する。内分泌異常に伴う症状や一般検査異常を学ぶ。これから学ぶ内分泌疾患の紹介と診断に有用な検査や治療などを紹介する。	田中利明	834～840 配付資料あり	講義
9/1	月	3	視床下部・下垂体疾患（１）	視床下部・下垂体の構造と機能。視床下部のホルモンの種類と機能を解説し、神経性やせ症や周期性嘔吐症を紹介する。下垂体前葉はホルモン分泌細胞の分化と種類について解説する。	田中利明	846～849 配付資料あり	講義
9/4	木	5	副甲状腺疾患（１）	CaとPの代謝と、その調節を行うホルモンであるPTH、ビタミンD、カルシトニンおよびPTHrpの作用・分泌調節について概説する。また高Ca血症および低Ca血症の症状と、原発性副甲状腺機能亢進症について概説する。	近藤健	897～911 配付資料あり	講義
9/5	金	2	視床下部・下垂体疾患（２）	下垂体腺腫の機能性・非機能性腺腫（ゴナドトロピン産生下垂体腺腫とナルセル腺腫）の病態とラトケ嚢胞などについて解説する。	田中利明	872～876 配付資料あり	講義
9/8	月	1	甲状腺疾患（１）	甲状腺疾患の病態や臨床について学んで行くための基礎的知識として、甲状腺の構造やホルモンの合成、作用、調節系などについて解説を行う。	炭谷由計	877～896 配付資料あり	講義
9/8	月	2	甲状腺疾患（２）	甲状腺機能亢進症の病態を成因別に整理し、疾患についてはBasedow病や亜急性甲状腺炎を中心に、症状、検査成績、治療法、さらには鑑別の要点について解説を行う。	炭谷由計	877～880 配付資料あり	講義
9/12	金	2	視床下部・下垂体疾患（３）	下垂体前葉のホルモン異常について。先端巨大症、クッシング病のほか、高プロラクチン血症の鑑別と治療、TSH産生下垂体腺腫のほかTSH不適合分泌についても解説する。	田中利明	849～860 配付資料あり	講義
9/19	金	3	視床下部・下垂体疾患（４）	下垂体機能低下症の分類や原因を整理する。Sheehan症候群、GH分泌不全症、ACTH単独欠損症、視床下部・下垂体炎のほか、免疫チェックポイント阻害薬による機能低下についても解説する。	田中利明	860～867 配付資料あり	講義
9/22	月	5	副腎疾患（１）	副腎の解剖学的特徴と副腎皮質・髄質の構造と機能について講義する。副腎皮質から分泌されるステロイドホルモンの合成、分泌機構、代謝経路、その作用についてそれぞれ最近の話題を交えて解説する。	勝田秀紀	912～934 配付資料あり	講義
9/29	月	2	糖尿病・代謝（１）	糖尿病の病態や診断基準、病型分類について解説する。特に糖尿病の病態に重要な役割を果たすインスリン分泌不全とインスリン抵抗性、１型糖尿病の亜型分類、糖尿病の診断に関わる検査などについて解説する。	安田和基	714～719720～739 配付資料あり	講義
9/30	火	5	副腎疾患（２）	Cushing症候群を原因別に分類し、病態、臨床症状（Cushing徴候など）、検査、負荷試験、画像診断を整理し、治療法を解説する。最近の話題としてPreclinical Cushing症候群、AIMAH、PPNADについても説明を加える。	勝田秀紀	912～934 配付資料あり	講義
10/2	木	3	副甲状腺疾患（２）	引き続き高Caおよび低Ca血症の原因疾患について概説する。類縁疾患としてMENについても解説を加える。	近藤健	897～911,948～950,961～967,1146～1149 配付資料あり	講義
10/7	火	4	副腎疾患（３）	鉱質コルチコイド分泌異常症　RAA系の理解をもとに、原発性アルドステロン症の病態、診断、検査、画像、治療、予後について最近の話題と共に整理し、続発性アルドステロン症・偽性アルドステロン症についても解説する。	勝田秀紀	912～934 配付資料あり	講義
10/17	金	5	視床下部・下垂体疾患（５）	下垂体後葉の構造と機能。バソプレシンの分泌と調節機構の理解。中枢性・腎性尿崩症について解説する。ADH不適合分泌を中心に塩類喪失症候群など低ナトリウム血症の鑑別についても知識を整理する。	田中利明	868～872 配付資料あり	講義
10/20	月	2	糖尿病・代謝（２）	肥満症及びメタボリック・シンドロームの概念を解説する。また妊娠と糖尿病、特殊な糖尿病、についても解説する。糖尿病の急性合併症（昏睡・意識障害）について、ケトアシドーシス性昏睡と高血糖性高浸透圧昏睡、低血糖症を中心に特徴や病態生理、治療法に関する解説を加える。	安田和基	714～719,734～737,786～792 配付資料あり	講義
10/21	火	5	副腎疾患（４）	カテコールアミンの合成、代謝経路を理解し、褐色細胞腫・傍神経節細胞腫の病態、臨床症状ならびに特徴、診断、検査成績、画像診断、その治療と予後について解説する。また悪性度の評価についての知見を述べる。	勝田秀紀	912～934 配付資料あり	講義
10/24	金	1	甲状腺疾患（３）	橋本病や下垂体前葉機能低下など甲状腺機能低下症の原因となる疾患について、その病態を整理するとともに、特徴的な症状や検査成績、および治療について解説を行う。	炭谷由計	880～890,960～961 配付資料あり	講義
10/24	金	2	甲状腺疾患（４）	甲状腺腫瘍の分類を説明し、各腫瘍の予後、特徴、鑑別診断、治療法について解説する。最後に、甲状腺疾患全般の復習のための演習を行う。	炭谷由計	891～896 配付資料あり	講義
10/28	火	3	副腎疾患（５）	原発性（アジソン病、先天性副腎皮質過形成）・二次性副腎不全の病態や特徴的な臨床症状を示し、その原因、検査所見、診断・治療法と予後に関する基本事項を概説する。さらに多腺性自己免疫症候群についても述べる。	勝田秀紀	912～934 配付資料あり	講義
10/30	木	3	副甲状腺疾患（３）	代謝性骨疾患として骨粗鬆症、骨軟化症・くる病について概説をおこなう。	近藤健	897～911 配付資料あり	講義
11/7	金	5	糖尿病・代謝（３）	糖尿病の慢性合併症について、細小血管合併症、大血管障害を中心に、成因、病態、病期分類、診断、治療法に関する解説を加える。とくに領域横断的な病態についての臨床的な理解を深める。	安田和基	740～742,754～758 配付資料あり	講義
11/13	木	4	糖尿病・代謝（４）	糖尿病の治療の基本となる食事・運動療法について、その意義と実際の指導を解説する。経口血糖降下薬の種類やその作用機序、そして各々の薬剤の適応と臨床上の留意点について次の第5回と合わせて知識を整理する。	安田和基	743～753 配付資料あり	講義
11/17	月	2	糖尿病・代謝（５）	糖尿病の薬物療法の各論について、注射製剤を含めて、その特徴を解説する。	安田和基	720～739 配付資料あり	講義
11/18	火	4	内分泌・代謝と免疫	免疫異常による内分泌疾患、主として内分泌臓器に対する自己免疫的機序により生じるもの（自己免疫疾患としての内分泌疾患）を解説し、免疫機構と内分泌機能の関わりについても触れる。	近藤琢磨	948～950 配付資料あり	講義
12/4	木	3	糖尿病・代謝（６）	糖尿病・代謝疾患全体を俯瞰して、これまでのまとめと、触れられなかったいくつかのトピックスを紹介する。またALとして、具体的な症例を提示し、問診の仕方や診断や治療について考えてみる。	安田和基	720～739 配付資料あり	講義(AL)

年度	2025年度	学年	3年
学科目	消化器内科学	科目ナンバリング	FME-3F12
単位	2単位	コマ数	24コマ
科目責任者	久松理一　教授		
担当教員	教　授　　久松理一、松浦稔、徳永健吾(予防医学)、大森鉄平 特任教授　　森秀明 准教授　　土岐真朗、三好潤 講　師　　川村直弘、齋藤大祐、大野亜希子 助　教　　關里和、落合一成 非常勤講師　山口康晴 上記担当教員については、主として医学部付属病院において、医師として勤務（実務経験）する教員が講義・実習を担当しており、実際の医療現場における最新の知見に基づく教育内容を受けることができる。		

A．教育の基本方針	消化器病疾患の病態を理解し、診断と治療に必要な基礎的知識を習得する。内科と外科の合同授業で網羅的に学習する。学習を通して積極的に知識を吸収する姿勢を育成し，論理的思考を養い自力で解決する能力を身につける。
B．到達目標	１．食道から肛門までの各消化管，肝臓・胆嚢・膵臓および腹壁の解剖、生理・機能、また各種疾患の病態、診断と鑑別、治療さらに予防について，基本的知識およびその応用を習得する。 ２．消化器系疾患を正しく理解するとともに、それらの診断や治療を的確に行うことができる臨床医となるため、必須な基礎知識とその活用法を習得するべく、以下の行動目標を設定する。 ①消化器系の正常構造と機能を、正しく理解し説明できる。 ②消化器系疾患の病態生理や原因、症候について、正確に述べることができる。 ③消化器系疾患の診断に必要な検査法と、その結果の評価や鑑別診断について、正確に述べることができる。 ④消化器系疾患の治療法について、正しく理解し説明できる。 【杏林大学医学部学生の到達目標との関連】 (1)-②,③，(2)-①,②,③,④,⑤,⑥,⑧,⑨，(4)-①,②
C．修得すべき能力	１．消化器系の解剖、機能を正しく理解し説明できる。 ２．消化器系疾患の原因、病態生理、症候について理解し説明できる。 ３．消化器系疾患の診断に必要な検査法を理解する。 ４．主要な消化器系疾患の治療法について理解する。
D．学習内容	１．主としてPCプレゼンテーションにより講義する。社会的状況を鑑みて対面およびITを用いた遠隔授業を行う。 ２．外科との合同講義を腸，胆道，肝臓疾患において各１コマ行う。 ３．学生参加型臨床講義（アクティブ・ラーニング）を消化管，肝臓，胆・膵疾患において各１コマ行う。事前に配布される資料を予習し講義に臨む。全体を３グループに分け，担当グループは質疑応答をしながら，学生自身が考えながら進める。
E．実習・課外授業	１．実習　なし ２．課外授業　なし
F．準備学習の内容	事前にシラバスの「講義テーマ」や「講義内容」を確認し、教科書や参考書、必要に応じて文献検索等により関連事項についての情報を得たうえで受講をすること。所要時間の目安：各コマ75分程度。
G．復習学習の内容	授業内容をふまえ教科書を改めて精読し，医師国家試験の既出問題を問いてみること。なお、講義で話しきれない項目についても自主学習を行うこと。また自ら検索した関連文献などから，さらに深い知識を吸収する。所要時間の目安：各コマ75分程度。
H．成績評価の方法・基準	１．評価の方針 講義および自習により習得した消化器病学の知識を確認する。 ２．試験の期日と実施方法 記述式またはマークシート方式 ３．評価法 試験成績により評価する。 ４．判定基準 60％以上を合格とする。 ５．フィードバック方法 試験終了後に模範解答を配布

Ⅰ．学習指導書

①教科書（学生が所持しなければならないもの）	矢崎義雄 監修 新臨床内科学 第10版 医学書院
②参考書Ａ（学生の所持をすすめるもの）	（A）矢崎義雄 総編集　内科学 第12版　朝倉書店 （R）石橋賢一 Navigate 消化器疾患 医学書院 ※(R)：Remedial …　教科書の理解を助けるような補習的なもの （A)：Advanced　…　教科書より進んだ学習のためのもの
③参考書Ｂ（図書館等での利用をすすめるもの）	(A) 専門医のための消化器病学 第3版 医学書院 ※(R)：Remedial …　教科書の理解を助けるような補習的なもの （A)：Advanced　…　教科書より進んだ学習のためのもの

Ｊ．講義予定表
「添付資料」参照

2025年度　3年　講義予定表

【消化器内科学】

月日	曜	時限	講義テーマ	講義内容	担当	教科書	授業形態
4/4	金	5	消化管総論（1）＜上部消化管の解剖、機能と症候＞	上部消化管の解剖、運動・消化吸収につき解説し、基本的な症候である腹痛、腹部膨満、悪心、嘔吐、吐血、胸やけにつき　概念、病態生理、鑑別診断につき解説する。	大野亜希子	41 51(新臨床内科学)	講義
4/7	月	5	消化管総論（3） ＜最近のトピックス：腸内細菌について学ぶ＞	腸内細菌叢と宿主はいかに共生しているか？その精巧なメカニズム、不思議について、疾患との関連や糞便移植法など最新の知見を交えながら解説する。	久松理一	該当なし	講義
4/11	金	5	消化管総論（2）＜下部消化管の解剖、機能と症候＞	下部消化管の解剖、運動・消化吸収、症候として下血（血便）、便秘、下痢、また、消化管ホルモンの基礎と臨床につき解説する。	久松理一	44-46, 54-55 (新臨床内科学)	講義
4/22	火	5	消化器総論 ＜消化器病学を学ぶ＞	消化器病学の講義の流れについて、特徴と受講の仕方を踏まえて概説し、消化器疾患の患者のみかたについて、医療面接、身体診察、概念、病態生理、鑑別診断、検査の重要性につき解説する。	松浦稔	41-58, 462-467 (新臨床内科学)	講義
5/12	月	4	胃・十二指腸疾患（1） ＜ヘリコバクター・ピロリ感染症と関連疾患、機能性疾患＞	多くの胃疾患や胃外疾患にも関与しているヘリコバクター・ピロリ感染症、急性胃炎、慢性胃炎、機能性ディスペプシア、胃ポリープ、胃腺腫、胃癌、胃MALTリンパ腫について概説する。	徳永健吾	489-499, 501-517 (新臨床内科学)	講義
5/14	水	5	胃・十二指腸疾患（2） ＜消化性潰瘍＞	胃潰瘍と十二指腸潰瘍につき、その概念、分類、成因、疫学、病態生理、臨床症状、診断、治療予後につき解説する。	松浦稔	499-501 (新臨床内科学)	講義
5/15	木	3	腸疾患（2）＜腸炎＞	感染性腸炎、薬物性腸炎、放射線性腸炎、虚血性腸炎などの疾患概念，症状、診断、治療について解説する。	大森鉄平	544-546 (新臨床内科学)	講義
5/27	火	3	肝・胆・膵総論（2） ＜肝疾患の検査＞	肝疾患の診断に必要な血液・尿検査について総説する。肝不全における病態、主要症状、診察法、検査所見について解説する。	川村直弘	603-608、613-626（新臨床内科学）	講義
5/27	火	5	胃・十二指腸疾患（3） ＜消化管内視鏡診断と治療＞	胃・十二指腸・大腸腫瘍に対する内視鏡診断（色素法、EUS）および内視鏡治療（EMR、ESD）、胃食道静脈瘤に対する内視鏡治療(EIS、EVL)、消化管出血に対する内視鏡的止血法につき適応、方法、合併症などにつき解説する。	大野亜希子	468-469, 484-486, 504-512 (新臨床内科学)	講義
5/28	水	5	腸疾患（3） ＜炎症性腸疾患と腸結核＞ 内科・外科合同講義・90分	炎症性腸疾患（潰瘍性大腸炎、クローン病）の疫学、病態、診断と治療について統合的に学ぶために内科外科合同講義とする。鑑別疾患である腸結核についても解説する	内科 久松理一、外科 須並英二	531-539 (新臨床内科学)	講義
5/29	木	4	胆道疾患 ＜良性胆道疾患と手術＞ 内科・外科合同講義・90分	胆石症、胆嚢炎、胆管炎（原発性硬化性胆管炎、Ig4関連胆管炎を含む）胆嚢腺筋症、胆嚢ポリープにつき内科的立場から解説し、胆石症、胆嚢炎の治療について外科の立場から解説する。良性胆道疾患を包括的に学ぶための内科・外科合同講義である。	内科 落合一成、外科 鈴木裕	670-676, 681-686 (新臨床内科学)	講義
5/30	金	1	肝・胆・膵総論（1） ＜肝胆膵の解剖と機能＞	肝臓の解剖（門脈・肝動脈・肝静脈の関係および肝区域）と機能について解説する。胆道に関しては胆嚢および胆管の解剖と胆汁分泌について、膵臓については解剖と膵液の分泌について解説する。	落合一成	該当なし	講義
6/4	水	5	膵臓疾患 ＜膵 炎症性疾患＞	急性膵炎、慢性膵炎、自己免疫性膵炎の成因・疫学、自覚症状、理学的所見、臨床診断基準、検査所見、　画像診断、治療法、予後について解説する。	土岐真朗	688-700（新臨床内科学）	講義
6/6	金	1	肝・胆・膵総論（3） ＜肝胆膵の画像診断＞	腹部超音波検査・CT検査・MRI検査・腹部血管造影などの画像診断について解説する。	森秀明	該当なし	講義
6/11	水	5	学生参加型臨床講義（胆・膵）	実際の症例をベースに学生参加型の授業を行う。病歴聴取、鑑別診断、身体所見のポイント、どのような検査を行うか、治療法の選択などを学生自身が考えながら進めていく。	土岐真朗	該当なし	講義(AL)
6/13	金	4	肝臓疾患（1） ＜肝炎・自己免疫性肝疾患＞	肝炎ウイルスについて解説し、急性肝炎、慢性肝炎、また、自己免疫性肝疾患である原発性胆汁性胆管炎、自己免疫性肝炎について診断、症状、治療、予後につき解説する。	川村直弘	609-630 (新臨床内科学)	講義
6/19	木	4	腸疾患（1） ＜機能異常、血管病変、小腸疾患＞	吸収不良症候群、蛋白漏出性胃腸症、過敏性腸症候群、消化管憩室症や小腸疾患の成因、臨床症状、診断、特にカプセル内視鏡、DBEの画像診断、治療について解説する。	齋藤大祐	519-529 (新臨床内科学)	講義
6/20	金	5	肝臓疾患（2） ＜急性肝不全・肝移植＞ 内科・外科合同講義・90分	劇症肝炎・急性肝不全の成因、病態、治療、予後につき内科の立場から解説する。また、国内外における肝移植の現状やその適応、手術法などについて外科の立場から解説する。肝不全を包括的に学ぶための内科・外科合同講義である。	内科 川村直弘、外科 阪本良弘	616-619 (新臨床内科学)	講義
6/23	月	2	食道疾患 ＜炎症、機能異常、損傷＞	胃食道逆流症、逆流性食道炎、非びらん性胃食道逆流症、食道アカラシア、Mallory-Weiss症候群、Barrett食道、好酸球性食道炎等についてその病態生理、臨床症状、診断、治療、予後につき解説する。	山口康晴	472-479, 486-489 (新臨床内科学)	講義
6/24	火	4	肝臓疾患（3） ＜肝硬変・門脈圧亢進症＞	肝疾患の終末像である肝硬変の病因、病態生理、臨床像や治療につき解説する。特に合併症としての肝性脳症、浮腫・腹水、門脈圧亢進症(胃食道静脈瘤を含む)の病態、治療について解説する。	川村直弘	621-626、658-659 (新臨床内科学)	講義
6/30	月	1	肝臓疾患（4） ＜代謝性肝疾患、その他＞	薬物性肝疾患、アルコール性肝疾患、代謝異常による肝障害（脂肪性肝疾患、Wilson病、ヘモクロマトーシス）について病因、臨床像、病態や治療につき解説する。	關里和	631-639、659-666 新臨床内科学)	講義
6/30	月	2	肝臓疾患（5） ＜肝腫瘍性病変の画像診断と治療＞	肝嚢胞、肝膿瘍、肝臓良性腫瘍（肝血管腫、FNHなど）、悪性疾患（肝細胞癌、肝内胆管細胞癌、転移性肝癌）の臨床像、画像診断、IVR、RFAなどによる治療につき解説する。	關里和	639-657 (新臨床内科学)	講義
7/1	火	3	学生参加型臨床講義（消化管）	実際の症例をベースに学生参加型の授業を行う。病歴聴取、鑑別診断、身体所見のポイント、どのような検査を行うか、治療法の選択などを学生自身が考えながら進めていく。	三好潤	該当なし	講義(AL)
7/1	火	4	学生参加型臨床講義（肝臓）	実際の症例をベースに学生参加型の授業を行う。病歴聴取、鑑別診断、身体所見のポイント、どのような検査を行うか、治療法の選択などを学生自身が考えながら進めていく。	川村直弘	該当なし	講義(AL)

年度	2025年度	学年	3年
学科目	精神神経科学	科目ナンバリング	FME-3F14
単位	1単位	コマ数	22コマ
科目責任者	渡邊衡一郎　教授		
担当教員	教　授　　渡邊衡一郎 臨床教授　　中野正寛 准教授　　坪井貴嗣 講　師　　櫻井準 学内講師　　今村弥生 非常勤講師　池田暁史、宇佐美政英、鬼頭伸輔、田中伸一郎 その他担当教員は講義予定表に記載 上記担当教員については、主として医学部付属病院において、医師として勤務（実務経験）する教員が講義・実習を担当しており、実際の医療現場における最新の知見に基づく教育内容を受けることができる。		

A．教育の基本方針	本講義は4年生後期から開始される臨床実習（BSL）への準備教育と位置付けられる。基本的な精神医学に加えて、精神神経科以外の診療科においての必須事項について学習する。
B．到達目標	1.　講義を通じて精神疾患の診断、治療についての基本的な知識を獲得する。 2.　精神保健福祉法や精神障害当事者を取り巻く社会的な背景についての知識を持ち、人権に配慮した医療を理解する。 3.　講義を通じて良好な関係性を築くためのコミュニケーションが取れるようになる。 【杏林大学医学部学生の到達目標との関連】 (1)-②,③，(2)-①,②,③,④,⑤,⑥,⑧,⑨，(4)-①,②
C．修得すべき能力	1. 主要な精神疾患の概要について理解し、臨床実習中の診療カンファレンスの議論についていけるようになる。 2. 代表的な向精神薬について、重要な副作用について把握し、適応について論じられるようになる。 3. 基本的な医療面接技能に加えて、精神症状を有する当事者の症状評価や、妄想などの思考・行動に影響が出ている当事者に配慮したコミュニケーションが取れるようになる。 4. 精神症状の背後にある心理社会的要因について論じることができるようになる。
D．学習内容	日程と授業内容については別紙参照。講義によって主要な精神疾患についての概略とともに、診断のために知っておくべき症状、基本的な治療法、そのほか注目される点について解説する。なお、次学年の精神神経科の臨床実習においては、初日から診療チームの一員に加わって学習するので、精神医学について系統的に学ぶことを期待する。 また「心理検査」「精神科リハビリテーション」においては体験型授業を実施する予定である。
E．実習・課外授業	1．実習　なし 2．課外授業　なし
F．準備学習の内容	教科書、参考書で基本的な知識を学習しておく。 所要時間の目安：各コマ75分程度
G．復習学習の内容	授業内容を教科書、参考書での記載に照らし合わせ復習をする。 所要時間の目安：各コマ75分程度
H．成績評価の方法・基準	1. 試験の方針：精神医学の全般的な基礎知識の理解度を確認する。 2. 試験の期日と実施方法：学期末に筆記試験を実施する。 3. 定期試験：五者択一および再生方式 4. 追再試験：五者択一および再生方式 5. 評価法：試験の成績によって評価する。 6. 判定基準：100点満点で60点以上を合格とする。 7. フィードバック方法：試験終了後に模範解答を配布

I．学習指導書

①教科書（学生が所持しなければならないもの）	標準精神医学（医学書院）第9版　尾崎紀夫・三村將・水野雅文・村井俊哉・明智龍男編
②参考書Ａ（学生の所持をすすめるもの）	（R）精神科における予診・初診・初期治療（星和書店）笠原嘉著 ※(R)：Remedial …　教科書の理解を助けるような補習的なもの （A)：Advanced　…　教科書より進んだ学習のためのもの
③参考書Ｂ（図書館等での利用をすすめるもの）	（A）DSM-5-TR 精神疾患の診断・統計マニュアル　日本精神神経学会編　医学書院 （A）カプラン臨床精神医学テキスト（メディカルサイエンスインターナショナル）　第3版 ※(R)：Remedial …　教科書の理解を助けるような補習的なもの （A)：Advanced　…　教科書より進んだ学習のためのもの

J．講義予定表

「添付資料」参照

2025年度　3年　講義予定表

【精神神経科学】

月日	曜	時限	講義テーマ	講義内容	担当	教科書	授業形態
9/10	水	2	［総　論］ 精神医学概論	精神医学とはなにか？　精神・こころ・脳の正常と異常について解説しながら、精神医学の歴史、精神障害の分類、そしてポストコロナにおける精神科的問題について概説する。	渡邊衡一郎	p5-28	講義
9/17	水	1	［総　論］ 精神症候学	意識、知覚、記憶、見当識、知能、思考、感情、意志・欲動・行動、自我意識などにおける異常（＝精神症状）について概説する。	渡邊衡一郎	p49-64	講義
9/17	水	2	［総　論］ 精神療法概論	精神科臨床において、診断と治療の要となるのは面接である。問診の導入、話の進め方、力動精神医学の基本について、具体例とともに概説し、精神療法の基礎となる面接技法を解説する。	池田暁史	p77-91	講義
9/24	水	2	［各　論］ 統合失調症	統合失調症の疫学、重要な症候、歴史的な診断分類の変遷について、治療と経過、予後について概説する。心理社会的治療の重要性や治療抵抗性統合失調症の定義や治療、リカバリーについても解説する。	櫻井準	p271-295	講義
10/1	水	1	［総　論］ 心理検査・神経心理検査	知能検査、パーソナリティ検査、作業検査、記憶検査、前頭葉検査、遂行機能検査などについて、検査の体験を交えて各々のアセスメント例を示しながら、診断や治療の補助としての意義について概説する。	栗原真理子	p129-143	講義(AL)
10/1	水	2	［各　論］ 精神療法各論	認知行動療法、マインドフルネス、対人関係療法などは、薬物療法と同等の効果が得られるケースがあり、近年注目されている。主要な精神療法の理論と実践について具体的に説明する。体験学習も併せて行う予定。	大江悠樹	p176-180	講義
10/8	水	1	［各　論］ うつ病	わが国は「うつ病100万人」の時代に突入し、自殺予防が大きな課題となっている。うつ病の定義や経過と予後、様々な治療法について概説する。	渡邊衡一郎	p297-322	講義
10/8	水	2	［各　論］ 双極症	うつ病と診断されるうちの約2-3割は実は双極症と考えられている。同じうつ状態でも治療は異なり、自殺率はむしろ高く、知的レベルの高い人がなると考えられている。この疾患について概説する。	渡邊衡一郎	p321-332	講義
10/22	水	1	［総　論］ 精神病理学入門	精神病理学は臨床診断に不可欠である。ヤスパース、シュナイダーの記述精神病理学を概説しながら、外因・内因・心因に分類する臨床的意義や操作的診断基準の限界について解説する。	田中伸一郎	p14-28	講義
10/22	水	2	［各　論］ 物質関連症および嗜癖性症群	アルコール・有機溶剤・覚せい剤・大麻などの精神作用物質による主要な症状について説明し、近年社会問題となっているインターネット、ギャンブルなどの依存症の経過、治療法について概説する。	村尾昌美	p413-449	講義
10/22	水	3	［各　論］ 摂食症、心的外傷及びストレス関連症	摂食症、急性ストレス症、心的外傷後ストレス症、身体症状症などのストレス関連障害の症状、治療法について概説しながら、心身相関の基礎を学ぶ。	松本泰幸	p371-395	講義
10/28	火	2	［各　論］ 睡眠・覚醒障害	睡眠障害は精神疾患でみられる頻度の高い症候であるが、不眠症のみならず、睡眠時無呼吸症候群やレストレスレッグス症候群等の合併も多くみられる。本講義では睡眠・覚醒障害に対する正確な評価と治療を概説する。	中島亨	p397-411	講義
10/29	水	5	［各　論］ 不安症・強迫症	不安、恐怖とそれに対する回避行動に特徴づけられる全般不安症、社交不安症、パニック症、解離症、変換症と強迫症について主な症状、それぞれの治療法について説明する。	片桐建志	p333-369	講義
11/5	水	1	［各　論］ パーソナリティ症	パーソナリティ症とは何か？古典的な精神病質の概念の歴史をふり返りつつ、境界性パーソナリティ症など、各パーソナリティ症の主な症状、治療法について概説する。	丸木拓	p497-511	講義
11/5	水	2	［各　論］ ニューロモデュレーション	精神科領域の非薬物療法について、電気けいれん療法、反復経頭蓋磁気刺激療法などの電気・磁気的治療介入の概要、最新の知見、今後の展望について概説する。	鬼頭伸輔	p146-150	講義
11/12	水	1	［各　論］ 児童・青年期の精神障害	神経発達症のうち、自閉スペクトラム症、注意欠如多動症、限局性学習症を中心に、児童青年期の精神障害の主な症状、経過、治療法について概説する。	宇佐美政英	p251-270	講義
11/19	水	1	［各　論］ 薬物療法（1）	精神科の薬物療法における、臨床薬理学の解説と、作用部位、創薬の歴史・社会的背景について解説する。	坪井貴嗣	p150-169	講義(AL)
11/19	水	2	［各　論］ 薬物療法（2）	薬物療法（2）に続き、抗うつ薬、抗精神病薬、気分安定薬、睡眠薬、抗不安薬、精神刺激薬について適応と効果、臨床上、重視すべき副作用について概説する。	坪井貴嗣	p150-169	講義
12/3	水	1	［各　論］ 精神科リハビリテーション	精神疾患からの回復には当事者自らが能動的に治療に関わる精神科リハビリテーションが必要となる。講義と作業療法を実践することで、精神科リハビリテーションの概要を体験学習する。	早坂友成	p219-225	演習(AL)
12/3	水	2	［各　論］ コンサルテーション・リエゾン精神医学	身体疾患の治療を受けている人の精神医学的な問題への介入を行うコンサルテーション・リエゾン精神医学について、せん妄、ステロイド精神病などの代表的な病態について概説する。	櫻井準	p185-196	講義
12/11	木	1	［各　論］ 認知症	4大認知症であるアルツハイマー型認知症、血管性認知症、前頭側頭型認知症、レビー小体型認知症の具体例を示しながら、中核症状と行動心理症状、画像所見、治療法について概説する。	中野正寛	p451-484	講義
12/11	木	2	［各　論］ 精神医療と法	精神障碍当事者は一時的にせよ、重篤な判断能力の低下が生じることがあり、患者本人の同意に基づかない医療を行う必要も生じてくる。このような状況で適応される精神保健福祉法について概説する。	今村弥生	p231-244	講義

年度	2025年度	学年	3年
学科目	小児科学	科目ナンバリング	FME-3F15
単位	2単位	コマ数	27コマ
科目責任者	成田雅美　教授		
担当教員	教　授　　成田雅美、吉野浩 准教授　　保﨑明、細井健一郎、倉山亮太 講　師　　田中絵里子、高橋昌平 学内講師　　野村優子、宮田世羽、麓聖子、木内善太郎 助　教　　鴇田雅俊、瀧浦俊彦 非常勤講師　小須賀基通、　宮澤永尚 講義を担当する教員は、主として医学部付属病院で医師として臨床業務に従事しており、実際の医療現場における最新の知見に基づく教育を行うことができる。		

A．教育の基本方針	4年生から開始される臨床実習への準備教育と位置づけられるコースである。小児科学は、500gの新生児から50kgの思春期の小児を対象とする。まず、この時期の小児のダイナミックな身体および精神の正常の発達を理解する。その知識を背景に、小児に特有な各臓器障害の臨床症状とその特徴を理解する。
B．到達目標	4年生からの臨床実習において小児に特有な疾患の病態と臨床像の理解を確たるものとするために、必要な知識を身につける。まず健康な新生児、乳児、幼児、学童、思春期の生理的および精神的な発達を学ぶ。その上で小児の主な疾患について、病態および臨床像についての基本的な知識を身につける。特に主要症状から鑑別診断を列挙し、さらに診断を進めるための臨床推論の基本を習得する。また小児期の保健について必要な知識を学ぶ。 【杏林大学医学部学生の到達目標との関連】 (1)-②,③，(2)-①,②,③,④,⑤,⑥,⑧,⑨，(4)-①,②
C．修得すべき能力	1.問題解決に必要な患者情報を適切に収集し、整理できる。 2.小児科学の特性（疾患特殊性、検査結果、診療技術）を理解できる。 3.小児特有の生理学を基に疾患の病態を理解し、鑑別診断ができる。 4.疾患の症例を適切に要約し、他者と討論できる。
D．学習内容	正常な小児の発達・発育、正常新生児と新生児疾患、小児期にみられる疾患、すなわち感染症、神経、循環器、腎・膠原病、アレルギー、内分泌、消化器、代謝、先天代謝、先天奇形、血液・悪性腫瘍、先天性免疫不全、呼吸器、発達障害等について講義をする。 アクティブ・ラーニングの実施法：一部の授業では講義に関連したテーマについて、学生間でのディベートなどを実施し、理解を深める。
E．実習・課外授業	1．実習　なし　　2．課外授業　なし
F．準備学習の内容	事前にシラバスの「講義テーマ」や「講義内容」を参照して該当する教科書や参考書を読み、関連する領域の基礎医学や内科学の復習をしておくこと。所要時間の目安：各コマ75分程度。
G．復習学習の内容	講義で配布された資料や練習問題の解答および教科書の関連ページを熟読して復習すること。所要時間の目安：各コマ75分程度。
H．成績評価の方法・基準	1．試験の方針：筆記試験による客観試験 2．試験の期日と実施方法：全講義終了後に多肢選択方式と再生方式を合わせた筆記試験を行う。 3．評価法：本試験あるいは再試験について判定基準を満たしたものを合格とする。レポートや小テストは判定の基準に含まない。 4．判定基準　60％以上 5．フィードバック方法：試験終了後に模範解答を配布

I．学習指導書

①教科書（学生が所持しなければならないもの）	原　寿郎監修　標準小児科学　第９版　2022 医学書院 Ｍ５のBSL、Ｍ６でも使用する。
②参考書Ａ（学生の所持をすすめるもの）	なし
③参考書Ｂ（図書館等での利用をすすめるもの）	(R)　小児科診療ガイドライン　最新の診療指針　第５版　加藤元博：編集　2023 総合医学社 (R) 小児科診断・治療指針　改訂第3版　加藤元博：総編集　2024　中山書店 (R) 小児臨床検査2024 「小児内科」「小児外科」編集員会共著　2024 東京医学社 (A)　小児疾患診療のための病態生理　1，2，３改訂第６版　東京医学社 (A)　KLIEGMAN　他編　Nelson　Textbook of PEDIATRICS Edition 21 volume 1,2 ELSEVIER ※(R)：Remedial …　教科書の理解を助けるような補習的なもの (A)：Advanced　…　教科書より進んだ学習のためのもの

J．講義予定表

「添付資料」参照

2025年度　3年　講義予定表

【小児科学】

月日	曜	時限	講義テーマ	講義内容	担当	教科書	授業形態
8/26	火	1	小児呼吸器疾患	呼吸器の発生に引き続き、小児に特徴的なクループ症候群、急性細気管支炎、肺炎、肺分画症などの診断と病態、治療を解説する。	倉山亮太	標準小児科学　第１８章	講義
9/8	月	4	小児腎泌尿器疾患（１）	小児の腎臓の形態と機能の発達に伴う特性を概説し、一次性糸球体疾患の病態について解説する。	田中絵里子	標準小児科学　第２１章総論、各論A,B	講義
9/9	火	1	発達障害・ 小児心身症	精神遅滞、自閉症、ADHD、学習障害などの発達障害について、その概念と対応について説明をする。また、小児期の不登校、チック、摂食障害などの心身症について、その概念と治療法について説明する。	宮田世羽	標準小児科学　第６章、第７章	講義
9/10	水	1	成長・発達	小児科学の初めの授業として、小児の特徴である成長・発達の概念や、知っておくべき基本的な指標について解説する。	瀧浦俊彦	標準小児科学　第１章、第２章、第３章	講義
9/12	金	1	新生児-正常（１）	未熟児・低出生体重児の定義・分類を解説する。さらに、出生に伴う循環動態の変化を含めた新生児期に特有な生理を臓器別に解説する。	麓聖子	標準小児科学　第９章A,B	講義
9/19	金	1	新生児-正常（２）	出生にともなう生理的な変化について学習し、正常な新生児の特徴、検査上の所見、新生児の評価法（Apgarスコア）を解説する。	麓聖子	標準小児科学　第９章C,D,E	講義
9/26	金	1	小児救急・心肺蘇生・虐待	小児での代表的な救急疾患とその対応のポイントを概説する。また事故は長らく小児の死因の上位を占めており、典型的な事故への対応と予防、虐待の早期発見と対応について説明する。	鴇田雅俊	標準小児科学　第８章	講義
10/3	金	1	新生児-疾患(１)	出生に伴う呼吸・循環の生理を学び、新生児呼吸窮迫症候群（RDS）の病態と診断・治療、無呼吸の原因診断と治療、慢性肺疾患、先天性心疾患を解説する。講義に関連したテーマについて、学生間でのディベートなどを実施し、理解を深める。	細井健一郎	標準小児科学　第９章F-I	講義(AL)
10/3	金	2	小児膠原病・リウマチ性疾患・川崎病	小児期発症の膠原病について、その特性の総論を概説し、リウマチ熱、若年性関節リウマチ、血管性紫斑病の病態と鑑別、治療について解説する。また、小児特有の血管炎として川崎病について解説する。	高橋昌平	標準小児科学　第１６章、第１７章I	講義
10/6	月	2	先天性心疾患（１）	循環器Aで講義した内容に加え、主に複雑心奇形について解説する。講義に関連したテーマについて、学生間でのディベートなどを実施し、理解を深める。	保崎明	標準小児科学　第１９章	講義(AL)
10/10	金	1	新生児-疾患(２)	新生児でのビリルビン代謝とその異常、新生児期に発症する代表的な血液疾患、消化器疾患及び代謝異常症、感染症等について解説する。講義に関連したテーマについて、学生間でのディベートなどを実施し、理解を深める。	細井健一郎	標準小児科学　第９章J-O	講義(AL)
10/17	金	1	先天性心疾患（２）	複雑心奇形の続き、小児期にみられる不整脈、心筋疾患ついて解説する。講義に関連したテーマについて、学生間でのディベートなどを実施し、理解を深める。	保崎明	標準小児科学　第１９章	講義(AL)
10/20	月	4	小児神経疾患（１）	中枢神経系の発生とその異常、神経皮膚症候群、脳性麻痺、もやもや病、脳炎など炎症性神経疾患、筋ジストロフィーなど筋疾患、遺伝性末梢神経疾患について説明する。	宮田世羽	標準小児科学　第２４章、第２５章	講義
10/21	火	2	小児神経疾患（２）	てんかんは小児期に発症することが多く、頻度も高い疾患である。その病態と、West症候群、Lennox-Gastaut症候群、ローランドてんかんなどに代表的なてんかん症候群を、実際の発作ビデオなども供覧して説明する。	宮田世羽	標準小児科学　第２４章	講義
10/27	月	1	小児腎泌尿器疾患（２）	小児に特徴的な２次性糸球体疾患、遺伝性糸球体・尿細管疾患を解説する。	木内善太郎	標準小児科学　第２１章各論C-K	講義
10/27	月	4	ウイルス感染症	麻疹、風疹、水痘、ムンプス、RSウイルス、アデノウイルス、コクサッキーウイルスなど、小児期に好発するウイルス疾患について、その臨床像と予防法とを解説する。	田中絵里子	標準小児科学　第１７章各論A	講義
11/14	金	1	造血・赤血球異常	造血障害や溶血性貧血の中で先天的な疾患について解説をする。講義に関連したテーマについて、学生間でのディベートなどを実施し、理解を深める。	吉野浩	標準小児科学　第２２章総論、各論A	講義(AL)
11/14	金	3	白血球の異常・ 止血・血栓の疾患	白血球の形態と機能について説明し、先天性の異常や先天性好中球減少症などについて解説する。また小児期に重要な凝固系の疾患として特発性血小板減少性紫斑病、先天性の凝固異常、母乳栄養の問題点などについて解説する。	宮澤永尚	標準小児科学　第２２章各論B,C	講義
11/25	火	1	小児内分泌疾患（１）	成長のしくみ、成長障害の鑑別、下垂体・甲状腺・副甲状腺疾患の病態について解説する。	瀧浦俊彦	標準小児科学　第１２章A-D	講義
11/25	火	2	小児内分泌疾患（２）	性分化・性発達の仕組みを概説し、先天性副腎皮質過形成と思春期早発症・遅発症、性腺機能不全、糖尿病の病態と治療について解説する。	瀧浦俊彦	標準小児科学　第１２章E-J	講義
11/27	木	4	先天異常	遺伝や環境因子による先天異常、単一遺伝子疾患としての先天異常症候群、および染色体異常症などおのおのの病態について発生機序や遺伝形式を系統立てて理解し、診断や治療など臨床に応用できるようにする。	小須賀基通	標準小児科学　第１０章	講義
11/28	金	1	小児腫瘍性疾患	小児の悪性腫瘍の中で最も頻度の高い疾患である白血病について、その病態の特徴と、実際の治療について具体的に説明する。小児に特徴的な腫瘍性疾患についても解説する。講義に関連したテーマについて、学生間でのディベートなどを実施し、理解を深める。	吉野浩	標準小児科学　第２２章D、第２３章	講義(AL)
12/2	火	2	栄養・小児保健・ 予防医学	母乳をはじめとする小児期の栄養法の特徴、知っておくべき小児保健の統計、予防接種などの予防医学について解説する。	野村優子	標準小児科学　第４章、第５章	講義
12/4	木	1	感染症総論・ 細菌感染症	細菌・ウィルス感染症の定義、疫学、感染経路、診断、予防、治療について論じ予防接種の原理と意義を解説する。細菌感染症について、年齢により疾患、原因菌、症状に違いがあることに焦点をあて、臨床で頻繁に遭遇する疾患、小児に特異的な疾患について解説する。	木内善太郎	標準小児科学　第１７章B-H	講義
12/4	木	2	小児 アレルギー疾患	小児に見られる代表的なアレルギー疾患である、気管支喘息、アトピー性皮膚炎、食物アレルギーについて、小児期の特徴や病態を含めた概説を行う。	成田雅美	標準小児科学　第１５章	講義(AL)
12/11	木	4	先天性代謝異常（１）	先天代謝異常症の概念、病態、検査、診断、治療、新生児スクリーニングについて説明し、アミノ酸代謝異常、有機酸代謝異常症、尿素サイクル異常症などおのおの病態に基づいた臨床症状を主として講義する。	小須賀基通	標準小児科学　第１１章	講義
12/11	木	5	先天性代謝異常（２）	先天代謝異常症のうち、糖代謝異常、ライソゾーム病、ペルオキシゾーム病、脂質代謝異常、金属代謝異常症などおのおの病態に基づいた臨床症状を主として講義する。	小須賀基通	標準小児科学　第１１章	講義

年度	2025年度	学年	3年
学科目	消化器外科学	科目ナンバリング	FME-3F16
単位	1単位	コマ数	16コマ
科目責任者	阪本良弘　教授		
担当教員	教　授　　阪本良弘、阿部展次、須並英二 臨床教授　鈴木裕 講　師　　竹内弘久、吉敷智和、大木亜津子、小暮正晴 助　教　　橋本佳和、片岡功 任期助教　松木亮太、鶴見 賢直、小島洋平、本多五奉、百瀬博一、他 上記担当教員については、主として医学部付属病院において、医師として勤務（実務経験）する教員が講義・実習を担当しており、実際の医療現場における最新の知見に基づく教育内容を受けることができる。		

A．教育の基本方針	消化器外科学の基本的概念を習得する。
B．到達目標	消化器領域疾患の病態・診断・治療を学び、医療全体における外科治療の役割や意義を理解する。 【杏林大学医学部学生の到達目標との関連】 (1)-②,③,（2)-①,②,③,④,⑤,⑥,⑧,⑨,（4)-①,②
C．修得すべき能力	・外科医療に求められる倫理と法的責任を認識する。 ・安全な外科医療を行うための知識を習得する。 ・消化器の正常解剖構造と機能を理解する。 ・消化器疾患の病態生理と自然史を理解する。 ・消化器疾患の身体診察法や診断法、治療法を理解する。 ・消化器疾患の外科治療の適応を説明できる。 ・外科的侵襲に対する生体の反応について説明できる。 ・手術前後の患者管理について説明できる。 ・消化器疾患の薬物治療の適応を理解する。
D．学習内容	・消化器疾患に対する外科治療を中心とした講義 ・消化器内科との合同講義
E．実習・課外授業	1．実習　　なし 2．課外授業　なし
F．準備学習の内容	教科書を読む 所要時間の目安：各コマ75分程度
G．復習学習の内容	講義で配布されたプリントや練習問題の解答および教科書の関連ページを熟読して復習すること 所要時間の目安：各コマ75分程度
H．成績評価の方法・基準	1．試験の方針 消化器外科学の基本を修得しているか否かをチェックする。 2．試験の期日と実施方法 マークシート方式、再生形式 3．評価法 試験成績 4．判定基準 60点以上を合格とする。 フィードバック方法：試験終了後に模範解答を配布

I．学習指導書

①教科書（学生が所持しなければならないもの）	標準外科学第15版（医学書院）
②参考書A（学生の所持をすすめるもの）	なし ※(R)：Remedial …　教科書の理解を助けるような補習的なもの (A)：Advanced　…　教科書より進んだ学習のためのもの
③参考書B（図書館等での利用をすすめるもの）	なし ※(R)：Remedial …　教科書の理解を助けるような補習的なもの (A)：Advanced　…　教科書より進んだ学習のためのもの

J．講義予定表

「添付資料」参照

2025年度　3年　講義予定表

【消化器外科学】

月日	曜	時限	講義テーマ	講義内容	担当	教科書	授業形態
5/8	木	3	膵胆管合流異常症・先天性胆道拡張症･胆嚢癌･乳頭部癌	総胆管拡張症・膵胆管合流異常：合流異常の病態、合併病変（胆道拡張症、胆道癌、胆石、膵炎）。胆道拡張症の分類、症状。合流異常症・先天性胆道拡張症の診断・治療。胆嚢癌、乳頭部癌の病態、診断、治療。	小暮正晴	標準外科学第15版 601-608, 612	講義
5/8	木	4	嚢胞性膵疾患と膵神経内分泌腫瘍	嚢胞性膵疾患：膵嚢胞性腫瘍の分類（仮性嚢胞、真性嚢胞）。仮性嚢胞の成因・診断・治療。膵管内乳頭粘液性腫瘍(IPMN)・粘液性嚢胞腫瘍(MCN)・漿液性嚢胞腫瘍(SCN)の病理・診断（特に鑑別）・治療。	鈴木裕	標準外科学第15版 619-622,626-628	講義
5/9	金	3	腸閉塞	腸閉塞の原因、診断、治療について解説する。講義の後半で症例を提示し、学生参加のうえで討論しながら診断や治療方針を考えていく。	吉敷智和	標準外科学第15版 544-550	講義(AL)
5/13	火	3	急性腹症、腹膜炎	急性腹症の概念、診断と治療、急性腹膜炎の原因･病態･診断･治療について解説する。講義の後半で症例を提示し、学生参加のうえで討論しながら診断や治療方針を考えていく。	橋本佳和	標準外科学第15版 128-137	講義(AL)
5/13	火	4	胃外科（１）	胃癌や他の胃腫瘍（消化管間質腫瘍など）について外科治療を中心に解説する。	阿部展次	標準外科学第15版 503-521	講義
5/13	火	5	胃外科（２）	消化性潰瘍の治療における外科の役割を解説する。胃切除後症候群を術後早期の合併症と晩期の合併症（術後の後遺症）に大きく分けて、発生機序や予防策、治療に関し概説する。	大木亜津子	標準外科学第15版 501-503, 515-521	講義
5/27	火	4	大腸腫瘍	大腸癌について基礎的事項から臨床的事項【手術適応、手術術式（開腹手術と腹腔鏡手術）、切除後の予後など】について概説する。	須並英二	標準外科学第15版 533-544	講義
5/28	水	4	肛門疾患	肛門の発生と解剖的特徴から診察方法、診断、治療法につき解説する。	片岡功	標準外科学第15版 557-565, 572-573	講義
5/28	水	5	腸疾患（２） ＜炎症性腸疾患と腸結核＞ 内科・外科合同講義・90分	炎症性腸疾患（潰瘍性大腸炎、クローン病）の疫学、病態、診断と治療について統合的に学ぶために内科外科合同講義とする。鑑別疾患である腸結核についても解説する	内科 久松理一、外科 須並英二	959-970（朝倉）	講義
5/29	木	4	胆道疾患 ＜良性胆道疾患と手術＞ 内科・外科合同講義・90分	胆石症、胆嚢炎、胆管炎（原発性硬化性胆管炎、Ig4関連胆管炎を含む）胆嚢腺筋症、胆嚢ポリープにつき内科的立場から解説し、胆石症、胆嚢炎の治療について外科の立場から解説する。良性胆道疾患を包括的に学ぶための内科・外科合同講義である。	内科 落合一成、外科 鈴木裕	1150-1157 1159-1166 1169　（朝倉）	講義
6/9	月	5	食道外科（１）	食道の解剖生理機能と、食道腫瘍（食道癌、バレット食道癌）の病態生理、症状、検査、外科手術を中心とした治療法と合併症について解説する。	竹内弘久	標準外科学第15版446-448, 454-466	講義
6/17	火	2	食道外科（２）	横隔膜の解剖生理機能と、横隔膜ヘルニア、横隔膜弛緩症、横隔膜麻痺等の疾患の病態生理、症状、検査、治療法について解説する。食道アカラシア、逆流性食道炎の診断・治療を解説する。	鶴見 賢直	標準外科学第15版 442-445,449-454	講義
6/18	水	4	膵癌	膵癌の病態・診断・治療を解説する。	阪本良弘	標準外科学第15版 622-628	講義
6/19	木	3	肝臓の解剖、機能評価・肝細細胞・転移性肝腫瘍	肝臓の解剖　術前における肝機能の評価　肝細胞癌の診断と治療　転移性肝腫瘍の診断と治療	松木亮太	標準外科学第15版 574-578,585-587	講義
6/20	金	4	肝外胆管癌と肝内胆管癌	肝外胆管癌と肝内胆管癌の病態･診断･治療につき解説する。	阪本良弘	標準外科学第15版 593-597,605-608, 586-587	講義
6/20	金	5	肝臓疾患（５） ＜急性肝不全・肝移植＞ 内科・外科合同講義・90分	劇症肝炎・急性肝不全の成因、病態、治療、予後につき内科の立場から解説する。また、国内外における肝移植の現状やその適応、手術法などについて外科の立場から解説する。肝不全を包括的に学ぶための内科・外科合同講義である。	内科 川村直弘、外科 阪本良弘	1046-1050 1068-1074（朝倉）	講義

年度	2025年度	学年	3年
学科目	呼吸器・甲状腺・乳腺外科学	科目ナンバリング	FME-3F17
単位	1単位	コマ数	14コマ
科目責任者	橋本浩平　臨床教授 井本　滋　教授		
担当教員	教　授　　近藤晴彦、井本　滋 臨床教授　　橋本浩平 准教授　　田中良太、橘　啓盛 講　師　　関　大仁、中里陽子 学内講師　　須田一晴 助　教　　平田佳史、新井信晃、土屋あい、渋谷幸見、堀　秀有 上記担当教員については、主として医学部付属病院において、医師として勤務（実務経験）する教員が講義・実習を担当しており、実際の医療現場における最新の知見に基づく教育内容を受けることができる。		

A．教育の基本方針	解剖学、生理学、病理学、画像診断学、内科学、腫瘍学などの知識、技術を結集した上に外科学は存在している。呼吸器、甲状腺、乳腺の疾患に関して、これらの各領域の知識をふまえて、外科学として総合的にその病態および最新の治療について理解することを目標とする。特に肺癌、甲状腺癌、乳癌に関しては、腫瘍学の考え方、治集学的な療戦略などについて学習する。また、臨床医学の中での外科学の重要性を認識するとともに、良医となるための心構えを持つことを教育する。
B．到達目標	１）各疾患の病因、診断につき理解し、病態について述べることができる。 ２）知識としての病態の把握のほか、実地医療の入り口として画像診断学を習得し、述べることができる。 ３）診断のプロセスと技術について理解し、治療法選択の科学的根拠と個々の疾患の治療について述べることができる。 【杏林大学医学部学生の到達目標との関連】 (1)-②,③,　(2)-①,②,③,④,⑤,⑥,⑧,⑨,　(4)-①,②
C．修得すべき能力	１）肺・甲状腺・乳腺等の解剖と生理を理解する。 ２）主要各疾患の病態生理と自然歴を理解する。 ３）主要疾患に対する診断法を理解する。 ４）各疾患に対する外科治療と集学的治療法について理解する。
D．学習内容	教科書、スライド、配付資料を使用して講義する。乳腺疾患の講義についてはミニテストや講義内容に基づく症例検討などアクティブ・ラーニングを行う。
E．実習・課外授業	１．実習　　なし ２．課外授業　なし
F．準備学習の内容	事前にシラバスの「講義テーマ」や「講義内容」を読み、教科書に目を通しておくこと。 所要時間の目安：各コマ75分程度
G．復習学習の内容	講義で配布されたプリントや練習問題の解答および教科書の関連ページを熟読して復習すること。 所要時間の目安：各コマ75分程度
H．成績評価の方法・基準	１．試験の方針 呼吸器、甲状腺、乳腺、各疾患の病態、診断、治療の基礎知識の習得状況を確認する. ２．試験の期日と実施方法 学期末に行う. ３．評価法 定期試験の結果で評価する。出席日数が所定の数に達しないものは受験できない. ４．判定基準 60点以上を合格とする. ５．フィードバック方法 試験終了後に模範解答を配布

Ｉ．学習指導書

①教科書（学生が所持しなければならないもの）	標準外科学　第16版　医学書院
②参考書Ａ（学生の所持をすすめるもの）	(R)STEP内科　腎・呼吸器　海馬書房 ※(R)：Remedial …　教科書の理解を助けるような補習的なもの (A)：Advanced　…　教科書より進んだ学習のためのもの
③参考書Ｂ（図書館等での利用をすすめるもの）	なし ※(R)：Remedial …　教科書の理解を助けるような補習的なもの (A)：Advanced　…　教科書より進んだ学習のためのもの

Ｊ．講義予定表

「添付資料」参照

2025年度　3年　講義予定表

【呼吸器・甲状腺・乳腺外科学】

月日	曜	時限	講義テーマ	講義内容	担当	教科書	授業形態
9/2	火	1	呼吸器外科総論/解剖	呼吸器外科の対象領域は外傷、炎症性疾患、腫瘍、そして移植まで発展・拡張してきた。呼吸器外科に必要な解剖や検査を学習する。	田中良太	３０３-３４８,４３７-４４９	講義
9/8	月	3	乳癌の診断と手術療法	乳癌について、発生、疫学、生物学的特徴を述べ、その治療の基本戦略と手術療法について解説する。	関大仁	使用しない	講義
9/11	木	3	膿胸・乳び胸・縦隔炎	膿胸・乳び胸・縦隔炎の成因・治療法について学習する。	平田佳史	３０８-３１０,４４６	講義
9/12	金	3	転移性肺腫瘍	呼吸器外科領域では、他臓器原発の悪性腫瘍の肺転移（転移性肺腫瘍）もしばしば治療対象となる。その診断、適応、治療成績について学習する。	橘啓盛	１４２-１６７,３４５	講義
9/18	木	4	乳腺良性疾患と乳がん検診	代表的な乳腺疾患の症状と確定診断に至るまでのプロセスについて解説する。 第二次性徴、妊娠授乳期、閉経前後と変化する中で、良性乳腺疾患について乳癌との鑑別診断を含めて講義する。	土屋あい	使用しない	講義
9/26	金	2	肺癌：診断、TNM分類、画像、病理	肺癌の画像、診断、病理、TNM分類などから肺癌の診断や治療戦略の考え方を学習する。	田中良太	３３０-３４８	講義(AL)
10/10	金	2	甲状腺・副甲状腺/総論	甲状腺周囲の解剖、各臓器の機能、内科で習得した重要な疾患について整理する。	新井信晃	２７３-２８２	講義
10/10	金	4	気胸	気胸および肺気腫は日常的に遭遇する疾患である。診断、治療について学習する。	堀秀有	３０６-３０８,３１３	講義
10/31	金	1	胸膜腫瘍・肺良性腫瘍	胸膜に発生する腫瘍と肺の良性腫瘍について学習する。	橘啓盛	３０６,３１１,３２７-３３０	講義
11/6	木	4	縦隔腫瘍	胸腺腫、悪性リンパ腫、縦隔内甲状腺腫、胚細胞腫、神経原生腫瘍、心膜嚢胞、気管支原生嚢胞など、縦隔腫瘍について疾患の特徴、治療法について学習する。	渋谷幸見	４３７-４４	講義
11/10	月	1	甲状腺・副甲状腺の外科治療	甲状腺周囲の解剖、各臓器の機能、内科で習得した重要な疾患を理解した上で集中して術式・適応・合併症について学ぶ。	中里陽子	２７３-２８２	講義(AL)
11/13	木	3	肺癌：手術	肺癌の手術適応・方法・術後合併症について学習する。	須田一晴	３３０-３４８	講義
11/14	金	2	乳癌の薬物療法	乳癌の集学的治療を概説した上で、ケースタディを通して乳癌の薬物療法の位置付けとその意義について学習し理解を深める。	井本滋	２７８-２９６	講義(AL)
11/27	木	5	肺移植	国内において肺移植ができる施設は限定されている。当学では施行していないが、肺移植の適応の知識は必須である。適応とその実際について学習する。	橋本浩平	２１１-２１６	講義

年度	2025年度	学年	3年
学科目	皮膚科・形成外科学	科目ナンバリング	FME-3F22
単位	1単位	コマ数	19コマ
科目責任者	大山学　教授		
担当教員	教　授　　大山学 教　授　　多久嶋亮彦 臨床教授　大浦紀彦 臨床教授　尾崎峰 研究教授　花輪智子 特任教授　水川良子 その他の担当教員は講義予定表に記載 上記担当教員については、主として医学部付属病院において、医師として勤務（実務経験）する教員が講義・実習を担当しており、実際の医療現場における最新の知見に基づく教育内容を受けることができる。		

A．教育の基本方針	前年度までに習得した基礎医学・臨床医学の知識に基づき患者の外観に大きく影響を与える、または生活の質を損なう疾患を扱う診療科である皮膚科・形成外科の診断学・治療学の知識の習得を目指す。 皮膚科学では基礎医学で修得した皮膚に関する形態学的、生理学的、分子生物学的、薬理学的、免疫・感染症学的特徴の理解に基づき、それらの異常・障害という観点から、皮膚疾患の病態、診断、治療の系統的に理解し、臨床実習において実践的に活用できる知識体系の修得を目指す。また、皮膚に症状を呈する全身疾患は多く、皮疹から想起するべき全身症状についても修得する。外用療法などの従来の治療に加え、近年、急速に発展を遂げている生物学的製剤・分子標的薬について最新の知見を学ぶ。 形成外科学では、皮膚科学と同様に、基礎医学で得た人体各部の外観、構造と機能の喪失・障害について、その原因を知り、病態、診断、再建についての方法論を学び、臨床実習において特に学習するべき手術、処置などについての系統的修得を目指す。また、他科領域の疾患の治療後の外科的外観・機能回復について学習する。
B．到達目標	皮膚科学では、まず皮膚の正常組織、機能について系統的な知識を習得する。次いで、主要な皮膚疾患について正常組織の恒常性がどのように障害されているかを理解し、病態生理を把握、それに基づき症状、病態、治療法を理解する。また、全身疾患と皮疹の関連性につき代表的疾患を知る。 形成外科学では、まずその役割と特殊性を理解する。創傷治癒の知識を学習するとともに、組織・機能の障害を修復するための形成外科的手技を理解する。また、先天性疾患、腫瘍摘出後の再建といった診療科横断的な治療における形成外科の役割を知る。 アピアランスの障害という両科共通の観点から診療で配慮するべきコミュニケーション術について理解する。 講義が終了した際には、皮膚科・形成外科の代表的な疾患について病態を理解したうえで診断でき、治療方針を立てることができるようになることを目標とする。 【杏林大学医学部学生の到達目標との関連】 (1)-②,③,（2)-①,②,③,④,⑤,⑥,⑧,⑨,（4)-①,②
C．修得すべき能力	1.　皮膚の基本構造と生理学的、免疫学的特徴について理解し、その異常として皮膚疾患の病態を説明できる。 2.　皮疹の性状を発疹学的に表現し、診断に必要な検査について説明できる。 3.　皮疹の肉眼的所見、画像解析デバイスを用いた観察結果から病理組織学的所見を想起できる。 4.　代表的皮膚疾患の血液検査、細菌学的検査、病理組織学的所見を説明できる。 5.　皮膚疾患に用いられる治療法の特性について理解する。 6.　最新の研究の知見とそこから開発された治療法について知る。 7.　代表的皮膚疾患の治療法を説明できる。 8.　全身疾患でみられる特徴的な皮疹を説明できる。 9.　創傷の治癒過程を理解し創傷管理の具体的な方法を説明できる。 10. 組織再建に必要な形成外科的手技について理解する。 11. 人体の解剖・機能を理解し部位に応じた組織欠損の再建方法を説明できる。 12. 外観・機能の障害に対する手術以外の治療法を説明できる。 13. 以上で修得した知識を活用し皮膚科・形成外科学の対象疾患の病態に基づき最適な治療を選択し、その理由を説明できる。
D．学習内容	総論では皮膚の構造、機能、発疹の見方、皮膚科に特徴的な検査法とその所見、形成外科の対象疾患、創傷管理、術式などの基礎的な事項について学ぶ。各論では主要皮膚疾患、再建手術、先天異常、顔面外傷、レーザー治療などの講義を予定している。講義においては、特に他科と皮膚科、形成外科との関連についても学ぶ機会を設ける。また、感染症学のスタッフが、皮膚科、形成外科の臨床と関連のある微生物学的知識、特に感染症の病原体の特性などについて講義する。 一部の授業においては、主にQ＆Aを用いた学生参加型講義（アクティブラーニング）を行う。
E．実習・課外授業	１．実習　なし ２．課外授業　なし
F．準備学習の内容	事前にシラバスの「講義テーマ」や「講義内容」を読み、教科書や参考書、必要に応じて文献検索等により関連事項についての情報を得たうえで、これに目を通しておくこと。所要時間の目安：各コマ75分程度。
G．復習学習の内容	講義で配布されたプリントや練習問題の解答および教科書の関連ページを熟読して復習する。所要時間の目安：各コマ75分程度。
H．成績評価の方法・基準	１．試験の方針 基本的事項につき、どの程度理解し応用しうるかをみる。 ２．試験の期日と実施方法 定期試験　筆記（多肢選択方式、再生形式）

	再試験　　筆記（多肢選択方式、再生形式） ３．評価法 定期試験の結果により評価。 ４．判定基準 60点以上を合格とする。 ５．フィードバック方法 試験終了後に模範解答を配布

Ｉ．学習指導書

①教科書（学生が所持しなければならないもの）	清水　宏著　あたらしい皮膚科学（第３版）中山書店　2018 波利井　清紀監修　TEXT形成外科学（第3版）　南山堂　2017
②参考書Ａ（学生の所持をすすめるもの）	(R)岩月啓氏監修、照井　正、石河　晃編集　標準皮膚科学（第11版）医学書院　2020 (R)平林　慎一編　標準形成外科学（第６版）　医学書院　2011 (R)大塚　藤男著　皮膚科学（第１０版）金芳堂　2016 ※(R)：Remedial …　教科書の理解を助けるような補習的なもの (A)：Advanced　…　教科書より進んだ学習のためのもの
③参考書Ｂ（図書館等での利用をすすめるもの）	(A)Bolognia J et al.:　Dermatology. 4th edn. Mosby 2017 (A)Kang S, et al.: Fitzpatrick's Dermatology 9th edn. MCGRAW-HILL EDUCATION 2019 (A)図説臨床形成外科学講座１～７ ※(R)：Remedial …　教科書の理解を助けるような補習的なもの (A)：Advanced　…　教科書より進んだ学習のためのもの

Ｊ．講義予定表

「添付資料」参照

2025年度　3年　講義予定表

【皮膚科・形成外科学】

月日	曜	時限	講義テーマ	講義内容	担当	教科書	授業形態
9/1	月	2	皮膚科学入門、症候学、診断学	皮膚は単に体表を覆うだけでなく免疫機能、体温調節など個体の恒常性維持に必須の機能をもつ人体最大の臓器である。その異常を取り扱う皮膚科学の全容を鳥瞰しつつ医師として習得すべきポイントを解説する。 また、皮膚疾患の診断の基礎である発疹学を学ぶ。具体的には紅斑、色素斑、白斑、丘診、結節、水疱、鱗屑などの発疹について豊富な臨床写真を用いて説明する。	大山学	64～88　資料配布	講義
9/1	月	4	形成外科概論	歴史、形成外科的手術手技：形成外科は、先天的・後天的な体表の組織欠損に対して、皮膚、筋肉、骨などの組織移植を行うことにより、それらの修復を行う外科学である。形成外科の歴史とともに手術手技を中心とした概要を講義する。口頭でのQ&A形式の能動的学習を取り入れる。	多久嶋亮彦	資料配付	講義(AL)
9/24	水	5	湿疹、皮膚炎、 光線過敏症、外用療法	湿疹・皮膚炎群および光線過敏症は皮膚科領域で頻度の高い重要な疾患である。アトピー性皮膚炎、接触皮膚炎を中心に、臨床症状、病態、検査、治療などについて解説する。Q＆A方式を取り入れながら、湿疹・皮膚炎の鑑別が出来、その治療としての外用療法を選択できるようになることを目標とする。	水川良子	89～96、114～129、 228～234　資料配付	講義(AL)
9/29	月	1	皮膚付属器疾患	毛包・脂腺・汗腺・爪はそれぞれ特有の機能をもち、その疾患は生命予後に関与するものこそ少ないが我々の生活の質を大きく低下させる。教科書では理解しにくい付属器疾患の病態・治療を学びやすく整理する。	大山学	361～375	講義
10/2	木	5	角化異常症	皮膚は角化という名の分化を行うが、その異常は様々な皮膚疾患として表れてくる。その代表が乾癬と扁平苔癬である。この２つの疾患は極めて対照的であり、その病態の差を理解することにより角化異常の全体像が見えてくるはずである。	鈴木洋介	268～301　資料配布	講義
10/8	水	4	再建外科（１）	躯幹・四肢再建：乳癌切除後の乳房再建をはじめとして、腹・胸壁の腫瘍切除後などの組織欠損に対する再建方法に関して講義する。また、四肢においては、外傷・腫瘍切除後の組織欠損に対して行う機能的再建方法を症例を呈示しながら解説する。	白石知大	資料配付	講義
10/15	水	2	顔面解剖・顔面における疾患	顔面の骨・軟部組織損傷および先天異常：顔面は露出部であるため、機能的再建だけでなく整容的にも優れた治療結果が求められる。代表的な顔面外傷である顔面骨骨折や軟部組織損傷、そして唇裂などの先天異常の治療について講義する。	尾崎峰	資料配付	講義
10/29	水	2	薬疹、中毒疹	薬疹は全科にかかわる見逃すことのできない重要な疾患である。Stevens-Johnson症候群、中毒性表皮壊死症、薬剤性過敏症症候群などの重症薬疹を中心に症状、検査、発症機序を解説する。	加藤峰幸	151～162　資料配布	講義
10/30	木	2	遺伝性疾患・母斑症	皮膚の遺伝性疾患あるいは母斑症は外観に影響を与えるだけでなく神経系、内臓系などにも病変が及ぶことがあり、その診療は診療科横断的に行われる。Q＆A方式を取り入れながら、国試的にも重要な疾患の病因・病態・治療の習得を目指す。	木下美咲	376～405	講義(AL)
11/4	火	1	水疱症	自己免疫性水疱症（尋常性天疱瘡、水疱性類天疱瘡など）について、症状、検査、病変形成機序などを解説するとともに、自己免疫疾患に対する理解を深める。	福山雅大	237～267　資料配布	講義
11/7	金	2	膿皮症・抗酸菌症	皮膚は外界に直接接する臓器であるため、多彩な細菌感染症が出現する。ブドウ球菌、溶連菌、結核菌などによる皮膚細菌感染症を取り上げて解説し、鑑別診断や治療法の選択を出来るようになることを目標とする。	福田知雄	264～267、546～555 資料配付	講義
11/13	木	5	再建外科（２）	頭頸部の再建、顔面神経麻痺の再建：頭頸部腫瘍の切除後に生じる組織欠損に対する再建や顔面神経麻痺に対する再建は機能、整容両面の結果に直結する重要な再建であり、それぞれの治療目的や手術手技を解説する。	成田圭吾	資料配付	講義
11/18	火	2	黄色ブドウ球菌－ 特にMRSA	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌（MRSA）の定義およびその性状を理解する。MRSAによる院内感染症の診断、治療、予防を学ぶ。黄色ブドウ球菌による化膿性皮膚感染症、熱傷様皮膚症候群、トキシックショック症候群を理解する。	花輪智子	資料配付	講義
11/21	金	1	創傷治癒	創傷の治癒過程、難治性潰瘍、熱傷、褥瘡：褥瘡や糖尿病性壊疽は近年増加しつつある疾患のひとつであり、国家試験でも多く出題されている。これらの疾患の要因や、治療のために必要な創傷治癒の基礎学的知識を中心に、創傷管理の具体的な方法を含めて解説する。	大浦紀彦	資料配付	講義
11/26	水	2	紅斑・紫斑、肉芽腫症、膠原病	原発疹の中で、紅斑と紫斑は多くの皮膚疾患で出現する重要な発疹である。紅斑と紫斑の相違を説明するとともに、代表的な疾患を取り上げて解説する。また膠原病については、エリテマトーデス、皮膚筋炎、全身性強皮症を中心に解説する。各疾患の主に皮膚症状について解説し、鑑別診断ができるようになることを目標とする。	倉田麻衣子	139～149、163～218 資料配布	講義
11/26	水	5	ウイルス感染症	ウイルス感染症には全身に皮疹を生じ、発熱やリンパ節腫脹などの諸症状を伴うタイプと、限局性の皮膚病変を生じるタイプに大別できる。今回は、限局性の皮膚病変を生じるウイルスとその皮膚症状を概説し、鑑別診断ができるようになることを目標とする。	水川良子	487～498　資料配布	講義
12/1	月	3	性感染症・真菌症	性行為で伝播する梅毒、陰部ヘルペス、尖圭コンジローマ、疥癬、HIV感染症（AIDS）などの皮膚症状についてその特徴を解説する。又、白癬症やカンジタ症について述べる。	早川順	532～545、556～561 資料配布	講義
12/5	金	5	悪性腫瘍 （皮膚科手術のポイント）	皮膚悪性腫瘍のうち、悪性黒色腫、有棘細胞癌、基底細胞癌等とその関連疾患につき概説する。それぞれの腫瘍における臨床所見の特徴、検査、治療（手術と化学療法）について理解を深め、鑑別診断ができるようになることを目標とする。	千葉由幸	444～453　資料配布	講義
12/10	水	1	美容外科・レーザー	美容皮膚科・外科、レーザー治療：美容外科では、身体外表の正常形態を審美的に向上させることを目的としている。一方、加齢による外見的変化を元に戻す、アンチエイジングもこの領域に含まれる。近年、需要の高まっている医療手段を用いた美容に関して解説する。	今村三希子	資料配付	講義

年度	2025年度	学年	3年
学科目	泌尿器科学	科目ナンバリング	FME-3F23
単位	1単位	コマ数	20コマ
科目責任者	福原浩　教授		
担当教員	教　授　福原浩 教　授　多武保光宏 その他の担当教員は講義予定表に記載 上記担当教員については、主として医学部付属病院において、医師として勤務（実務経験）する教員が講義・実習を担当しており、実際の医療現場における最新の知見に基づく教育内容を受けることができる。		

A．教育の基本方針	杏林大学医学部教育における到達目標の達成に向けて、４年生から開始される臨床実習への準備教育と位置づけられるコースである。講義では、臨床医学講義で学んだ各疾患についての知識を診断に応用するため、副腎、腎臓、尿路、男性生殖器の臓器に関して学ぶ。具体的には、解剖学、生理学、生化学、病理と言った基礎医学を復習しながら、これらの臓器系に関しての臨床医学を学ぶ。 以下を基本方針とする。 １．副腎・腎尿路性器系の基礎的知識の修得 ２．各疾患理解の基本となる解剖学や生理学的検査、画像診断について学習し、その後各疾患について理解を深める。特に全身との関わりの中で各疾患を理解できるようにする。 ３．医の倫理、医師の使命の自覚を培うことを目標とし、本領域の医学知識を兼ね備えた医師を育成する卒前教育を基本方針とする。
B．到達目標	臨床実習において、診療チームの一員として学生に求められる役割を果たすことができるために、腎尿路性器系の症候と病態の基本を身につける。 また、実際の患者に接して医療面接と身体診察を行う際に必要な診療技能と医療者としての態度を身につける。具体的には １．腎尿路性器系の形態を理解し、それぞれの基本的機能を述べることができる。 ２．腎尿路性器系の症候と病態について説明することができる。 ３．泌尿器科の診療体系は腫瘍学、腎臓病学、内分泌学、神経内科学、小児及び老年医学などと関連した領域を有する。どの分野においても医師として修得すべき基本的な腎泌尿器生殖器疾患の概念、病態、およびその診断に必要な検査法、治療法などを系統立てて理解し、具体的に述べることができるようにする。 【杏林大学医学部学生の到達目標との関連】 (1)-②,③,（2)-①,②,③,④,⑤,⑥,⑧,⑨,（4)-①,②
C．修得すべき能力	１. それぞれの主要症候から鑑別すべき疾患を的確に答えられる。 ２. 解剖学的知識から、泌尿器癌の転移形式を類推できる。 ３. 泌尿器疾患の手術療法の基礎を理解し、解剖学の知識でこれを説明できる様にする。
D．学習内容	泌尿器科疾患の基本を理解し、臨床の現場で応用できるようにする。 各項目・疾患については「講義内容」を参照。 なお、「検査・処置（1）尿検査」の授業では、演習中心のアクティブラーニング型授業を行う。 教科書の該当部分（16-23ページ）を事前に予習しておくこと。
E．実習・課外授業	１．実習　　なし　　２．課外授業　なし
F．準備学習の内容	事前にシラバスの「講義テーマ」や「講義内容」を読み、教科書や参考書にて予習すること。所要時間の目安：各コマ75分程度。
G．復習学習の内容	講義終了後、同じ日の内に教科書の関連ページを復習のこと。所要時間の目安：各コマ75分程度。
H．成績評価の方法・基準	１．試験の方針 泌尿器科疾患の病態、診断、治療の基礎知識の習得状況を確認する。 ２．試験の期日と実施方法 学期末に五択及び再生形式にて行う。 ３．評価法 試験結果によるが出席日数が所定の数に達しないものは受験できない。 ４．判定基準 進級判定試験で60点以上。 ５．フィードバック方法 試験終了後に模範解答を配布

Ⅰ．学習指導書

①教科書（学生が所持しなければならないもの）	病気が見えるvol.8腎・泌尿器　MEDIC MEDIA
②参考書Ａ（学生の所持をすすめるもの）	(A)LANGE medical book Smith ＆ Tanagho’s General Urology（18th edition） (A)標準泌尿器科学　第10版　医学書院 ※(R)：Remedial …　教科書の理解を助けるような補習的なもの (A)：Advanced　…　教科書より進んだ学習のためのもの
③参考書Ｂ（図書館等での利用をすすめるもの）	(A)Campbell-Walsh　Urology（12th edition） (A)ベッドサイド泌尿器科学　（改訂第４版）　南江堂

	※(R)：Remedial …　教科書の理解を助けるような補習的なもの (A)：Advanced　…　教科書より進んだ学習のためのもの

Ｊ．講義予定表

「添付資料」参照

2025年度　3年　講義予定表

【泌尿器科学】

月日	曜	時限	講義テーマ	講義内容	担当	教科書	授業形態
8/27	水	4	泌尿器科学総論 解剖	腎・尿路・男性性器の構造について、癌の転移形式や手術操作を理解する上で必要な部分を中心に解説。	福原浩	2-15, 262-264	講義
8/28	木	3	尿路感染症・ 性感染症	尿路感染症の病態、一般的な抗菌化学療法について解説後、それぞれの尿路性器感染症の診断と治療、性感染症、尿路結核、寄生虫症の診断と治療について解説する。	舛田一樹	248-261	講義
9/3	水	4	尿路結石	結石の発生機序・症状・診断・治療に付き解説。また結石の原因となる原発性副甲状腺機能亢進症、RTA、シスチン尿症についても解説。	多武保光宏	242-247	講義
9/3	水	5	症候	尿量・尿回数の異常、排尿痛、排尿障害、血尿、膿尿、色素尿、血精液症に付き解説し、泌尿器科的診察法・尿検査の方法にも言及。	原秀彦	44-49	講義
9/12	金	4	前立腺癌	前立腺癌の症状、診断、病期分類別治療法（手術療法、放射線療法、ホルモン療法、化学療法）について解説。またPSAの意義についても解説。	桶川隆嗣	280-288	講義
10/1	水	4	外傷・異物	腎・尿管・膀胱・尿道・性器外傷および異物について、診断・治療・合併症を中心に解説。	中村雄	348-349	講義
10/7	火	3	先天異常	尿路性器の発生と先天異常について基礎から臨床まで解説。尿管瘤、VURにも言及。	藤田直之	320-327, 332-335	講義
10/10	金	3	前立腺肥大症	下部尿路閉塞を来す前立腺肥大症を中心に、症状・診断・治療について解説。QOLを重視した治療に付き述べる。	舛田一樹	310-313	講義
10/20	月	3	副腎腫瘍	外科手術が必要になる原発性アルドステロン症、クッシング症候群、褐色細胞腫、incidentalomaに付き、術前診断、術前術中術後管理を含めて解説する。	北村盾二		講義
10/22	水	4	性分化異常	生殖腺分化異常、半陰陽について遺伝子異常との関わりを中心に解説	加藤司顯		講義
11/4	火	4	検査・処置（2） 画像診断、処置	泌尿器科に於ける画像診断を単なる質的診断にとどまらず、手術適応の決定のツールとして解説。主としてCT、MRI、超音波検査、排泄性尿路造影法について述べる。	福原浩	30-37,42-43	講義
11/19	水	4	腎盂・尿管癌、膀胱癌	腎盂・尿管・膀胱腫瘍の診断治療について、手術療法（尿路変更術を含む）、膀胱内注入療法、化学療法を含めて解説。	多武保光宏	271-279	講義
11/28	金	3	男性不妊症・ 勃起障害	男性不妊症の分類と治療法、勃起障害の診断、治療法及び持続勃起症の診断と治療法について解説する。	中村雄	336-345	講義
11/28	金	5	嚢胞性腎疾患	多発性嚢胞腎、腎嚢胞、海綿腎について病態、臨床症状、治療法について解説。また尿瘻についても解説。	中村雄	330-331	講義
12/3	水	3	検査・処置（1） 尿検査	教科書の該当部分を事前に予習し、演習中心のアクティブラーニング型授業を行う。	福原浩	16-23	講義(AL)
12/5	金	3	精巣腫瘍	精巣腫瘍の症状、診断、病期分類について解説し、手術療法、化学療法とその副作用、副作用対策としてのGCSFについて述べる。	桶川隆嗣	289-293	講義
12/5	金	4	腎腫瘍	腎細胞癌、腎血管筋脂肪腫、Wilms腫瘍の診断・治療・予後に付き解説。また分子標的治療薬についても解説。	桶川隆嗣	265-270	講義
12/8	月	3	神経因性膀胱と尿失禁,骨盤臓器脱	神経因性膀胱の分類、診断、治療、尿失禁の分類、診断、治療に付き解説し、夜尿症にも言及。また過活動膀胱の概念についても説明。また膀胱瘤、骨盤臓器脱にも言及する。	金城真実	306-309, 314-319	講義
12/11	木	3	下部尿路機能障害	下部尿路機能障害の病態を蓄尿と排尿に分け、また男性、女性に分けて解説。それぞれの診断と検査についても言及。	舛田一樹	294-305	講義
12/12	金	3	陰茎腫瘍、精索静脈瘤、精巣捻転症	陰茎癌及び陰茎癌の前癌状態について治療法を含めて解説し、さらに外性器疾患として陰嚢水腫、精索静脈瘤、精巣捻転について十分な鑑別ができるように解説。	多武保光宏	293, 328-329, 346-347,350-352	講義

年度	2025年度	学年	3年
学科目	産科婦人科学	科目ナンバリング	FME-3F26
単位	2単位	コマ数	24コマ
科目責任者	教室主任　小林陽一　教授		
担当教員	教　授　　小林陽一、谷垣伸治、鈴木淳（杉並病院）、森定徹 准教授　　田嶋敦 講　師　　松本浩範、百村麻衣 学内講師　　澁谷裕美、松島実穂 助教　　渡邉百恵 助教（任期）小林千絵、北村亜也、石川美佳、高屋敷瑞穂 客員教授　　高松潔 その他の担当教員は講義予定表に記載 上記担当教員については、主として医学部付属病院もしくは杏林大学医学部付属杉並病院において、医師として勤務（実務経験）する教員が講義・実習を担当しており、実際の医療現場における最新の知見に基づく教育内容を受けることができる。		

A．教育の基本方針	産婦人科領域における医学的知識を系統的に修得せしめる。
B．到達目標	1.　妊娠・分娩・生殖の生理に精通し、これらの領域の疾患について診断法と治療法を述べられる。 2.　婦人科良性・悪性疾患の病態及び女性医学について理解し、それらの診断・治療法をあげることができる。 【杏林大学医学部学生の到達目標との関連】 (1)-②,③,（2)-①,②,③,④,⑤,⑥,⑧,⑨,（4)-①,②
C．修得すべき能力	1.　妊娠に伴う生理学的変化を把握し、妊娠合併症及び合併症妊娠の病態と周産期管理の概略を説明することができる。 2.　胎児の発達生理を理解し、病態と診断、管理について説明できる。 3.　分娩・産褥の正常経過及び異常について理解し、治療を述べることができる。 4.　女性性器の基本的解剖を説明できる。 5.　超音波断層法やMRIなどの画像診断における子宮や卵巣の正常・異常所見を説明できる。 6.　コルポスコピーや細胞診・組織診所見をみて診断を推定することができる。 7.　月経周期に関連するホルモン値について、その意義や相互関係、異常について説明ができる。 8.　婦人科良性・悪性疾患の鑑別診断、治療法について説明ができる。
D．学習内容	妊娠の生理、胎児の発達生理、産科管理と胎児機能検査を学習する。正常妊娠・分娩、合併症妊娠と妊娠合併症、分娩周辺期の異常（産褥出血を含む)、出生前診断についても学習する。 婦人科領域では子宮頸部・体部・卵巣などにおける各疾患について、分類、診断、治療について学習する。また生殖医療や更年期障害などホルモンに関連する生理・病態について基本事項を学習する。 アクティブラーニング（AL）に関して、「妊娠中期・後期の異常 演習」では協働型ケーススタディを行う．2024年9月2日及び9月27日に疾患概略を講義し、各講義の最後に症例を提示する。学生は演習の時間までに鑑別診断と診断に必要な検査、対応をまとめ、討議ができる準備をしておくことが求められる。 「子宮頸部悪性腫瘍」のALでは、症例検討形式で学生間での議論についての発表機会を設けたり、実際の臨床における処置について討議を行う。
E．実習・課外授業	1．実習　　なし 2．課外授業　　なし
F．準備学習の内容	事前にシラバスの「講義テーマ」や「講義内容」を読み、教科書や参考書、必要に応じ文献検索等により関連事項についての情報を得たうえで、これに目を通しておくこと（所要時間の目安：各コマ75分程度)。
G．復習学習の内容	講義で配布されたプリントや練習問題の解答および教科書の関連ページを熟読して復習すること（所要時間の目安：各コマ75分程度)。
H．成績評価の方法・基準	1．試験の方針 産婦人科一般に関して十分な知識を有しているか否かを見る。 2．試験の期日と実施方法 定期試験：学期末に筆記（五者択一方式および再生形式）に て行う。 再試験：学年末に筆記（五者択一方式および再生形式）にて行う。 3．評価法 マークシートの採点による。 4．判定基準 100点満点で60点以上をもって合格とする。 5．フィードバック方法 試験終了後に模範解答を配布

I．学習指導書

①教科書（学生が所持しなければならないもの）	標準産科婦人科学　医学書院

②参考書Ａ（学生の所持をすすめるもの）	(R) 1 ）NEWエッセンシャル産科学・婦人科学　医歯薬出版 (R) 2 ）講義録　産科婦人科学　メジカルビュー社 (R) 3 ）新しい産科学　名古屋大学出版会 (A) 4 ）Williams Obstetrics　Appleton-Century-Crofts ※(R)：Remedial …　教科書の理解を助けるような補習的なもの (A)：Advanced　…　教科書より進んだ学習のためのもの
③参考書Ｂ（図書館等での利用をすすめるもの）	なし ※(R)：Remedial …　教科書の理解を助けるような補習的なもの (A)：Advanced　…　教科書より進んだ学習のためのもの

Ｊ．講義予定表

「添付資料」参照

2025年度　3年　講義予定表

【産科婦人科学】

月日	曜	時限	講義テーマ	講義内容	担当	教科書	授業形態
8/26	火	2	妊娠の生理と初期の異常（１）	妊娠の成立、流産・早産・正期産・過期産の定義、胎盤の構造および役割、胎児およびその付属物（臍帯、胎盤、卵膜）を中心として、妊娠の生理について解説する。また、胎児期の臓器の発達や各臓器の機能の発育状態を概説。特に胎児ー胎盤系における循環動態を新生児の血液循環動態と比較して講義する。重症妊娠悪阻や切迫流産、流産、異所性妊娠等の、妊娠初期の異常についても解説する。	田嶋敦	標準産科婦人科学336-371,　483-486	講義
9/1	月	5	妊娠中期・後期の異常（１）	妊娠中期と後期に起こる産科異常及び頻度の高い妊娠合併症（糖尿病合併妊娠を含む糖代謝異常合併妊娠，妊娠高血圧症候群，胎児発育異常）の診断と治療、予後に関して講義する。	尾坂真	標準産科婦人科学385-442	講義
9/2	火	2	分娩監視、胎児機能評価	分娩監視装置等を使用した周産期管理の方法、またハイリスク妊娠・分娩の管理についても学習する。	高屋敷瑞穂	標準産科婦人科学543-549	講義
9/5	金	3	妊婦健診、母子保健、産褥	妊婦健診の必須である検査項目や其々の正しい検査方法や施行理由について説明する。さらに、妊娠の各時期に応じた留意点や、正常な経過を逸脱した際の対処について解説する。産褥とは妊娠、分娩によって変化した母体が再び非妊時の状態に戻るまでの期間をいう。本講義では産褥の生理的変化について解説する。また、子宮復古不全、産褥熱、乳腺炎、産褥精神病、血栓性静脈炎など産褥期の異常についても解説する。	北村亜也	標準産科婦人科学487-498,602-608,655-670	講義
9/5	金	5	妊娠中期・後期の異常（2）	妊娠中期と後期に起こる産科異常及び頻度の高い妊娠合併症（多胎妊娠、切迫早産、頚管無力症など）の診断と治療、予後に関して講義する。	西尾南紗	標準産科婦人科学374,375, 398-407, 409-416	講義
9/24	水	3	妊娠中期・後期の異常（3）	妊娠中期と後期に起こる産科異常及び頻度の高い妊娠合併症（多胎妊娠，糖尿病合併妊娠を含む糖代謝異常合併妊娠，妊娠高血圧症候群，胎児発育異常，切迫早産）の診断と治療、予後に関して講義する。	宋吉和	標準産科婦人科学417-442,462-465	講義
9/26	金	3	妊娠の生理と初期の異常（２）	妊娠の成立、流産・早産・正期産・過期産の定義、胎盤の構造および役割、胎児およびその付属物（臍帯、胎盤、卵膜）を中心として、妊娠の生理について解説する。また、胎児期の臓器の発達や各臓器の機能の発育状態を概説。特に胎児ー胎盤系における循環動態を新生児の血液循環動態と比較して講義する。重症妊娠悪阻や切迫流産、流産、異所性妊娠等の、妊娠初期の異常についても解説する。	石川美佳	標準産科婦人科学336-371,　483-486	講義
9/29	月	3	分娩監視、胎児機能評価　演習	分娩監視、胎児機能評価の知識の整理のため、症例検討を行う。	田嶋敦	標準産科婦人科学543-549	講義(AL)
10/6	月	4	分娩の管理と異常（1）	正常分娩の経過と内診や分娩監視装置等を使用した管理の方法、児の正常な娩出方法とその介助法に関しても学習する。またハイリスク分娩の管理について も学習する。	石川美佳	標準産科婦人科学571-579	講義
10/6	月	5	合併症妊娠	妊娠・出産に影響を及ぼす婦人科疾患、血液疾患、心血管疾患、腎泌尿器疾患、消化器疾患、呼吸器疾患、甲状腺疾患、自己免疫性疾患、精神疾患、感染症について講義する。	高屋敷瑞穂	標準産科婦人科学447-462, 465-482	講義
10/8	水	5	妊娠中期・後期の異常　演習(1)	妊娠中期・後期の異常 でとりあげた疾患について、症例検討を行う	谷垣伸治	標準産科婦人科学385-442	講義(AL)
10/21	火	3	分娩の管理と異常（2）	これまでの講義で分娩の生理を学んだ上で、正常の経過から逸脱した場合の分娩管理について学習する。	松島実穂	標準産科婦人科学550-570	講義
10/27	月	3	子宮頸部悪性腫瘍	子宮頸部にできる悪性腫瘍とその前がん病変について病態、病理、症状、進展様式、診断法、治療等について解説する。またHPVは頸がんの原因ウイルスであるので、HPVについても言及する。	森定徹	標準産科婦人科学36-38, 41-43, 119-131, 275-280, 323, 327-328	講義(AL)
10/31	金	4	卵巣腫瘍（良性）	卵巣良性腫瘍の症状や組織分類ならびに診断方法や治療について病理・画像所見も含め解説する。また卵巣の構造や解剖学的所見についても解説する。	松本浩範	標準産科婦人科学161-186のうち良性腫瘍の部分、329-330	講義
11/12	水	4	性感染症	淋病、梅毒、クラミジア感染症、性器ヘルペス、尖圭コンジローマ、腟トリコモナス、外陰腟カンジダ症、AIDS等についての疾患を説明する。	渡邉百恵	標準産科婦人科学116-117, 131-133, 159-160, 247-266, 274	講義
11/17	月	3	子宮内膜症、外陰・腟疾患	子宮内膜症および子宮腺筋症の、病態、症状、診断、治療について解説する。また外陰・腟疾患については、外陰癌、腟癌を中心に解説する。	百村麻衣	標準産科婦人科学34-36, 109-115, 194-204, 244-255, 331	講義
11/18	火	3	卵巣悪性腫瘍	卵巣悪性腫瘍の組織分類と悪性度、進展様式と診断法について解説する。さらに治療については、上皮性腫瘍と胚細胞腫瘍に分けて解説する。卵巣腫瘍の病理組織像についても解説する。	鈴木淳	標準産科婦人科学39-40, 161-186, 281-284, 289-301, 317-322, 324-327, 329-330	講義
11/19	水	3	良性子宮腫瘍と婦人科手術	婦人科腫瘍の中で最も遭遇する機会の多い子宮筋腫の病態、診断、治療を中心に、子宮腟部びらんや頸管・内膜ポリープなど、他の良性子宮疾患についても概説する。また、婦人科手術は主に腹式、腟式、内視鏡下手術に大別され、各々の術式に対し、疾患および解剖をふまえ解説する。	澁谷裕美	標準産科婦人科学118, 133, 152-155, 237-243, 301-303, 315-316, 328-329, 331-332	講義
11/21	金	2	子宮体部悪性腫瘍	子宮体がんとその前がん病変（内膜増殖症）、さらに非上皮性腫瘍すなわち肉腫についても病態、病理、症状、進展様式、診断法、治療について解説する。また絨毛性疾患の疫学、診断、治療等を解説する。	小林陽一	標準産科婦人科学38, 134-151, 156-158, 205-214, 244, 322-324, 328, 332	講義
11/28	金	4	女性の性機能と月経	月経周期で最も基本的な月経および排卵までの過程、下垂体、卵巣、子宮の働き、またそれらに関わるホルモンについての講義を行い、正常な月経周期の流れを学ぶ。	淺野史男	標準産科婦人科学57-85, 267-273, 284-289, 304-306, 311-314	講義
12/1	月	2	女性医学　～加齢による卵巣機能と疾病リスクの変化～	女性の加齢に伴う変化としての更年期障害について、定義、概念、治療について解説する。	高松潔	標準産科婦人科学215-236,　313	講義
12/2	火	3	性分化	男女それぞれへの性分化の決定因子と分化の仕組みに関して講義する。また、染色体異常や内分泌的な異常による性分化異常疾患に関して概説する。	澁谷裕美	標準産科婦人科学20-33, 328, 330-331	講義

2025年度　3年　講義予定表

【産科婦人科学】

月日	曜	時限	講義テーマ	講義内容	担当	教科書	授業形態
12/9	火	3	妊娠中期・後期の異常　演習(2)	妊娠中期・後期の異常でとりあげた疾患について、これまでの講義で得た知識を用い症例検討を行う。	谷垣伸治	標準産科婦人科学 374,375, 398-407, 409-442,447-482,487-498,543-579	講義(AL)
12/9	火	4	不妊症	不妊症の管理として原因となる疾患の診断・治療方法を解説したのち、一般不妊治療と高度生殖医療に関して説明する。また不妊治療に用いる薬剤の薬理作用、使用方法、合併症に関して解説する。さらに最近のトピックスに関しても言及する。	橋本志歩	標準産科婦人科学86--108, 306-310, 330	講義

年度	2025年度	学年	3年
学科目	臨床検査医学・輸血学	科目ナンバリング	FME-3F29
単位	1単位	コマ数	12コマ
科目責任者	大西宏明　教授		
担当教員	教　授　　大西宏明 准教授　　安戸裕貴 講　師　　大塚弘毅 助　教　　山﨑聡子 兼担教授　　岸野智則、滝智彦 兼担准教授　米谷正太 上記担当教員については、医学部付属病院において、医師として勤務（実務経験）する教員が主として講義・実習を担当しており、実際の医療現場における最新の知見に基づく教育内容を受けることができる。		

A．教育の基本方針	臨床検査・輸血療法の持つ意義、内容を理解させ、実践の場における臨床検査・輸血療法の適正かつ有効な利用のための基礎的な知識の習得を目標とする。特に臨床検査については、基礎医学において学んだ人体の構造および機能の理解に基づき、疾病における体内の構造・機能の異常の現れとして認識し、臨床医学科目で学ぶ様々な疾病の診断に役立てる能力を養う。
B．到達目標	臨床検査・輸血療法を適正に利用する能力を有する臨床医となるために必要な基本的な知識として、その原理、実施法、臨床的意義を系統的に理解し、述べることができる。また、臨床検査・輸血療法を有効に活用できるよう、効率的な検査計画と輸血療法の選択ができる。 【杏林大学医学部学生の到達目標との関連】 (1)-②,③，(2)-①,②,③,④,⑤,⑥,⑧,⑨，(4)-①,②
C．修得すべき能力	１．検査の意義、安全性、検査結果を用いた臨床判断の基本について説明できる。 ２．採血をはじめとする検体の適切な採取法、保存法、検査法について説明できる。 ３．血液学検査、生化学検査、一般検査、微生物検査、遺伝子関連検査、生理機能検査の基本とその解釈について説明できる。 ４．輸血検査の方法と結果の解釈、適正な輸血療法、および輸血の合併症について説明できる。
D．学習内容	総論では臨床検査全般にわたる概要（意義、重要性、注意点）を把握し、各論ではそれぞれの専門分野における具体的な検査内容、個々の検査の持つ意義、利用の仕方などを学ぶ。 ※アクティブラーニングの実施法：静脈採血および心電図の講義においては、アクティブラーニングを実施する。具体的には、講義を行った後、シミュレーターを使用して静脈採血および心電図装着について学生に体験させ、学生からのフィードバックをもとに、理解が不足している点について解説を追加する。
E．実習・課外授業	１．実習　　なし ２．課外授業　なし
F．準備学習の内容	事前にシラバスの「講義テーマ」や「講義内容」を読み、教科書や参考資料に目を通しておくこと。 所要時間の目安：各コマ75分程度
G．復習学習の内容	講義で配布されたプリントや練習問題の解答および教科書・参考書の関連ページを熟読して復習すること。 所要時間の目安：各コマ75分程度
H．成績評価の方法・基準	１．試験の方針 臨床検査の持つ意義を正確にとらえているかどうか、講義で学んだことが確実に理解できているかどうかを確認する。 ２．試験の期日と実施方法 本試験は夏季休暇前、再試験は期末に実施する。本試験、再試験とも筆記試験で、マークシート方式および再生形式を併用する。 ３．評価法 筆記試験の点数、学習態度および出席日数を考慮し、総合的に判断する。 ４．判定基準（○は重視、◎は非常に重視） 筆記試験…◎、学習態度…○、出欠…○ ５．フィードバック 試験は、解答及び点数をもってフィードバックする。 学習態度は、講義において気付いた点を教官が個別にフィードバックする。

Ⅰ．学習指導書

①教科書（学生が所持しなければならないもの）	高木康　監修　標準臨床検査医学第５版　医学書院
②参考書Ａ（学生の所持をすすめるもの）	(R) 金井正光編著　臨床検査法提要　金原出版 (R) 日本臨床検査医学会ガイドライン作成委員会編　臨床検査のガイドライン　JSLM2024. 宇宙堂八木書店 (A) 上田剛士著　内科診断リファレンス　医学書院 (R) 日本臨床検査標準協議会編　標準採血法ガイドライン（ＧＰ４－Ａ３）学術広告社 (R) 厚生労働省医薬食品局血液対策課編「輸血療法の実施に関する指針」（改訂版）及び「血液製剤の使用指針」（改訂版）日本赤十字社 ※(R)：Remedial …　教科書の理解を助けるような補習的なもの (A)：Advanced　…　教科書より進んだ学習のためのもの

③参考書Ｂ（図書館等での利用をすすめるもの）	(R) 黒川清監修　臨床検査データブック 2025-2026 医学書院 (R) 大西宏明他編　臨床検査ガイド2025改訂版　文光堂 (A) 清水勝監修　絵でみる輸血　医学書院 (A) 遠山　薫・張替秀郎編集　血液細胞アトラス　文光堂 (A) Linne J.J.&Ringsrud K.M. Clinical Laboratory Science Mosby (A) McClatchey K.D.編　Clinical Laboratory Medicine　Williams & Wilkins (A) McGowan-Jordan J., Simons A., & Schmid M.編 ISCN 2020: An International System of Human Cytogenetic Nomenclature. Karger ※(R)：Remedial …　教科書の理解を助けるような補習的なもの (A)：Advanced　…　教科書より進んだ学習のためのもの

Ｊ．講義予定表

「添付資料」参照

2025年度　3年　講義予定表

【臨床検査医学・輸血学】

月日	曜	時限	講義テーマ	講義内容	担当	教科書	授業形態
4/1	火	3	臨床検査総論	検査の性能（正確度、精密度、感度、特異度）、基準範囲、カットオフ値、境界値、パニック値、ROC曲線、検査前確率、検査後確率、尤度比など、臨床検査に関する基本的事項について解説する。	安戸裕貴	標準臨床検査医学P3～12＋プリント使用	講義
4/4	金	4	尿以外の一般検査の見方	髄液採取法（traumatic tap、禁忌、合併症）、髄液検査（色調、細胞数と細胞の種類、蛋白量、Glu、Cl）、便潜血反応（免疫法、化学的方法）、腹水および胸水検査（漏出液と滲出液）について学習する。	安戸裕貴	標準臨床検査医学P22～24, 278～284, 380～381＋プリント使用	講義
4/8	火	3	臨床微生物学	微生物検査において検体の質は検査結果に大きく影響を与えるため、適切な検体採取が感染症の診断・治療の第一歩となる。本講義では検体採取法から微生物検査の流れ及び検査の基本的な手法について概説する。	米谷正太、大西宏明	標準臨床検査医学P233～254+プリント使用	講義
4/22	火	3	静脈採血 （基礎棟5F学生実習室にて実施，通常と異なるので注意）	ガイドラインに基づいた標準採血法、採血の合併症とその予防法・対応法、検査結果に影響を与えるpre-analyticalな因子について解説した後、模擬腕を用いて採血の実技を体験させ、学生の理解度を把握する。	大西宏明、安戸裕貴、大塚弘毅、山﨑聡子	標準採血法ガイドライン+標準臨床検査医学P13～23, 378	講義(AL)
4/22	火	4	生理学的検査 （基礎棟5F学生実習室にて実施，通常と異なるので注意）	12誘導心電図検査、呼吸機能検査などの生理学的検査について解説した後、人体模型を使って心電図装着の実技を体験させ、学生の理解度を把握する。	大西宏明、安戸裕貴、大塚弘毅、山﨑聡子	標準臨床検査医学P319～341 ＋プリント使用	講義(AL)
4/24	木	3	遺伝子関連検査	遺伝子関連検査を理解するうえで必要な遺伝子や遺伝子解析の基本的な知識を復習し、臨床における遺伝子関連検査の重要性や現状について学習する。	大塚弘毅	標準臨床検査医学P308～314+プリント使用	講義
5/22	木	3	検査値と疾患	基本的な検査項目について、その基準範囲および疾患との関連を中心に解説する。	安戸裕貴	標準臨床検査医学P370～376+プリント使用	講義
6/2	月	4	生化学検査の見方	日常診療で用いられる一般的な血液生化学検査項目の一部を紹介し、各検査値の原理・意義と評価法について講義する。また、血液採取や保管上の注意点について解説する。	岸野智則	標準臨床検査医学P77～142より抜粋 ＋プリント使用	講義
6/3	火	4	輸血検査	輸血医学の基礎をなす血液型について概説した後、輸血検査の原理と実際について講義する。ABO、RhD、その他の血液型、交差適合試験、ミスマッチ等について解説する。	大西宏明	標準臨床検査医学P291～302＋プリント使用	講義
6/5	木	4	輸血療法	輸血に関する指針および法的規制に基づき、輸血の種類と適応、自己血輸血等につき概説する。また、輸血副反応（ABO不適合輸血、輸血後感染症、GVHD等）について概説する。	大西宏明	標準臨床検査医学P291～302＋プリント使用	講義
6/16	月	1	血液検査	血液細胞の分類とその量的・形態的特徴、および基本的な検査項目について概説する。形態的特徴についてはスライドで提示する。	滝智彦	標準臨床検査医学P303～308プリント使用	講義
6/16	月	4	超音波画像の見方	超音波検査の簡単な原理に触れた後、腹部臓器（主に肝臓・胆道・脾臓・腎臓・副腎・前立腺・膀胱）の超音波解剖と主な疾患を基に、超音波画像の見方を講義する。また、検査時の注意点について解説する。	岸野智則	標準臨床検査医学P351～360＋プリント使用	講義